

# 伊万里市住生活基本計画

【2018年度～2027年度】



住みたくなる、住み続けたくなる、  
安全・安心・快適な住環境の伊万里

～豊かな 伊万里らしい 住生活の実現～

平成 30 年 3 月

伊万里市



# 目次

## 第1章 計画策定の趣旨

1. 伊万里市住生活基本計画の趣旨	1
2. 計画の位置づけ	1
3. 計画期間	1

## 第2章 住生活をめぐる現状と課題

1. 伊万里市の現状	2
2. 住宅の状況	4
3. 住環境の特徴	7
4. 公営住宅等の概要	9
5. 住生活に係る市民意向	11
6. 住生活をめぐる課題	13

## 第3章 基本理念と基本目標

1. 基本理念	14
2. 基本目標	15
3. 基本施策	16
4. 施策の体系	19
5. 伊万里市住生活基本計画における目標指標の設定	21

## 第4章 基本的な施策

1. 基本施策-①多様な住生活を実現する仕組みづくり	22
2. 基本施策-②安全・安心な住宅・住環境の形成	27
3. 基本施策-③重層的な住宅セーフティネットの構築	32
4. 基本施策-④増加する空き家等への対応	34
5. 基本施策-⑤既存住宅の活用促進	36
6. 基本施策-⑥市営住宅の適正な管理	38
7. 基本施策-⑦伊万里市の歴史的景観の保全と活用	38
8. 基本施策-⑧自然と共生する住宅・住環境の形成	40
9. 基本施策-⑨災害に備えた住宅・住環境の形成	43

## 第5章 計画の推進に向けて

1. 市民ニーズの把握	45
2. 協働による推進	45



## 第1章 計画策定の趣旨

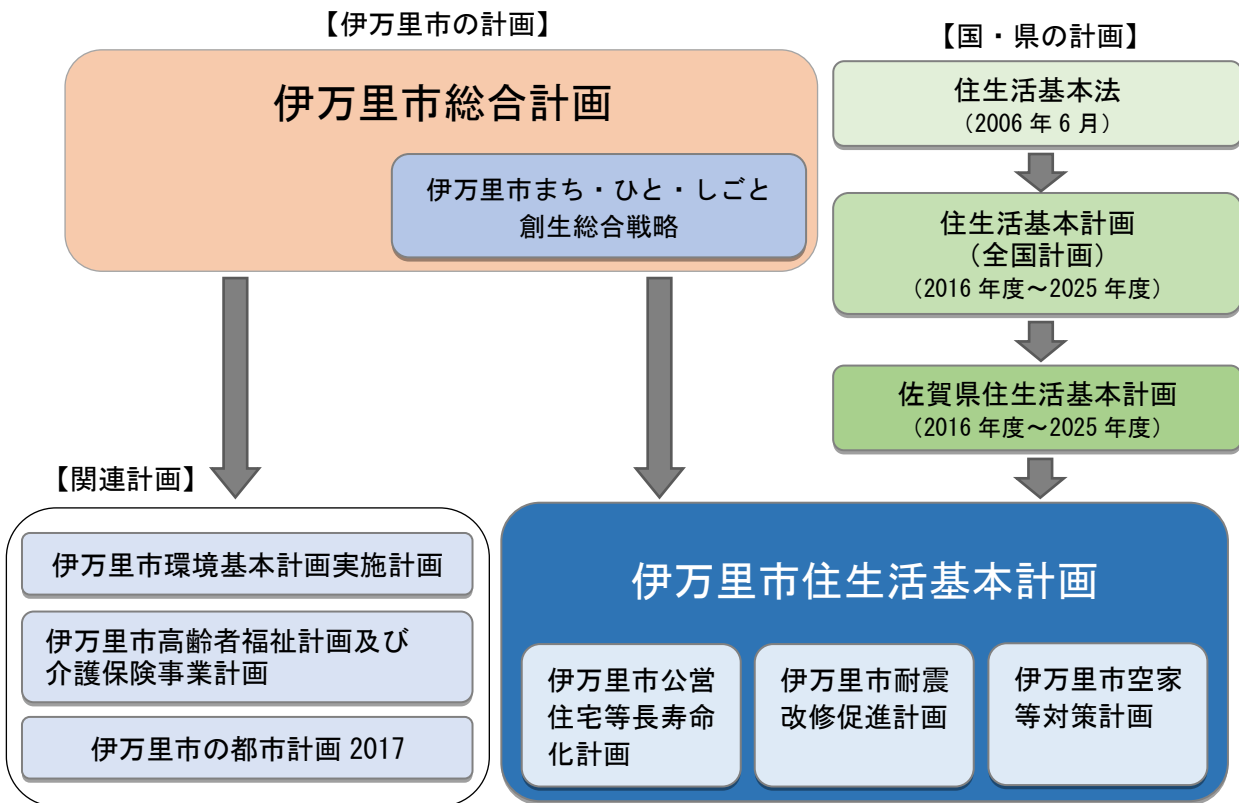
### 1. 伊万里市住生活基本計画の趣旨

本市では、市民の住生活の安定及び向上に関する施策を推進するため、平成20年3月に、住まいやまちづくりに関する施策を展開する上での基本方針となる「伊万里市住生活基本計画」を策定しました。

現計画の計画期間が2017年度（平成29年度）までであるため、今後の社会経済情勢の変化や施策の効果等を踏まえて計画の見直しを行い、2018年度（平成30年度）から10年間を計画期間とする「伊万里市住生活基本計画」を策定し、新たな住宅施策を推進することを目的とします。

### 2. 計画の位置づけ

本計画は、伊万里市総合計画を上位計画とする住宅関連部門の計画であり、その理念や目標、施策大綱等を踏まえて策定します。また、国の「住生活基本計画（全国計画）-2016年度（平成28年度）～2025年度-」及び佐賀県の「佐賀県住生活基本計画-2016年度（平成28年度）～2025年度-」との整合を図り、本市の特性に応じた総合的かつ計画的な住宅施策を推進するための計画として位置づけるものです。



### 3. 計画期間

本計画の計画期間は、2018年度（平成30年度）から2027年度までの10年間とします。

## 第2章 住生活をめぐる現状と課題

### 1. 伊万里市の現状

#### (1) 位置・地勢等

本市は、北部九州の西部に位置し、天然の良港伊万里湾を抱き、東西約 24.8km、南北約 20.9km の広がりを見せ、面積 255.25 km<sup>2</sup> で佐賀県面積の 10.5% を占めています。

古くは焼き物の積出港として栄え、今日では伊万里湾総合開発を軸に開発された大規模な臨海工業団地を中心に、造船業、I C 関連産業、水産加工業等が集積するなど、新たな産業と地場産業が調和した都市として発展しています。

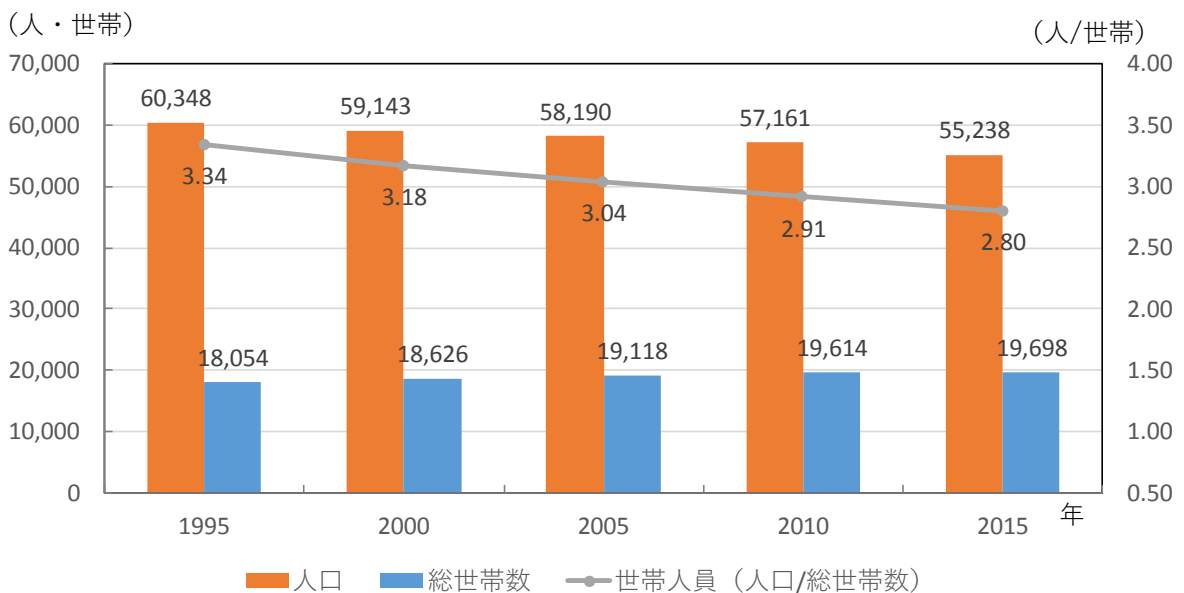


#### (2) 人口・世帯数の動向

2015 年（平成 27 年）国勢調査の結果によると、本市の人口は 55,238 人となっています。

1995 年（平成 7 年）から 2010 年（平成 22 年）にかけては、5 年ごとに約 1,000 人の人口減少で推移していましたが、2010 年（平成 22 年）から 2015 年（平成 27 年）の 5 年間は約 2,000 人の減少となっています。

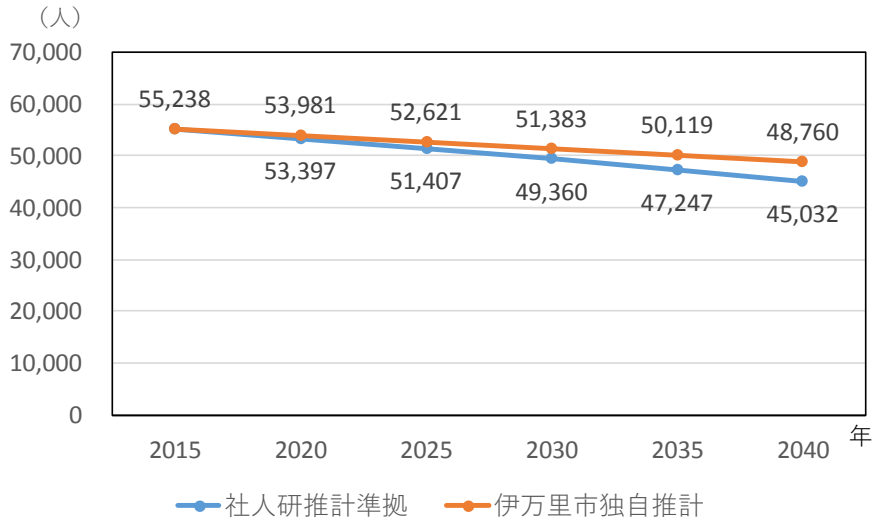
また、世帯数は核家族化により増加傾向にあります。世帯人員数は減少傾向にあり、2015 年（平成 27 年）の世帯数は 19,698 世帯、世帯あたり人員は 2.80 人となっています。



資料：各年 国勢調査

(3) 人口の将来予測

2015年（平成27年）に55,238人であった本市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計準拠によると、2040年には45,032人（10,206人減）になると予測がされていますが、本市独自推計による展望人口は、48,760人（6,478人減）となっています。

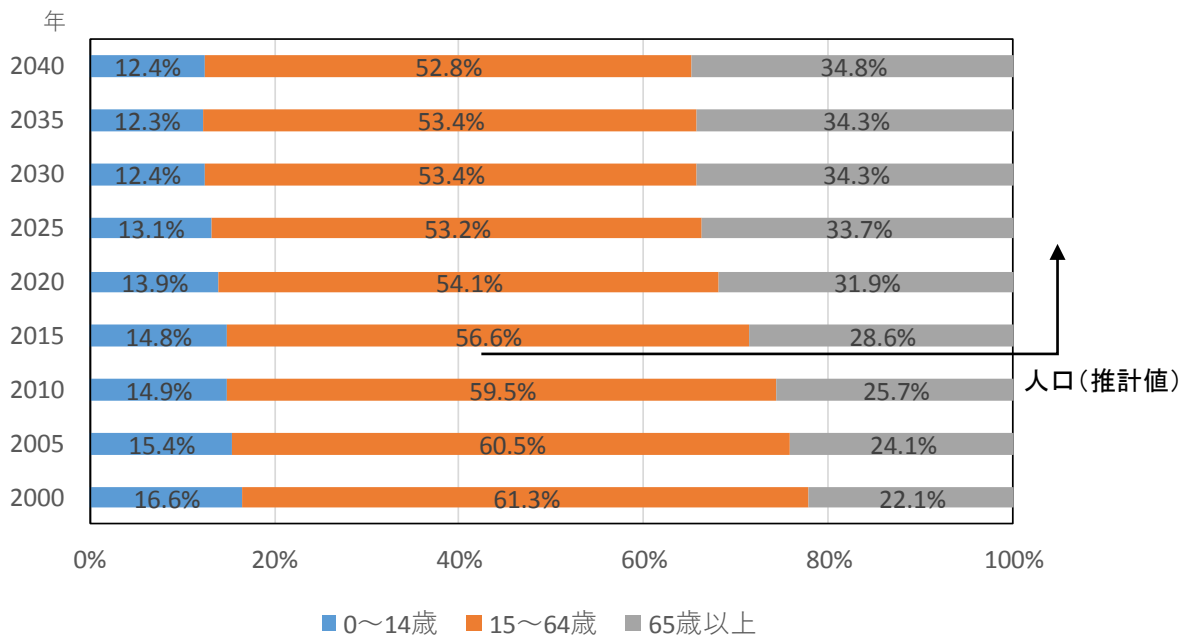


資料：平成27年 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、伊万里市独自推計

(4) 少子・高齢化の現状と将来予測

本市における少子高齢化は年々進行しており、2015（平成27年）時点で年少人口割合（14歳以下）の14.8%（7,945人）は、老年人口（65歳以上）の28.6%（15,901人）に対し約半分となっています。

また、総人口に対する老年人口の割合は今後拡大していき、2020年以降は約3分の1以上を占めるようになると予測されています。

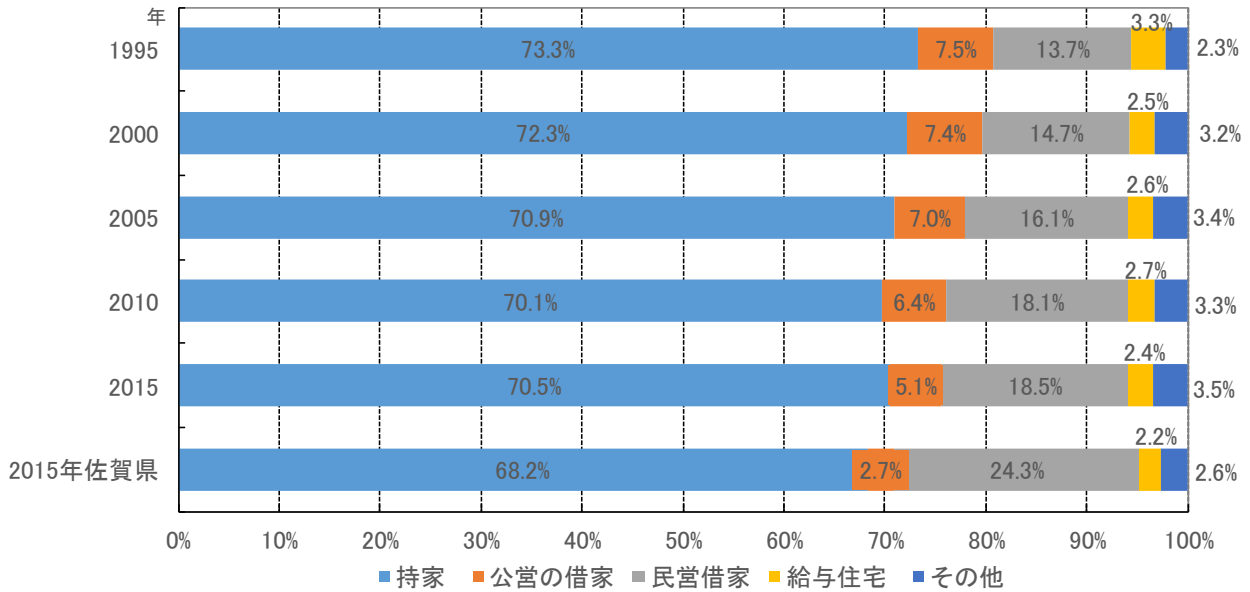


資料：2000年～2015年は国勢調査、  
2020年～2040年は国立社会保障・人口問題研究所

2. 住宅の状況

(1) 住宅の所有関係別世帯数

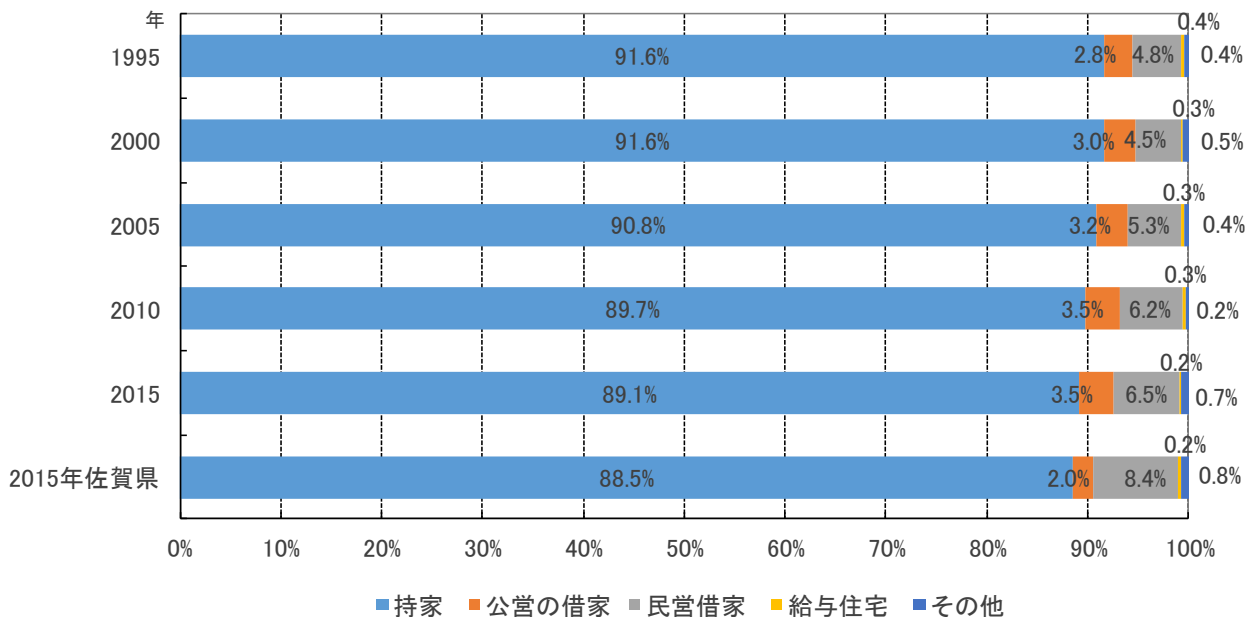
本市の住宅の所有関係の状況を見ると、2015年（平成27年）の国勢調査において持家世帯が70.5%（13,846世帯）、公営の借家・民営借家の世帯数がそれぞれ5.1%（999世帯）・18.5%（3,630世帯）となっています。持家の割合は直近10年間横ばいですが、公営の借家の割合が低下し、民営借家の割合が増加しています。佐賀県と比較すると、持家・公営の借家の割合は高く、民営借家の割合は低くなっています。



資料：各年 国勢調査

(2) 65歳以上世帯の住宅所有関係

高齢世帯の住宅の所有の関係の状況については、持家の割合が最も高く89.1%（8,811世帯）となっており、佐賀県と比較してもやや高くなっています。

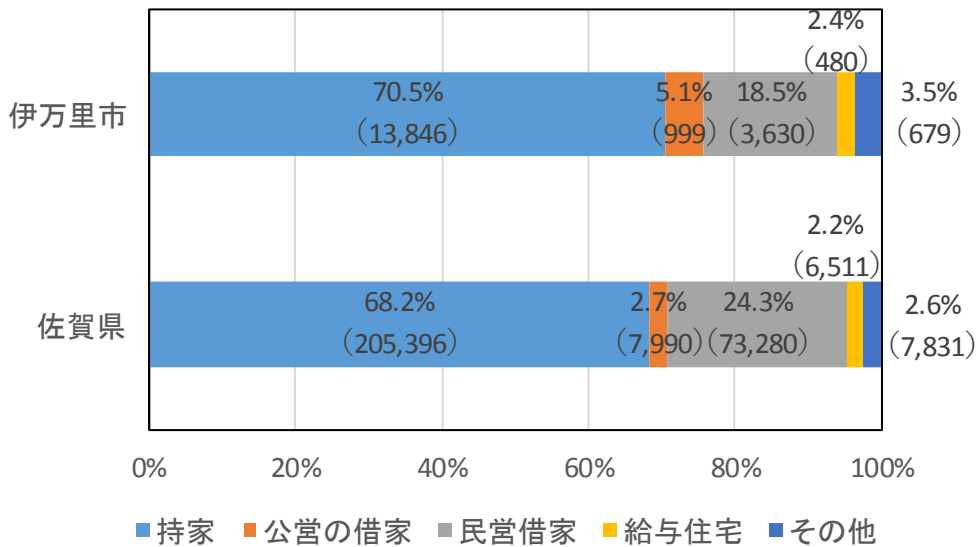


資料：各年 国勢調査



(3) 住宅の種類

持家が70.5% (13,846戸)、公営の借家が5.1% (999戸)、民営借家が18.5% (3,630戸)、給与住宅が2.4% (480戸) となっており、本市の総住宅数に占める民営借家数の割合は佐賀県と比較して5.8ポイント低くなっています。



資料：平成27年 国勢調査

(4) 空き家の状況

2013年(平成25年)の「住宅・土地統計調査」によると、本市の「“居住世帯なし”のうち“その他の住宅”」(いわゆる空き家)が1,910戸(総戸数の8.9%)あります。

また、「伊万里市空家対策計画(2017年(平成29年)策定)」によると「居住不可能な空家等」が185戸あるとされており、人口減少に伴う今後の増加が見込まれているため、さらなる適切な対応が求められています。

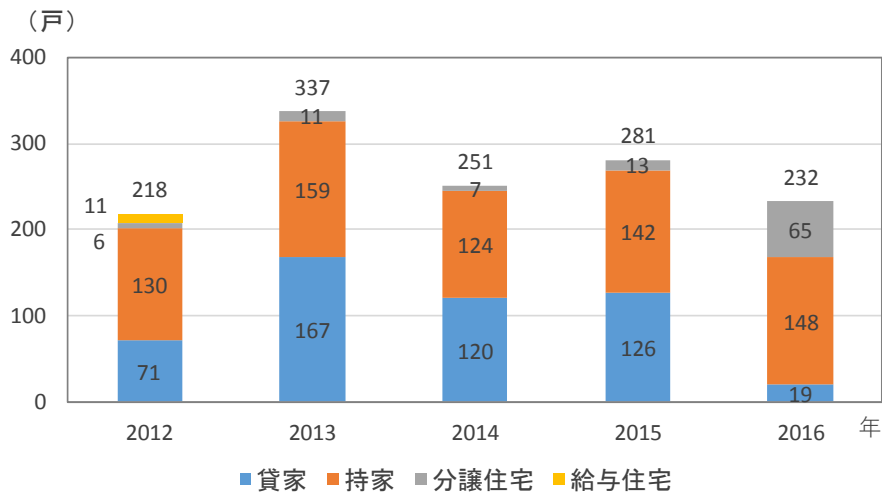
住宅総数	居住世帯あり	居住世帯なし							建築中の住宅
		総数	一時現在者のみ	空き家				その他の住宅	
				総数	二次的住宅	賃貸用の住宅	売却用の住宅		
21,550戸	18,820戸	2,730戸	80戸	2,630戸	80戸	580戸	60戸	1,910戸	20戸
100.0%	87.3%	12.7%	0.4%	12.2%	0.4%	2.7%	0.3%	8.9%	0.1%

※一時現在者: 普段は住んでおらず一時的に寝泊りしている者 / 二次的住宅: 別荘など

資料：平成25年 住宅・土地統計調査

(5) 住宅着工の動向

2012年度（平成24年度）から2016年度（平成28年度）の間に、1,300戸以上の住宅が着工され、そのうちおよそ半数が持家となっています。2016年度（平成28年度）は貸家の着工数の割合が従来と比較して大幅に減少し、分譲住宅の着工数の割合が増加しています。



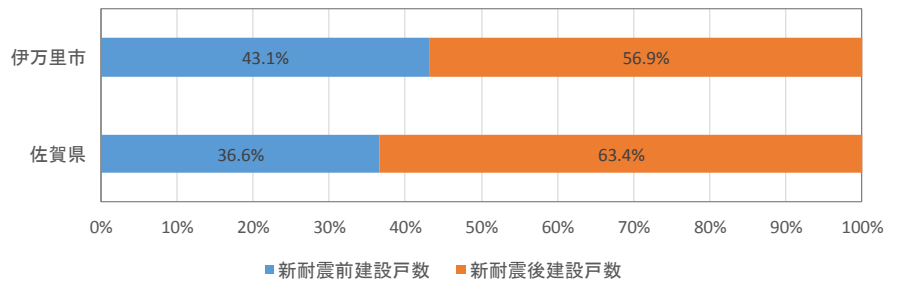
資料：各年 建築着工統計

(6) 住宅の築年数など

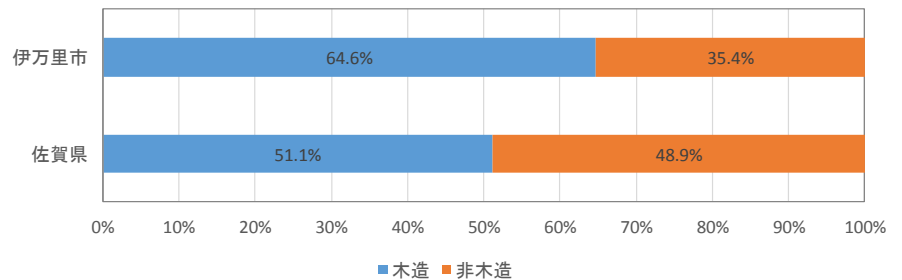
2013年（平成25年）住宅・土地統計調査によると、本市の住宅の43.1%は新耐震基準施行前の住宅であり、佐賀県と比較すると6.5ポイント高くなっています。

また、住宅総数のうち64.6%が木造住宅で、そのうち49.2%が新耐震基準の施行された1981年（昭和56年）以前に建設された住宅となっています。

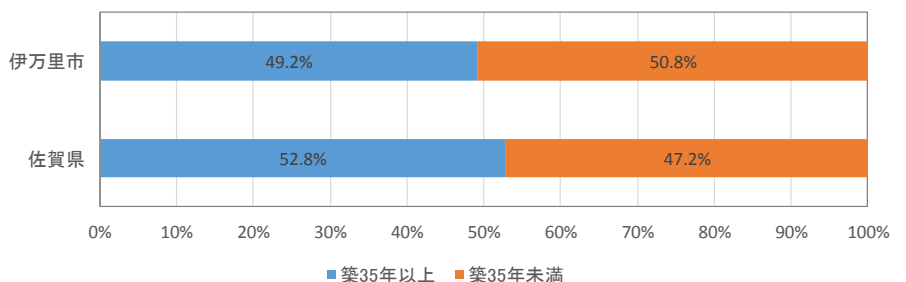
■ 新耐震基準施行前の住宅の割合



■ 木造・非木造住宅の割合



■ 1981年以前に建設された木造住宅の割合



資料：平成25年 住宅・土地統計調査

## 3. 住環境の特徴

## (1) 自然環境

本市の概ね6割は山林・原野、3割は田・畑が占めており、豊かな自然環境に恵まれています。また、唐津湾に注ぐ「松浦川・徳須恵川水系」と伊万里湾に注ぐ「伊万里川・有田川水系」など多くの川があり、生活用水、農業用水、工業用水などに利用されてきました。

一方、佐賀県内での災害履歴をみると、昭和30年代の前期は、伊万里市ではほぼ毎年風水害や土砂災害が発生しており、近年では、平成18年にも水害が発生しています。近年の異常気象による豪雨等を考慮すると災害への備えが求められます。

## ■伊万里市の風水害状況

分類	年月日	概要	被災状況
大雨	1967年7月9日	梅雨前線と熱帯低気圧の合流により2時間で152mmの降雨量に達した結果、伊万里川、有田川、松浦川の氾濫を引き起こし、国道202号、水田及び市街地にまで濁水が押し寄せた。	死者12名 被害総額120億円
	1990年7月1～2日	低気圧の東進により梅雨前線が活発化し、1時間の降水量が53mmに達した。	一部損壊家屋1棟 床上浸水家屋94棟 床下浸水家屋424棟
	2002年9月16日	寒冷前線による集中豪雨が起これ、1時間の降雨量が87mmとなった結果、土砂崩れが発生した。	死者1名 倒壊家屋1棟 損壊家屋1棟 床上浸水家屋14棟 床下浸水家屋229棟
台風	2006年9月16～18日	フィリピンの東海上で発生し、東シナ海を北上した台風13号により、17日の3時間、県のほぼ全域が暴風域に入ったと同時に、秋雨前線の活動が活発化したことで激しい雨となり、1時間で99mmの降雨量に達した。	死者3名
地すべり	1951年2月16日	山代町西分において、10日間で81mmとなった連続降雨により、標高325m付近から幅400m、奥行き1,000mにおよぶ崩壊性地すべりが起こった。	死者3名 全壊家屋27戸
	2006年9月16～18日	南波多町府招の国道202号脇の山で幅約100m、奥行き約170mの地すべりが発生した。	全壊家屋2戸 半壊家屋1戸

資料：平成29年 伊万里市地域防災計画

(2) 伝統的環境

かつて「伊万里津」と呼ばれた中心市街地は、肥前地方一帯で生産された陶磁器の積出港として栄え、“千軒在所”（家が千軒もあるところ）と呼ばれるほど陶器商人たちの白壁土蔵が建ち並ぶ街並みでした。また、古くからの陶磁器の生産地である大川内には伝統的な街並みが残されており、これらの伝統的な街並みや古民家等の再生、活用などが求められています。



■中心部の伝統的な街並み環境

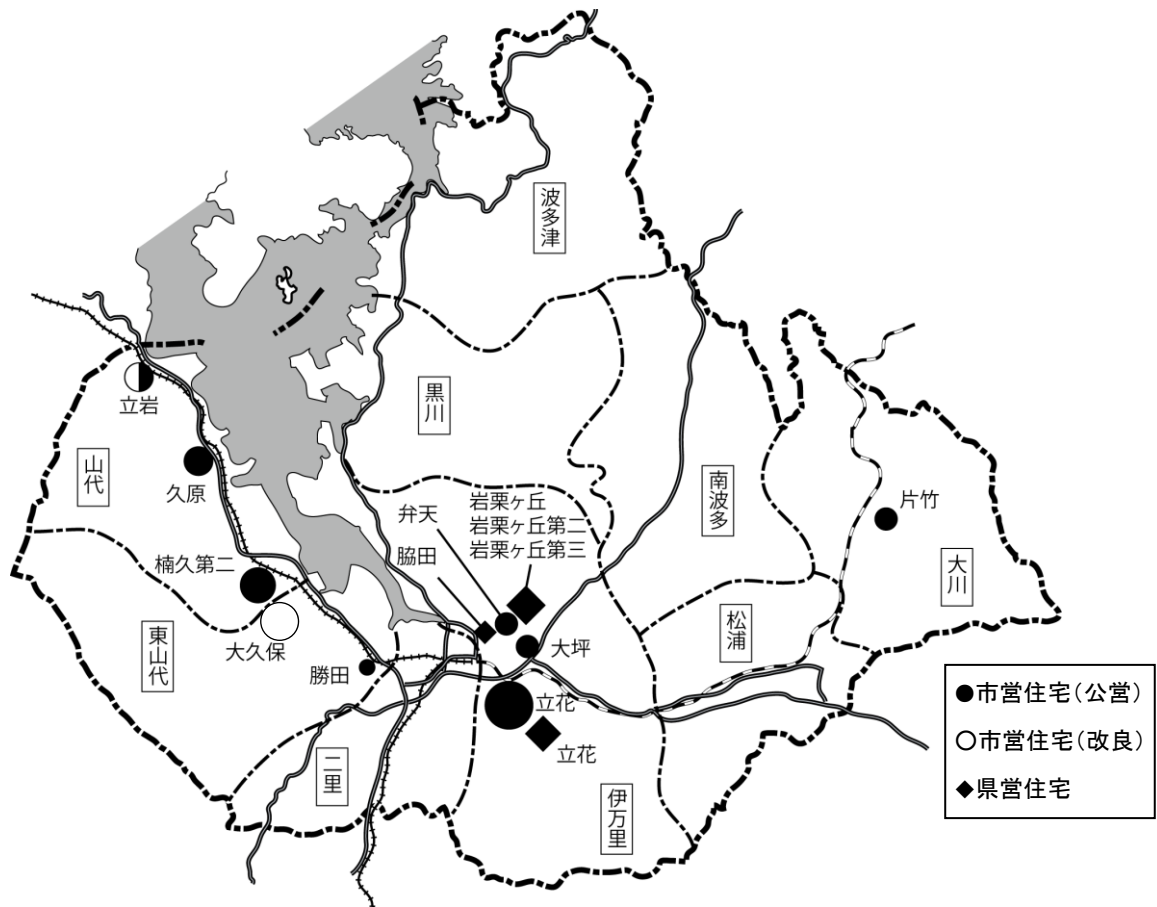


■大川内地区の伝統的な街並み環境

4. 公営住宅等の概要

本市の公営住宅等は、市営住宅が9団地713戸、県営住宅が5団地498戸整備されています。

(1) 公営住宅等の位置



※記号の大きさは戸数に比例

(2) 市営住宅一覧

団地名	所在地	建設年	敷地面積 (㎡)	構造	戸数 (戸)	住戸タイプ	用途指定	備考	
1	久原	山代町	S39 ~ S42	10,022.61	木平/簡平	63	2K/3K	なし	
2	勝田	東山代町	S43	2,503.87	簡平	18	2K	なし	
3	立花	立花町	S44 ~ S54	30,522.30	簡二/中耐	260	4K/3K/2K	第一種中高層住居専用地域	H27DID地区
4	楠久第二	山代町	S46 ~ S48 S52、S59	11,685.41	簡二/中耐	90	2DK	なし	
5	立岩	山代町	S48 ~ S50 S57	5,870.72	中耐	60	3K	なし	
6	大久保	東山代町	S53 ~ S56	14,615.35	中耐	108	3LK	なし	
7	大坪	大坪町	S63	2,832.99	中耐	32	2LDK	第一種住居地域	H27DID地区
8	弁天	脇田町	H3、H6	5,987.75	中耐	32	2DK	第一種中高層住居専用地域	H27DID地区
9	片竹	大川町	S43 ~ S56	12,122.64	木平/簡平	50	4K/4DK	なし	
合計						713			

木平:木造平屋建、簡平:簡易耐火平屋建、簡二:簡易耐火二階建・中耐:中層耐火構造

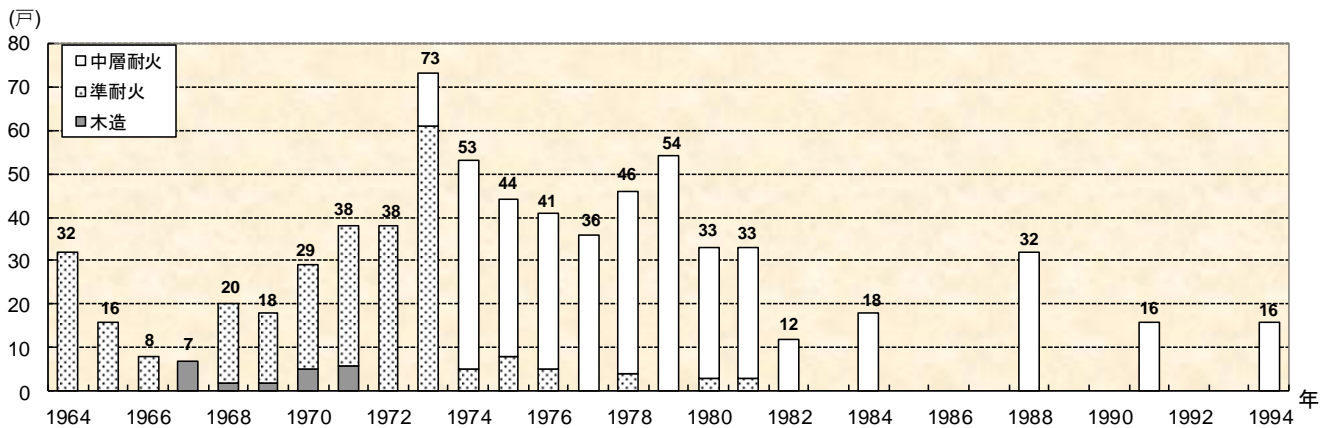
(3) 県営住宅一覧

団地名	所在地	建設年	敷地面積 (㎡)	構造	戸数 (戸)	住戸タイプ	用途指定	備考	
10	岩栗ヶ丘	大坪町	S43 ~ S57	6,432	簡平	38	3DK/3K/2DK	第一種低層住居 専用地域	H27DID地区
	岩栗ヶ丘第二	脇田町	S52 ~ S57	24,464	中耐	204	3LK/3DK	第一種中高層 住居専用地域	H27DID地区
	岩栗ヶ丘第三	脇田町	S60 ~ H元	9,486	中耐	88	3DK/2LDK	第一種中高層 住居専用地域	H27DID地区
11	立花	立花町	S48 ~ S51	12,142	中耐	138	3K/3DK	第一種中高層 住居専用地域	H27DID地区
12	脇田	脇田町	H7 ~ H8	2,941	中耐	30	3DK	第一種住居地域	H27DID地区
合計	—		—		498				

簡平:簡易耐火平屋建、中耐:中層耐火構造

(4) 市営住宅の年度別建設戸数(構造別)

本市の市営住宅は1964年(昭和39年)から1994年(平成6年)にかけて整備され、これ以降は市営住宅の新たな建設は行われていません。中でも、1971年(昭和46年)から1980年(昭和55年)の10年間に供給された市営住宅が456戸と、市営住宅全体(713戸)の6割以上を占めています。また、昭和40年代までは準耐火構造の市営住宅が主に整備され、それ以降は中層耐火構造が主となっています。



5. 住生活に係る市民意向

(1) 市民意向調査の概要

若者から高齢者まで安心して住み続けられる住まいづくり・まちづくりに向け、現在の住まいに対する評価や、将来の住まいに対する要望などを把握し、住宅施策の指針となる「伊万里市住生活基本計画」の策定に反映することを目的に、市民意向調査を実施しました。

本項では、課題抽出に際し特に重要な市民意向調査結果の設問と回答を抜粋し掲載しています。

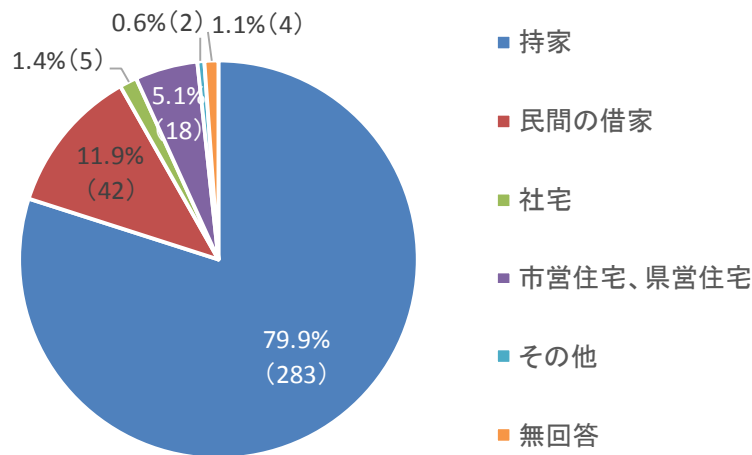
- 調査対象：900名の世帯主を無作為に抽出
- 調査方法：調査票の郵送配布・郵送回収
- 調査期間：平成29年11月14日（発送）～11月30日
- 本資料のサンプル数（平成29年12月10日回収分までを対象としている）

配布数	回答数	回収率
900	354	39.3%

「N」、「n」は、比率算出上の基数（標本数）を表す記号である。「N」は全標本数、「n」は該当数を表している。

(2) 市民意向について

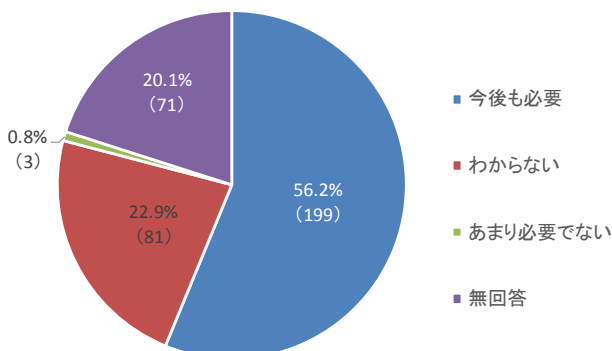
●現在の住まいの種類は、持家が約8割（79.9%）と、最も多い回答となっており、統計情報とほぼ一致しています。



(N=354)

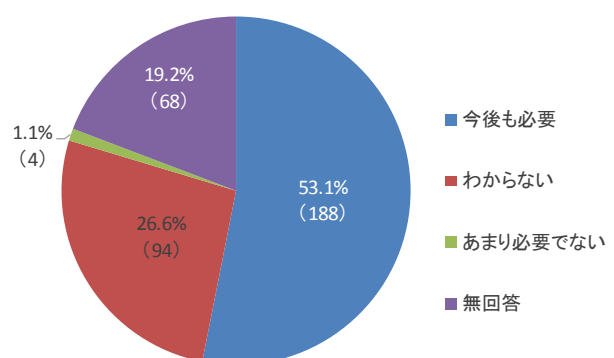
●伊万里市の住宅政策として、「空き家対策・活用」「風水害対策」等は半数以上が今後も必要と回答しています。

【市街地での空き家対策・活用】



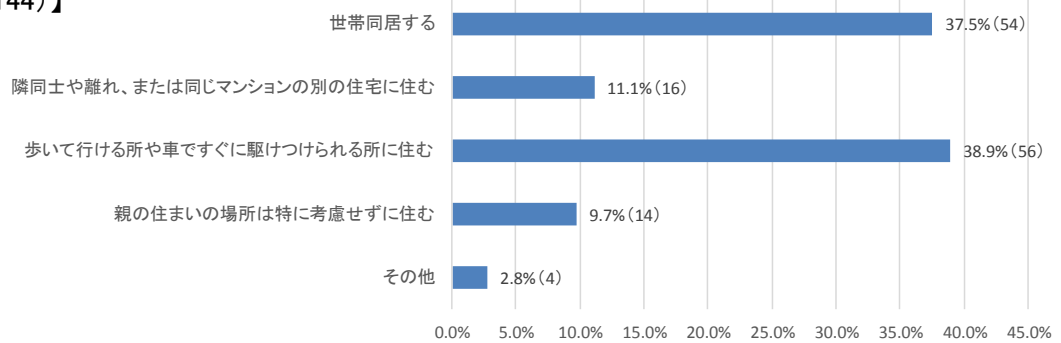
(N=354)

【風水害対策】

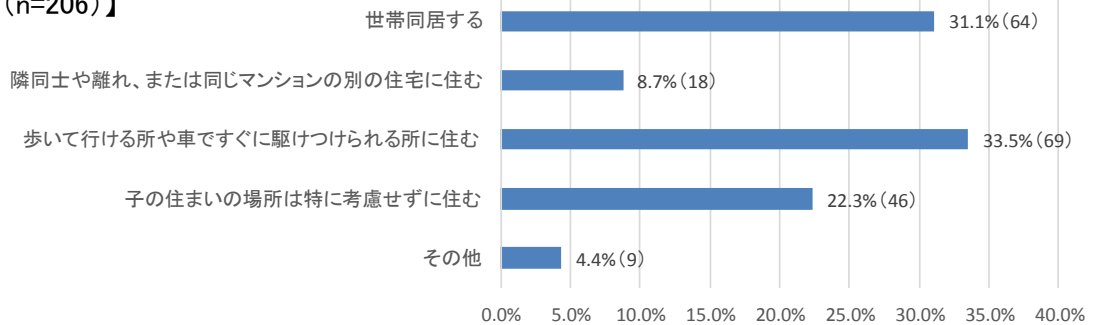


●若い世代、高齢の世代ともに、世帯同居や近居を親子の理想の住まい方としています。

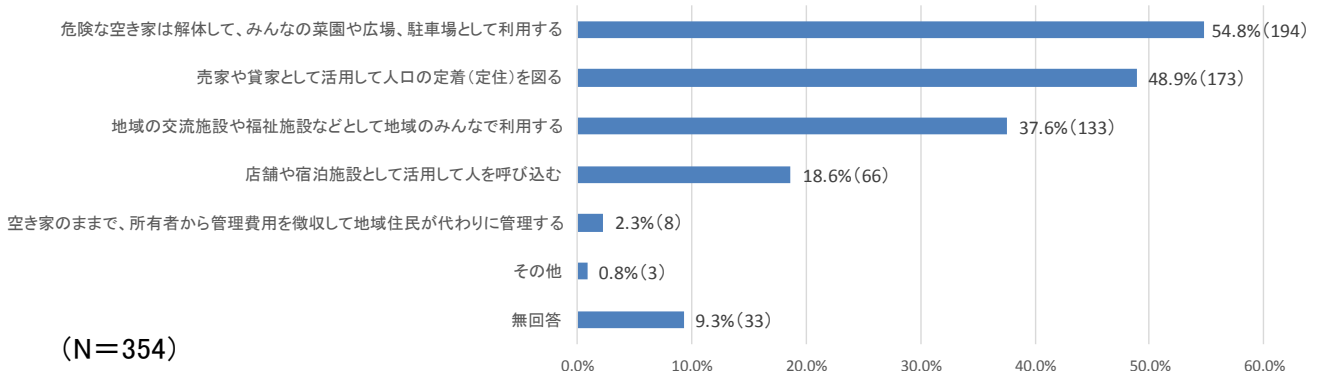
【若い世代(n=144)】



【高齢の世代(n=206)】

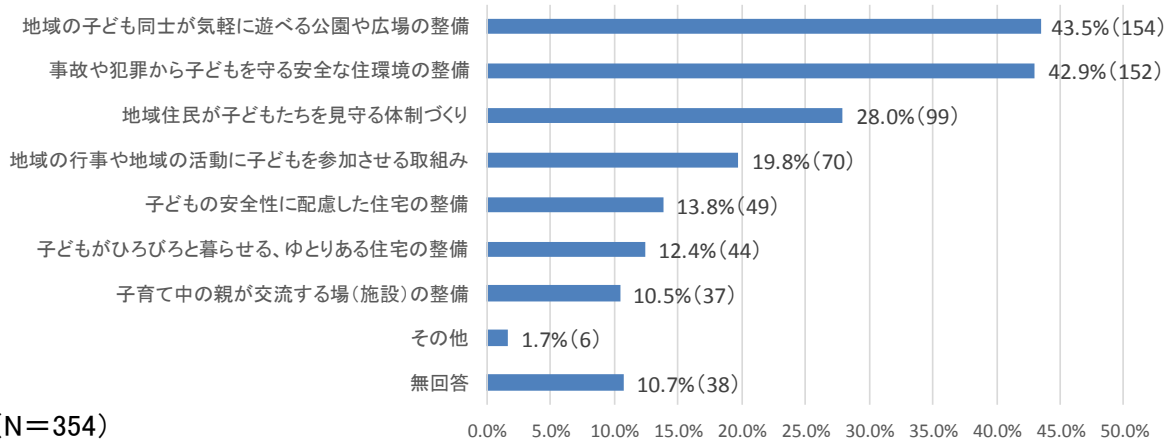


●住民主体の地域の空き家活用の取組みとして、「解体して菜園や広場、駐車場として利用する」、「売家や貸家として活用し人口の定着（定住）を図る」との回答が多くなっています。



(N=354)

●子育て世代が安心して暮らせるために必要な取組みは、「地域の子ども同士が気軽に遊べる公園や広場の整備」、「事故や犯罪から子どもを守る安全な住環境の整備」との回答が多くなっています。



(N=354)



## 6. 住生活をめぐる課題

本市の現状や市民意向調査の結果から以下の課題を抽出しました。

### 1. 活力が生まれ、誰もが安心して住み続けられる住環境整備が必要

#### ① 多様な居住ニーズへの対応

人口減少への対応策の一つとして移住・定住の促進に向けた住情報の発信や住宅取得支援等を推進する必要がある。

#### ② 安全・安心な住宅・住環境の整備

誰もが安心して住み続けられるよう、住宅や住環境の安全性を向上させる必要がある。

#### ③ 重層的な住宅セーフティネットの構築

高齢者や子育て世帯等の居住の安定を図るため、行政と民間が連携して住宅の整備や住まいの相談体制などのセーフティネットを構築する必要がある。

### 2. 既存住宅ストックを活用した良好な住宅づくりが必要

#### ④ 増加する空き家等への対応

空き家・空き地の適正な管理と利活用を促進するため、空き家等への適切な対応を図る必要がある。

#### ⑤ 既存住宅の活用促進

今後の増加が見込まれる中古住宅の活用を促進するため、住宅診断の普及やリフォームの支援等を図る必要がある。

#### ⑥ 市営住宅の適正な管理

公営住宅等長寿命化計画に基づき、市営住宅の計画的な改修及び維持管理を進める必要がある。

### 3. 伊万里市の歴史や自然環境に配慮した住宅づくり、まちづくりが必要

#### ⑦ 伊万里市の伝統的景観の保全と活用

本市の伝統的な町並みの保全や古民家の活用など、地域性を活かした住宅・住環境整備を図る必要がある。

#### ⑧ 伊万里市の自然と共存する住宅・住環境の整備

県産材を活用した住宅や省エネ住宅、長寿命住宅等の環境共生型の住宅の普及を図るとともに、農山漁村集落における住環境の整備を促進する必要がある。

#### ⑨ 災害に備えた住宅・住環境の整備

住宅の耐震化や室内安全対策の啓発はもとより、風水害対策など災害に備えた住環境整備を促進する必要がある。

## 第3章 基本理念と基本目標

### 1. 基本理念

伊万里市の総合計画及び、国・県の住生活基本計画を踏まえ、伊万里市住生活基本計画の基本理念を以下のように定めます。

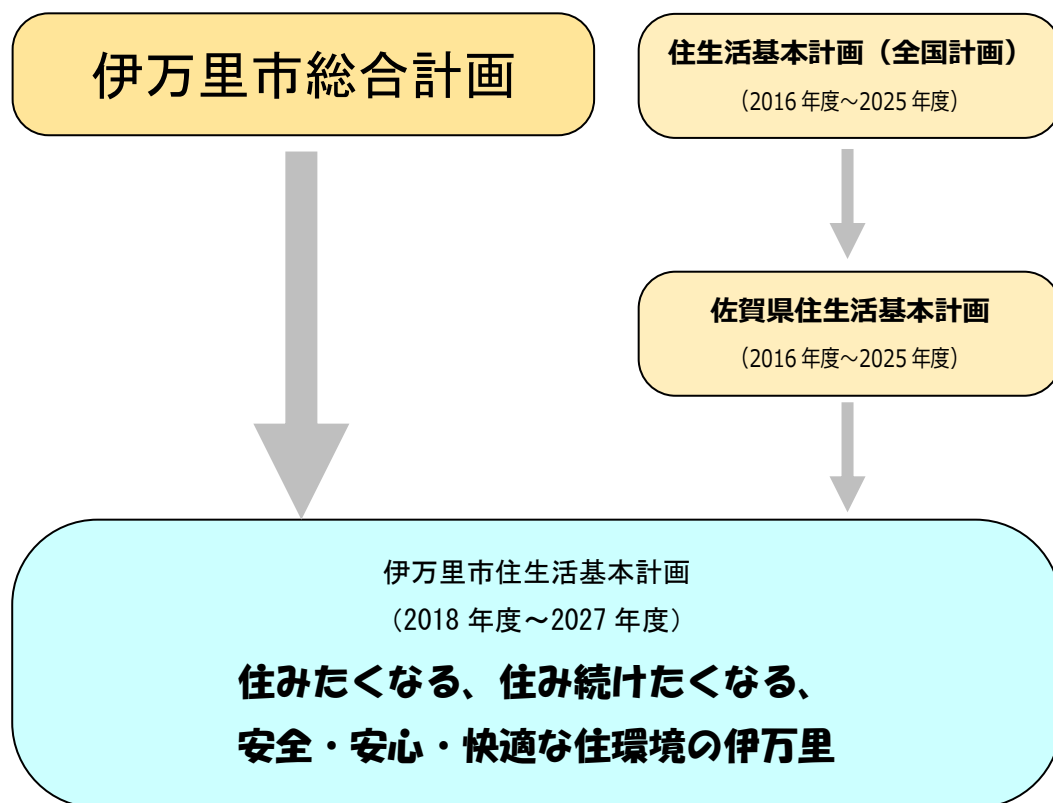
#### 【基本理念】

**住みたくなる、住み続けたくなる、安全・安心・快適な住環境の伊万里**

～豊かな 伊万里らしい 住生活の実現～

社会全体の人口減少、少子・高齢化が進行するなか、本市においては移住・定住の促進に取り組んでいます。

住宅施策の分野においては、本市の山、川、海などの多様な自然環境や、古くから受け継いできた歴史・伝統文化に根付いた個性と魅力ある住環境づくり（住みたくなる伊万里づくり）を継承し、移住・定住の促進に結び付けるとともに、安全で快適な住環境づくりや重層的な住宅セーフティネットを構築するなど、安心して“住み続けたい”と思える環境を整えていくことにより、将来にわたって、住みたくなる、住み続けることができるまちづくりを目指します。

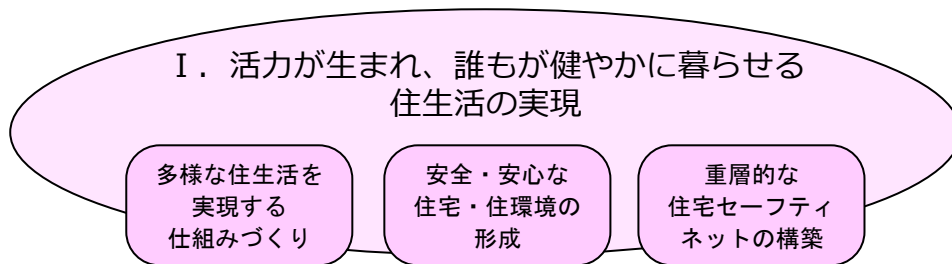


## 2. 基本目標

基本理念に基づき、安全・安心・快適な住環境を維持・形成していくため、今後10年間の住宅・住環境づくりに向けた3つの基本的な目標を定めます。

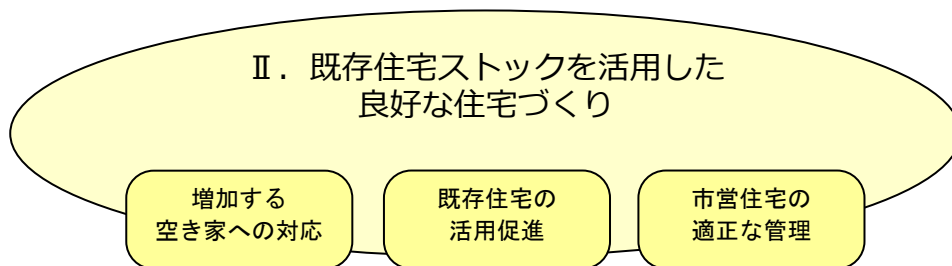
### 【基本目標-I】 活力が生まれ、誰もが健やかに暮らせる住生活の実現

本市への人口定着を促進するため、移住・定住、まちなか居住、三世同居、親元近居、子育て世帯、高齢者や障がい者など多様な住生活を支援する環境を整えるほか、安心して住み続けられる安全な住まいと住環境の形成を目指します。



### 【基本目標-II】 既存住宅ストックを活用した良好な住宅づくり

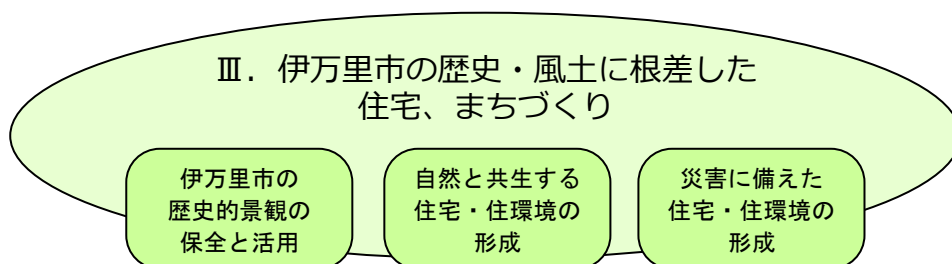
低炭素社会の構築に向け、「良質な住宅を大切に長く使う」といった考え方に沿って、民間の空き家や既存住宅（中古住宅）の有効活用を促進するとともに、市営住宅についても、適正かつ計画的な改修及び維持・管理を目指します。



### 【基本目標-III】 伊万里市の歴史・風土に根差した住宅、まちづくり

本市の歴史や風土に根差した伝統的な住宅や住環境の保全及び農山漁村の集落環境の整備等に努めるとともに、地場産材を活用した住宅や省エネ住宅等の普及など、本市の自然環境に配慮した住まいと住環境の形成を目指します。

また、風水害をはじめとする各種の災害に備えた安心して住み続けられる住まいや住環境の形成を目指します。



### 3. 基本施策

前記の3つの基本目標に基づき、基本的な施策を以下のように定めます。

#### 【基本目標-I】 活力が生まれ、誰もが健やかに暮らせる住生活の実現

##### 基本施策①：多様な住生活を実現する仕組みづくり

移住・定住、まちなか居住、三世代同居、親元近居、子育て世帯、高齢者や障がい者など多様な住生活のニーズに応えるため、住生活に関する情報提供や各種相談事業等による支援を行います。

##### 基本施策②：安全・安心な住宅・住環境の形成

住宅の耐震化や室内の安全対策、住宅の防犯性能の向上などの住宅単体の安全性向上を促進するとともに、生活道路の整備や民間開発の適切な誘導などにより住環境の安全性向上を図ります。

また、地域のコミュニティの再生を図り、子どもや高齢者・障がい者等の見守り支援体制の構築を図ります。

##### 基本施策③：重層的な住宅セーフティネットの構築

高齢者・障がい者等の入居を拒まない民間賃貸住宅の供給や子育て世帯向けの民間賃貸住宅の普及を促進するとともに、市営住宅へ住宅確保要配慮者が円滑に入居できるよう、適切な入居支援に取り組めます。

### 【基本目標-Ⅱ】 既存住宅ストックを活用した良好な住宅づくり

#### 基本施策④：増加する空き家等への対応

使用されていない空き家等（既存住宅や土地）の適正管理を図るとともに、利用が可能な空き家等については、「伊万里市空き家情報バンク」への登録を推進し、移住・定住、まちなか居住、親元近居、子育て世帯等の多様なニーズに応える住宅や、地域のコミュニティの場や福祉の場等として幅広い利用を促進します。

また、空き家等は、第一義的に所有者等が自らの責任により管理することが前提であることから、所有者等に意識の涵養を図ると共に、相談体制を確立して適正な管理及び活用、除却への誘導と推進を図ります。

さらに、適正な管理が行われず倒壊等の恐れや環境、景観に悪影響を及ぼす空き家等については、所有者等への通知を行うなど、措置の手順を踏んだ上で特定空家等に認定し、所有者へ適切な措置を行います。

#### 基本施策⑤：既存住宅の活用促進

「良い住宅を大切に長く使う」といった方向に転換していくため、耐震化やバリアフリー化をはじめとした住宅改善リフォーム等を支援するとともに、既存住宅（中古住宅）の売買など市場流通化の促進を図ります。

#### 基本施策⑥：市営住宅の適正な管理

本計画の計画期間内に耐用年限を超え、老朽化が著しい市営住宅については、今後の需要に応じて用途廃止や建替え等の検討を行うとともに、「伊万里市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、市営住宅全体の計画的な改修及び維持管理に取り組みます。

【基本目標-Ⅲ】 伊万里市の歴史・風土に根差した住宅、まちづくり

基本施策⑦：伊万里市の歴史的景観の保全と活用

本市の歴史・文化を継承するまちなみや建造物の保全と活用を図るとともに、関係機関や関連団体等と連携して、設計士や工務店等の地元住宅産業事業者など本市の歴史や風土に根差した住宅づくりを実践する担い手の育成・強化を図ります。

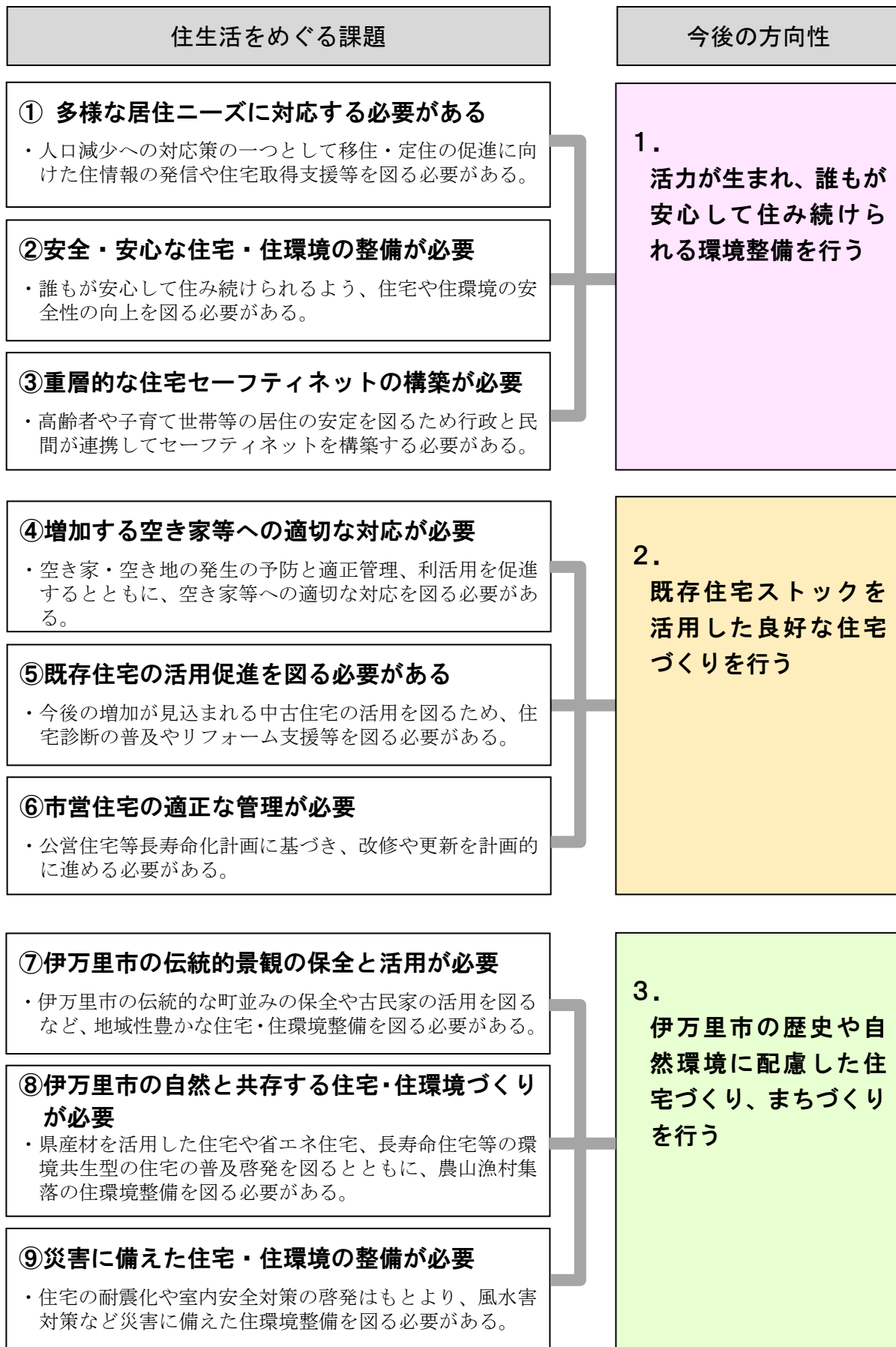
基本施策⑧：自然と共生する住宅・住環境の形成

地場産材を活用した住宅や環境共生型の省エネ住宅、長寿命住宅等の普及を促進します。  
また、自然環境と共生した農山漁村の集落景観の維持・保全、立地を生かした住環境の形成など、市内の多様な地域性を活かした住宅・住環境づくりを進めます。

基本施策⑨：災害に備えた住宅・住環境の形成

災害に備え、住宅の耐震化や室内の安全対策を促進するとともに、生活道路の整備や風水害対策を進め、安心して住み続けられる住環境整備を推進します。

4. 施策の体系







5. 伊万里市住生活基本計画における目標指標の設定

本計画では、3つの基本目標ごとに成果目標として以下の指標を設定します。

●伊万里市住生活基本計画の成果目標指標

基本目標	指標	現況	目標 (2027年度)
I. 活力が生まれ、誰もが健やかに暮らせる住生活の実現	① 子育て世帯（18歳未満が含まれる世帯）における誘導居住面積水準達成率	41.5% (H25 住宅土地統計調査)	50%
II. 既存住宅ストックを活用した良好な住宅づくり	② 空き家・空き室の削減	2,630件 (H25 住宅土地統計調査)	2,360件
	③ 伊万里市空き家情報バンクへの登録件数	41件 (H29.12.31時点)	100件
	④ 高齢者が居住する住宅におけるバリアフリー化率	62.1% (H25 住宅土地統計調査)	75%
	⑤ 市営住宅のバリアフリー化率	88.6% (H29.12.31時点)	おおむね解消
III. 伊万里市の歴史・風土に根差した住宅、まちづくり	⑥ 補助金を活用して耐震診断及び耐震改修を実施した件数	耐震診断： 9件 耐震改修： 1件 (H29.12.31時点)	耐震診断： 100件 耐震改修： 20件

## 第4章 基本的な施策

### 1. 基本施策-①多様な住生活を実現する仕組みづくり

#### (1) 住情報の発信（継続）

本市のホームページを活用して、住宅の取得・改修・耐震化等に関する支援制度や住宅の防犯性向上・安全な屋内環境づくりなど、住宅に関する総合的な情報提供を行います。

また、本市への移住・定住に関する支援制度や住宅物件に関する情報の発信を行います。

施 策	新・継	実施主体
住情報の提供	継続	市・団体

#### ■住情報の提供

##### 《移住・定住支援に関する情報》、《住宅物件に関する情報》

- ・伊万里市移住・定住支援サイト
- ・伊万里市空き家情報バンク
- ・全国版空き家・空き地バンク
- ・全国移住ナビ
- ・JOIN（一般社団法人 移住・交流推進機構）
- ・まるごと伊万里



伊万里市>トップページ>移住・定住促進>伊万里市移住・定住支援サイト

##### 《住宅の改修等支援に関する情報》

- ・伊万里市耐震診断事業費補助金
- ・浄化槽設置に関する補助
- ・固定資産税の減免制度
- ・住宅支援給付
- ・市営住宅入居予備者の募集

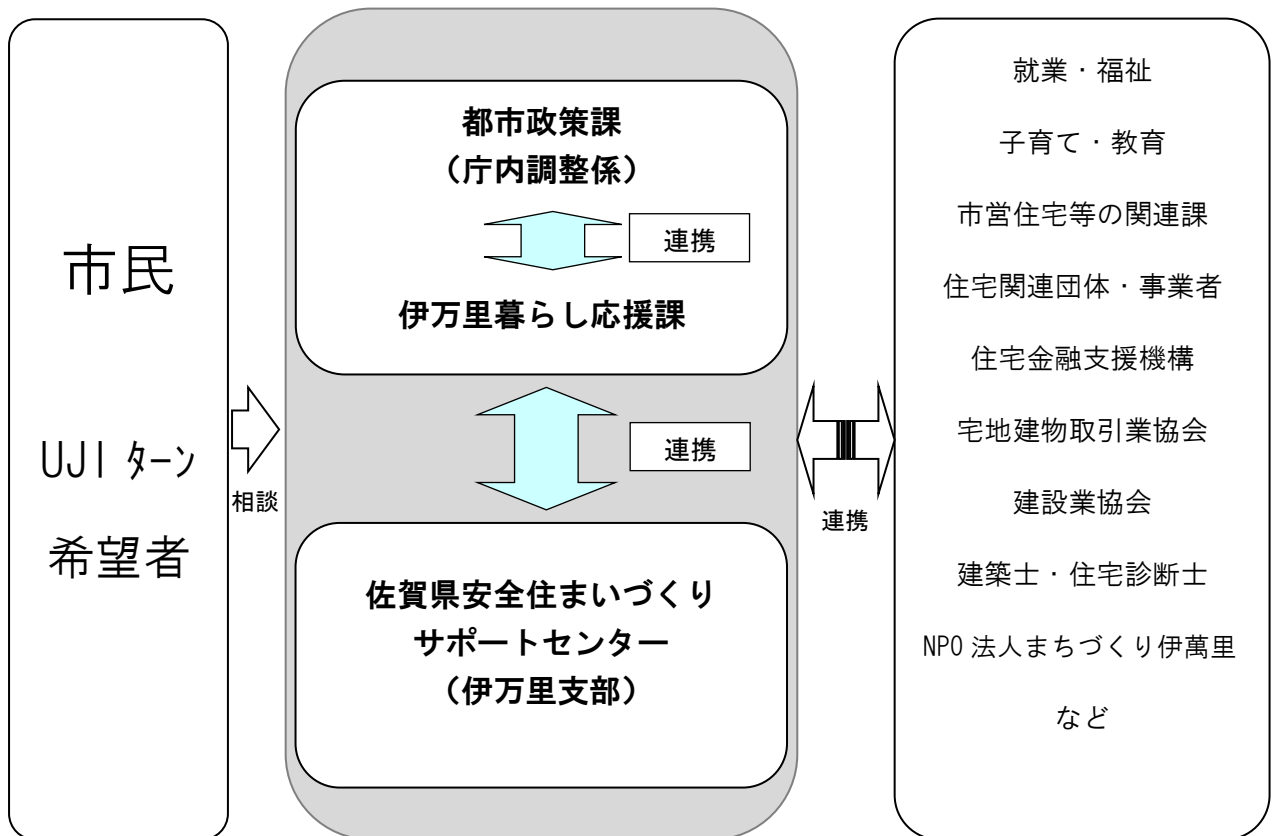
伊万里市>トップページ>くらし情報>引越し・住まい

(2) 住宅相談体制の充実（継続）

住宅の新築・改築・リフォーム・住宅診断（インスペクション）等の相談窓口や、関係機関と連携を図ることで、市民だけでなく、本市への移住・定住希望者に対しても、住宅に関する多様な相談に対応できる体制の充実を図ります。

施策	新・継	実施主体
住宅相談体制の充実	継続	市・団体

■連携による住宅相談体制のイメージ



## 第4章 基本的な施策：①多様な住生活を実現する仕組みづくり

### (3) 移住・定住の促進（継続・拡充）

移住・定住を促進するためには、就業・子どもの教育・医療・買い物環境・文化的環境・公共交通の利便性などをはじめ総合的な環境整備を進める必要があります。

住宅施策の分野においては、本市のホームページを活用し、移住・定住に関する支援制度、住宅情報等を発信するとともに、本市へのU J Iターンを希望する世帯への相談体制の充実や移住体験住宅などの移住体験事業等により、移住・定住を促進します。

施 策	新・継	実施主体
伊万里市空き家情報バンクの活用	継続	市・団体
伊万里市移住・定住支援制度の活用	新規	市
伊万里市移住体験住宅事業の活用	新規	市

#### ■平成 29 年度 伊万里市移住体験住宅



### (4) まちなか居住の促進（継続・拡充）

本市の中心部においては、人口減少と居住者の高齢化が進み、地域としての活力の低下がみられます。

このため、住宅施策の分野においては、利便性の高い中心部への人口回帰（まちなか居住）を促進するため、まちなかの空き家・空き地の有効活用、既存住宅（中古住宅）のリフォーム・リノベーションの促進に取り組みます。

また、まちなかの空き家・空き地の活用促進に向けて、所有者等に対して、その適正管理の依頼と活用に向けた情報提供を行います。

施 策	新・継	実施主体
伊万里市移住・定住支援制度の活用（再掲）	新規	市
伊万里市空き家情報バンクへの登録促進及び住宅情報の提供	継続	市・住宅所有者・団体
地域優良賃貸住宅（子育て世帯向け）の供給促進	新規	事業者
リノベーションまちづくりの推進	新規	市・団体・事業者・市民

## 第4章 基本的な施策：①多様な住生活を実現する仕組みづくり

### (5) 三世同居・親元近居の促進と住宅取得支援（新規）

国の住生活基本計画において、少子・高齢化への対応の一つとして、「世代間で助け合いながら子どもを育て、高齢者を見守ることができる三世同居・近居の促進」を掲げ、これに向けた支援策を設けています。

これを受け、本市においては三世同居や親元近居の促進に向けた国の支援制度等の周知を行います。

施策	新・継	実施主体
三世同居住宅支援制度の周知	新規	国・県
伊万里市空き家情報バンクによる住宅情報の提供	継続	市・団体
フラット35「子育て支援型・地域活性化型」の情報提供	継続	国・市・事業者

#### ■「長期優良住宅化リフォーム推進事業」における三世同居対応工事への加算

補助金

平成29年度

リフォーム済み住宅の購入でもOK!

—改修・購入—

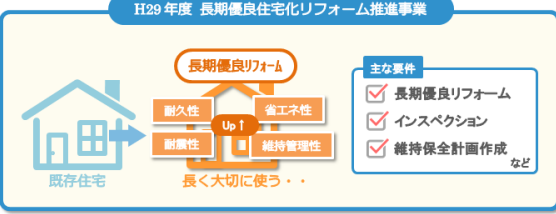
長期優良リフォームで **最大 300万円**

1住戸あたり最大

250万円+50万円(※)

(※)三世同居対応改修工事を実施する場合に50万円を上限に加算

H29年度 長期優良住宅化リフォーム推進事業



**長期優良リフォーム**

耐久性 Up ↓ 省エネ性

耐震性 維持管理性

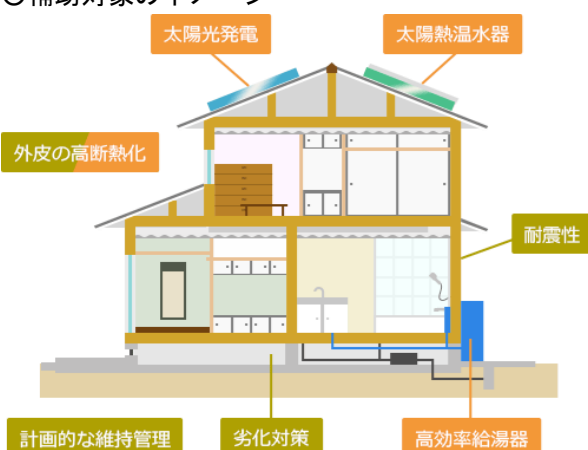
長く大切に使う・・・

主な要件

- 長期優良リフォーム
- インスペクション
- 維持保全計画作成 など

#### ■「地域型住宅グリーン化事業」における三世同居対応工事への加算

○補助対象のイメージ



○三世同居加算：

キッチン、浴室、トイレ又は玄関のうち、いずれか2つ以上を複数個所設置する場合、30万円/戸を限度に補助を加算

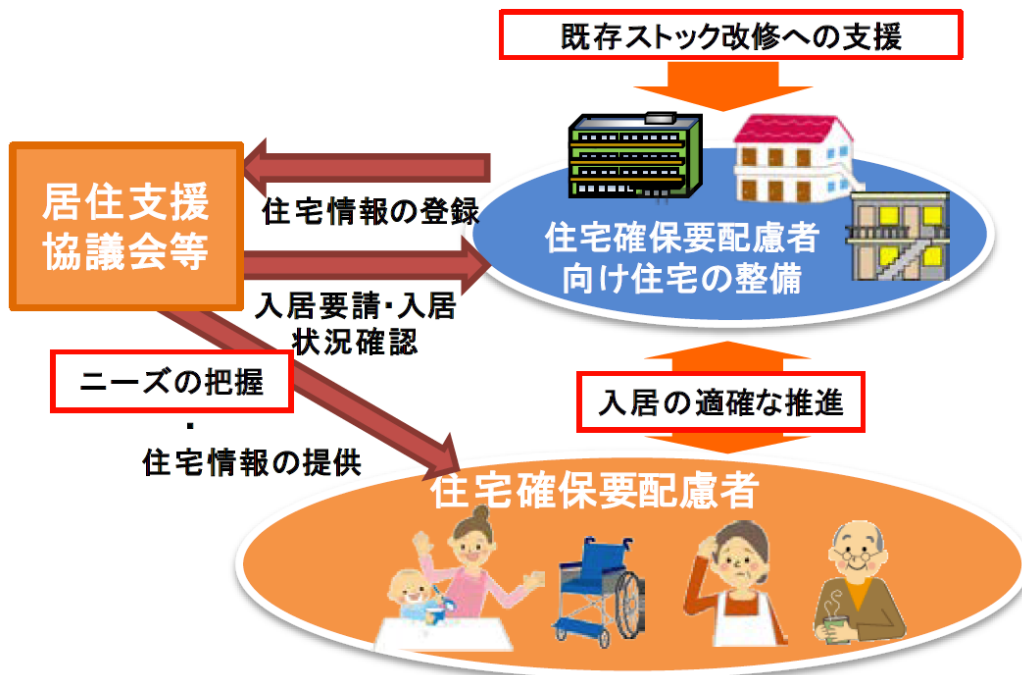
(6) 住み替え支援（継続・拡充）

伊万里市空き家情報バンクを活用して住み替えのための住情報を発信するとともに、「佐賀県安全住まいづくりサポートセンター」（伊万里支部）と連携して、住み替えに伴う住宅の新築・改築等に関する相談に対応します。

また、高齢者・障がい者・子育て世帯等の入居を拒まない民間賃貸住宅の供給を促進するとともに、住宅の新築・改修等を行う際の設計及び改修工事への助成制度の情報提供を行います。

施 策	新・継	実施主体
伊万里市空き家情報バンクの活用（再掲）	継続	市・団体
住宅確保要配慮者あんしん居住推進事業の周知	新規	国・県

■住宅確保要配慮者の住み替え支援のイメージ





2. 基本施策-②安全・安心な住宅・住環境の形成

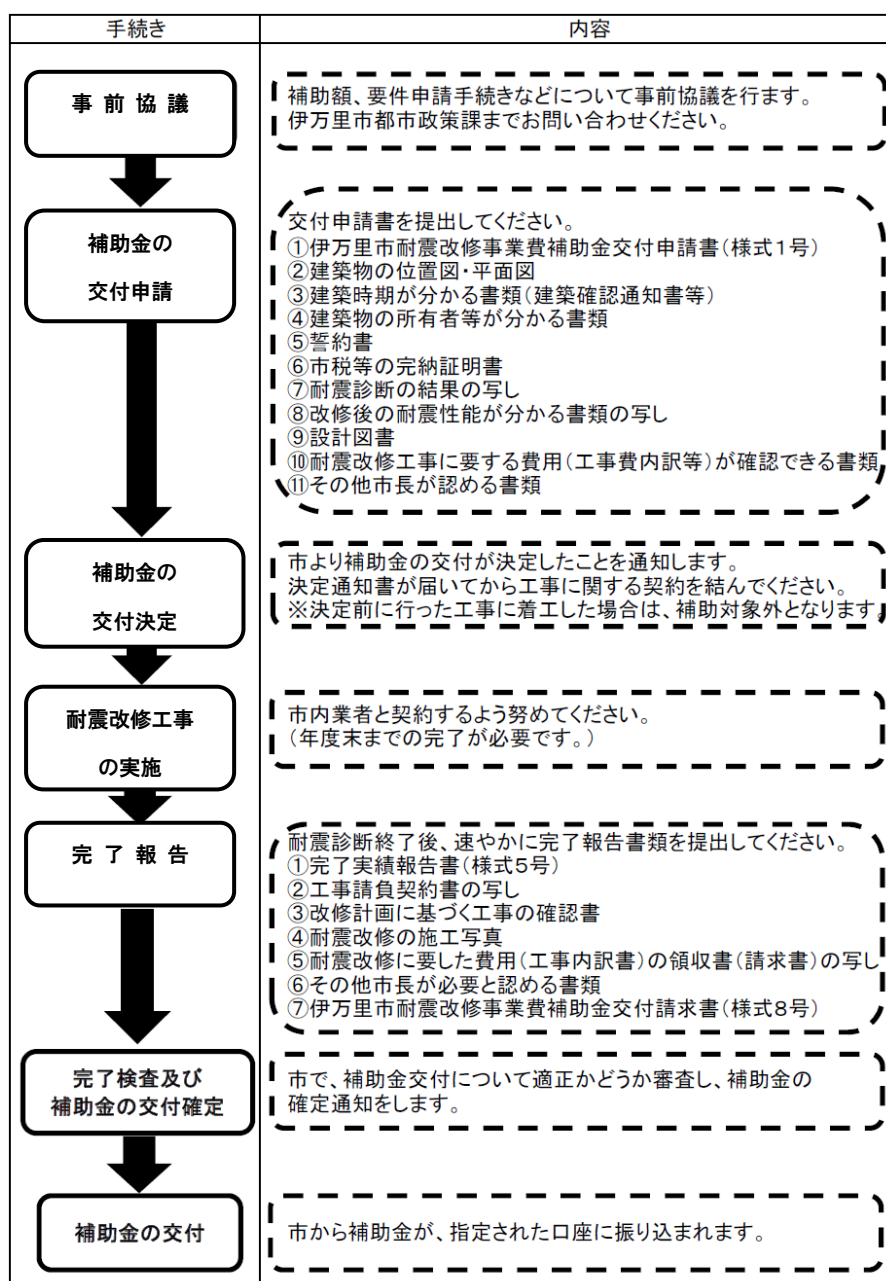
(7) 住宅の耐震化の促進（継続）

住宅の耐震化を促進していくため、伊万里市耐震改修促進計画に基づき、建築物の耐震化を促進します。

具体的には、耐震診断及び耐震改修費の補助制度の周知を行うとともに、県と連携して、耐震化に向けた普及啓発に取り組めます。

施策	新・継	実施主体
伊万里市耐震改修促進計画の推進	継続	国・県・市
耐震診断・耐震改修費補助制度の周知	継続	県・市・団体

■伊万里市耐震改修補助金申請手続きの流れ



(8) 住宅性能表示制度の普及（継続）

安心して住み続けられる安全で良好な住宅の普及を促進するため、住宅の構造耐力・バリアフリー性・防火性・省エネ性・空気環境・音環境等に関する性能を表示するとともに、新築住宅の瑕疵担保責任期間を10年間義務化した「住宅性能表示制度」の普及を図ります。  
また、既存住宅の売買における瑕疵保険の普及啓発に取り組めます。

施策	新・継	実施主体
「住宅性能表示制度」の普及啓発	継続	国・県

※住宅性能表示制度：平成12年4月1日に施行された「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に基づく制度です。

**住宅性能表示制度**  
**住まいの夢を育みます**

住宅品質確保法に基づく住宅性能表示制度を利用すれば、住宅を買う時や建てる時に、住まいの性能を相互に比較したり、希望の性能を設計者・施工者に伝えることができ、望みどおりの性能の住宅を手に入れることができます。  
また、評価を受けた設計図面どおりに施工されているか、現場の検査がされるので安心な上、他にも様々なメリットがあるこの制度を、是非ご活用ください。

**1** 「10分野のものさして住宅の性能が分かります」  
【住宅性能表示のイメージ】

構造の安定（地震等級 等級〇等）  
高齢者等への配慮（高齢者等配慮対策等級 等級〇等）  
防犯（侵入防犯対策）  
維持管理・更新への配慮（維持管理対策等級 等級〇等）  
劣化の軽減（劣化対策等級 等級〇等）  
火災時の安全（防火等級 等級〇等）  
自衛環境（地震対策等 等級〇等）  
光・視環境（自然採光率〇%等）  
温熱環境（省エネルギー対策等級 等級〇等）  
空気環境（PM10がアルファ粒子発生等級 等級〇、濃度測定 等）

**2** 国に登録された第三者機関の評価が受けられます。  
国土交通大臣に登録された登録住宅性能評価機関は、申請に基づき、国が定めた技術基準に従ってあなたの住宅の性能評価を行い、その結果を住宅性能評価書として交付します。  
また、評価書には、設計段階の評価である「設計住宅性能評価書」と、施工・完成段階の現場検査を積た「建設住宅性能評価書」の2種類あり、それぞれ住宅品質確保法で定めるマークが表示されます。

**3** 評価内容が契約に活かされます。  
住宅品質確保法では、新築住宅の場合、住宅供給者が契約書面に住宅性能評価書やその写しを添付した場合や、消費者に住宅性能評価書やその写しを添付した場合には、住宅性能評価書に表示された性能を有する住宅の建設工事を行う、又はそのような住宅を引き渡すことを契約したものとみなすことが定められているので安心です。万が一、評価書に表示された性能を満たしていない場合、消費者は住宅供給者に修補等を求めることができます。

**4** 円滑、迅速で、専門的な紛争処理が受けられます。  
もし建設住宅性能評価書が交付された住宅でトラブルが発生した場合、国土交通大臣が指定する「指定住宅紛争処理機関（各地の単位弁護士会）」に紛争処理を申請することができます。  
指定住宅紛争処理機関は、裁判による住宅の紛争を円滑・迅速に処理するための機関です。建設住宅性能評価書が交付された住宅の紛争であれば、住宅性能評価書の内容だけでなく、請負契約・売買契約に関する当事者の紛争の処理を扱います。紛争処理の手数料は、1件あたり1万円です。

【住宅性能表示制度による住宅の紛争処理のしくみ】

国土交通省  
指定・監督等  
情報提供  
指定・監督等  
技術的参考基準

住宅紛争処理支援センター  
(国土交通省・各地の建設センター)  
トップアップ  
(情報提供・紛争処理)

説明・資料請求  
指定住宅紛争処理機関  
(単位弁護士会)

申請  
紛争処理  
(調停・調解・仲裁)

登録住宅性能評価機関 等  
建築士会  
建築専門団体 等



(9) 室内の安全対策の啓発（継続・拡充）

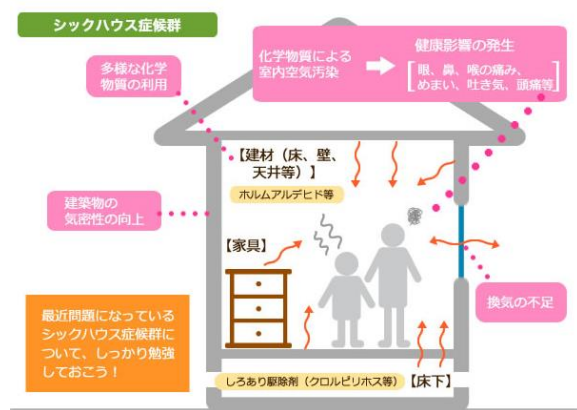
健康を害さない安全な室内環境づくりに向け、市のホームページを活用し、シックハウス症候群やヒートショックの防止に向けた啓発を行うとともに、SAGA健康・省エネ住宅推進協議会と連携して室内環境の改善に関する相談に対応します。

また、住宅のバリアフリー化のほか、防災・防犯対策として、地震時の家具の転倒防止対策や通電火災の発生防止、火災警報器の設置及び点検、防犯性の高い建物部品の紹介など、一般住宅の室内の安全対策の充実を促進します。

施策	新・継	実施主体
SAGA健康・省エネ住宅推進協議会との連携	新規	団体・市
家具等の転倒・落下防止対策の紹介	新規	団体
通電火災の発生防止の啓発	新規	団体
火災警報器設置・点検の啓発	継続	団体
防犯性の高い建物部品の紹介	継続	団体

■健康に影響を及ぼす住宅の環境

- ・ 建材や家具による空気汚染【化学物質によるシックハウス症候群】
- ・ 寒さによる影響①【寒い室内】
- ・ 寒さによる影響②【温度差：ヒートショック】
- ・ 寒さによる影響③【結露の影響→カビ・ダニによるシックハウス症候群。】
- ・ 暑さによる影響【暑い室内】
- ・ 湿度による影響【高湿度／低湿度】
- ・ 建材の材質・色・においなどの影響【ストレス因子】
- ・ 段差や手摺無などによる幼児や高齢者の怪我



■住まいの防犯対策

これが狙われにくい家！  
さあ、どこが違うかわかりますか？

- ・ 2階への登城をつくらない
- ・ ベランダが死角にならないようにする
- ・ 防通しの強いフェンスを設置する
- ・ センサー付の照明で明るくする
- ・ 郵便物が置かれにくいポストにする
- ・ カメラ付のインターホンを設置する
- ・ 窓際に狙われにくい窓を設置する
- ・ センサーで感知し音で通報する
- ・ センサーライトを設置する
- ・ 塀壁には隠れられないドアにする

おののような車犬がいる家は狙われにくいよ

特殊フィルム

ガラス

ガラス

(10) 住環境の整備・改善（継続）

安全・安心で快適な住環境づくりを進めていくため、良質な水道水の安定供給や生活道路の拡幅整備、公園の適正管理を推進するほか、公共下水道や農業集落排水の整備、合併処理浄化槽の設置等による水洗化の促進と河川や水路等の公共用水域の水質保全を図るための汚水処理普及率の向上を推進します。

施 策	新・継	実施主体
上・下水道の整備	継続	市
下水道未接続世帯への接続勧奨や合併処理浄化槽設置補助金制度の活用	継続	市民・市
生活道路の整備	継続	市
公園の適正管理	継続	市

■公園の適正管理（伊万里ファミリーパーク）



(11) 適切な民間開発の誘導（継続）

伊万里らしい歴史的な景観や自然景観に調和する良好な住宅・住環境を維持・形成していくため、伊万里市環境保全条例及び伊万里市開発指導要綱に基づき、民間の開発行為や建築行為に対する適切な指導を行います。

施 策	新・継	実施主体
開発指導の実施	継続	市・事業者

■民間による計画的な住宅地開発の例



(12) 地域コミュニティによる支援体制の整備（新規）

高齢者や障がい者、子育て世帯等が、地域の中で安心して住み続けられる環境づくりを進めていくため、各地域のコミュニティの再生を図り、子どもや高齢者・障がい者等の見守りなど、地域ぐるみの支援体制の構築を図ります。

施 策	新・継	実施主体
「支えあい」活動事業の活用	新規	市民・団体・市
公民館活動・市民活動との連携	新規	市民・団体・市
地域の元気推進事業の活用	新規	市民・団体・市
地域包括ケアシステムの構築	新規	市民・団体・市

■ 地区公民館の活動

《まち歩き》



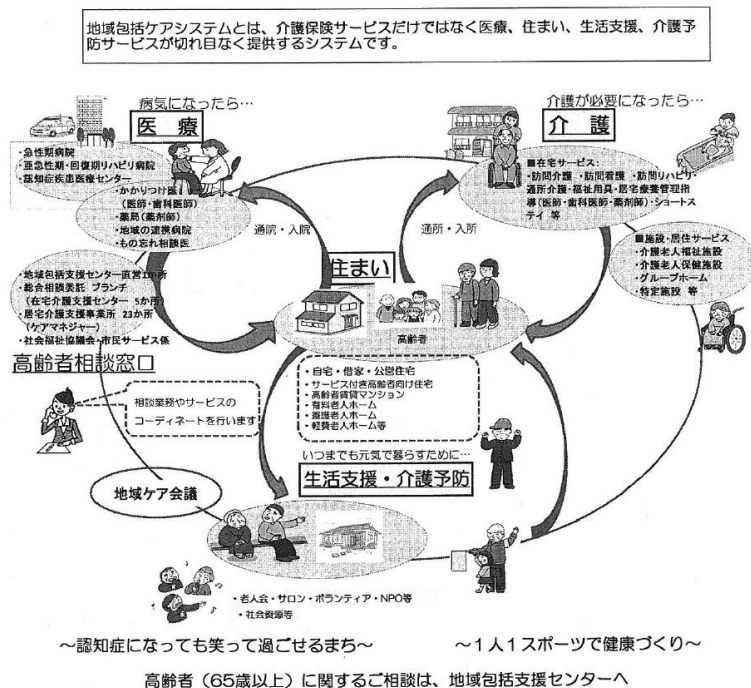
《公民館まつり》



■ 地域包括ケアシステムのイメージ

伊万里市地域包括ケアシステムの姿

～切れ目のないサービスで安心して生活できるまちづくり～



3. 基本施策-③重層的な住宅セーフティネットの構築

(13) 高齢者等を拒まない民間賃貸住宅の供給（継続・拡充）

市民が安心して住むことができるよう、公営住宅を補完する住宅セーフティネットの一つとして、高齢者世帯、障がい者世帯、子育て世帯または低額所得世帯等の入居を拒まない民間賃貸住宅の供給を促します。

施 策	新・継	実施主体
住宅確保要配慮者あんしん居住推進事業の周知（再掲）	新規	国・県
住宅確保要配慮者専用賃貸住宅改修事業の周知	新規	国・県
サービス付き高齢者向け住宅の供給	新規	事業者・県
地域優良賃貸住宅（高齢者向け）の供給促進	継続	国・県

■住宅確保要配慮者あんしん居住推進事業

高齢者、障害者、子育て世帯の居住の安定確保を図るため、居住支援協議会等との連携の下、入居ニーズや住宅オーナーの意向を踏まえた上で、空き家等を活用して一定の質が確保された低廉な家賃の賃貸住宅を供給することを目的に、空き家等の改修工事に要する費用の補助を行う事業です。

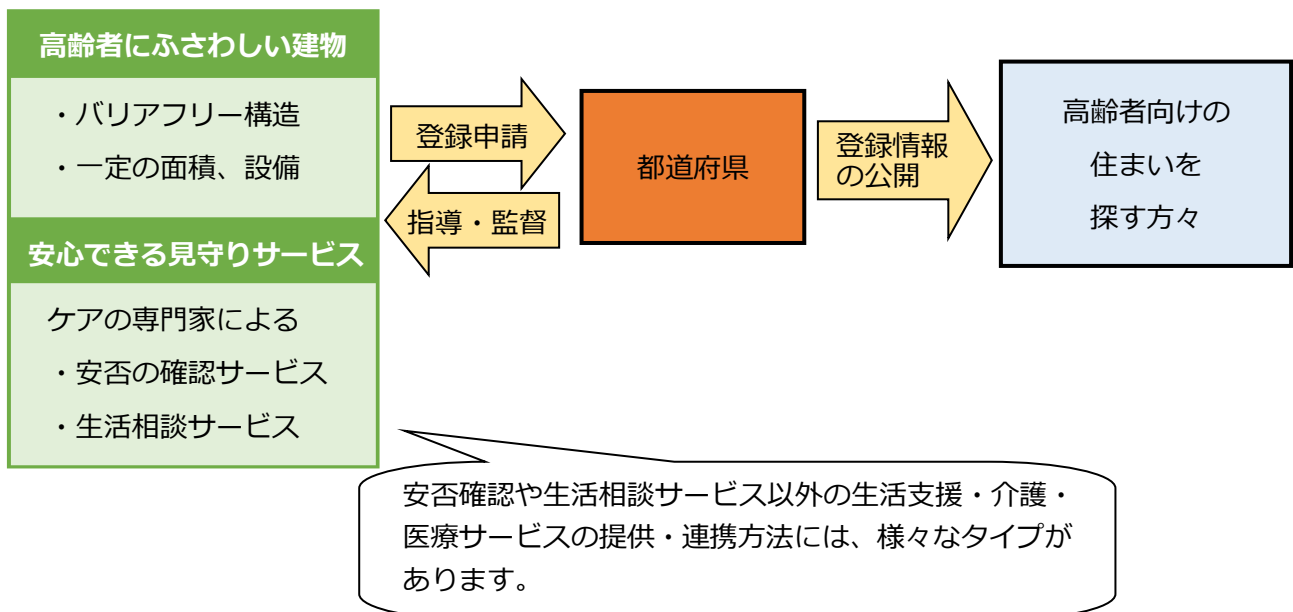
■サービス付き高齢者向け住宅

サービス付き高齢者向け住宅とは、高齢者の暮らしを支援するサービスの付いたバリアフリー住宅です。

国土交通省・厚生労働省の「高齢者住まい法」により創設された登録制度で、都道府県・政令市・中核市の窓口で事業者が登録を行うことによって、家賃やサービスなど住宅に関する情報が公開されます。

サービス付き高齢者向け住宅

登録窓口





(14) 子育て世帯向け民間賃貸住宅の供給（新規）

子育て世帯の生活に適した住宅の供給を図るため、地域優良賃貸住宅制度を活用し、子育て世帯向けの良好な民間賃貸住宅の供給を促します。

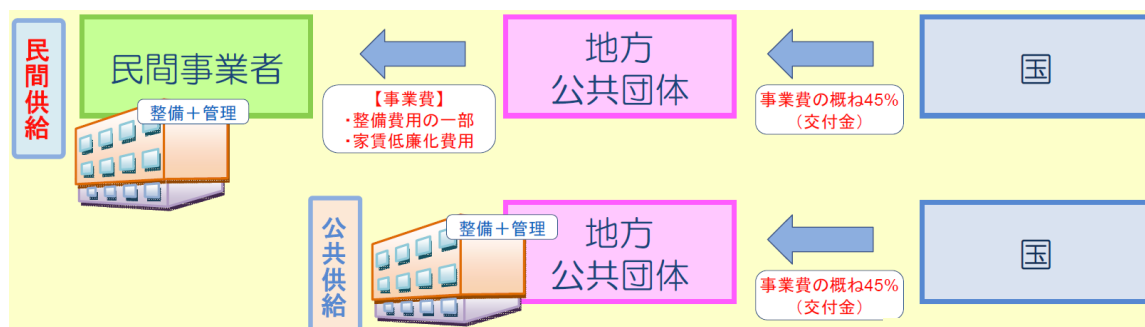
施策	新・継	実施主体
地域優良賃貸住宅（子育て世帯向け）の供給促進	新規	国・県

■地域優良賃貸住宅（子育て世帯向け）

地域優良賃貸住宅とは、民間の土地所有者等により供給される良質な賃貸住宅で、知事又は政令指定都市、中核市及び一般市の長により認定された公的な位置づけのある賃貸住宅です。なお、この住宅は地方公共団体より建設費及び改良費の一部に補助金が交付されます。

平成27年度から子育て世帯、新婚世帯に対する住居面での支援を強化するため、地域優良賃貸住宅（子育て世帯向け）が創設されました。

■地域優良賃貸住宅制度による支援の概要



(15) 住宅確保要配慮者への入居支援（継続）

市営住宅に住宅確保要配慮者が円滑に入居できるよう、総合的な情報提供や助言、相談への対応等を行うため、関係課や関係団体等との連携を行います。

また、住宅確保要配慮者が民間賃貸住宅に入居する場合の家賃補助などの支援制度の設置の検討や、収入超過者等への適切な対応を行います。

施策	新・継	実施主体
市営住宅の入居者管理	継続	市

4. 基本施策-④増加する空き家等への対応

(16) 空き家・空き地の適正管理と活用促進（継続・拡充）

少子高齢化や人口減少、核家族化の進行に伴い増加している、使用されていない空き家等（既存住宅や土地）について、所有者及び関係者の適正な管理を行い、空き家等の発生予防に取り組めます。

利用可能な空き家等については、伊万里市空き家情報バンクへの登録を推進し、移住・定住、まちなか居住、親元近居、子育て世帯等の多様なニーズに応える住宅として、また、地域の交流の場や福祉の場として、個人に限らず民間団体等による幅広い利用を促進します。

さらに、所有者等には空き家等の所在や状態等に合わせた活用を提案するとともに、国の補助要件を満たした場合は、必要により国の補助制度の利用を検討します。

施 策	新・継	実施主体
伊万里市空き家情報バンクの活用（再掲）	継続	市・団体
空き家再生等推進事業の活用	新規	市・団体・所有者・市民
空き地活用の事例紹介	新規	団体・市
リノベーションまちづくりの推進（再掲）	新規	市・団体・事業者・市民

■ 空き家活用のイメージ

《会員制農家民宿とした例》



《店舗とした例》



■ 空き地活用のイメージ

《コンテナを使い図書室とした例》



《地域住民が管理する広場とした例》



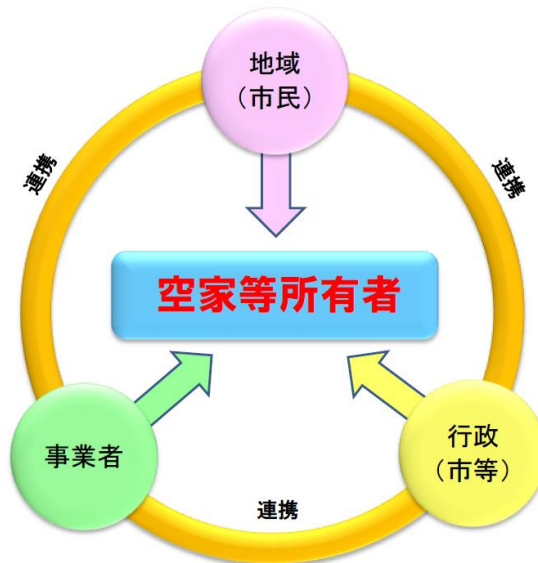
(17) 空き家等への適切な対応（新規）

「空家等対策の推進に関する特別措置法」（以下、「空家法」という。）及び「伊万里市空家等の適正管理に関する条例」、「伊万里市空家等対策計画」に基づき、空き家等の所有者、相続者は、第一義的に自らの責任において適正な管理を行うことを原則としており、広報紙及び冊子等により所有者としての自覚と管理意識の涵養を図ることで、所有者等が適正な管理を行うための働きかけをします。

地域住民と民間事業者、行政の関係者が連携して、空き家等の発生や放置を抑制するために、所有者等に対して空き家等の状態に応じた対策を行います。

市民の生命及び身体の安全、財産、環境、景観に悪影響を及ぼす特定空家等に対しては、空家法及び条例に基づき、所有者等に対して必要な措置を行います。

施 策	新・継	実施主体
特定空家等除却事業費補助金の活用	新規	市・所有者
特定空家等除却工事	新規	市
空家等調査の実施	新規	市



5. 基本施策-⑤既存住宅の活用促進

(18) 既存住宅の市場流通化の促進（継続）

既存住宅（中古住宅）のリフォーム・リノベーション支援制度等の情報を提供するほか、建築士会等の関連団体と連携し、既存住宅の市場流通化と活用に向けた啓発を行います。

また、宅地建物取引業協会等の不動産事業者への啓発を図り、既存住宅の売買など市場流通化の拡大を促進します。

施 策	新・継	実施主体
持家の流動化、既存住宅（中古住宅）の普及	継続	事業者
既存住宅の市場流通化の促進	継続	事業者
民間事業者との情報共有体制の構築	継続	市・事業者

(19) 住宅診断（インスペクション）の普及・促進（新規）

住宅の劣化状況、欠陥の有無、改修すべき箇所やその時期、おおよその費用などの把握のため、専門家による住宅診断（インスペクション）の普及を図り、既存住宅の活用を促します。

このため、建築士会等の関係団体と連携して、住宅診断士（インスペクター）の養成及び登録を促進し、建築士会等の関係団体等と連携し、市民に対して住宅診断に関する相談や住宅診断士の紹介等の対応を行うことで、必要に応じた住宅診断の実施を啓発します。

施 策	新・継	実施主体
住宅診断の啓発	新規	市・団体・事業者
住宅診断士の養成・登録	新規	団体・事業者

■住宅診断のイメージ





(20) 住宅改修への支援（継続・拡充）

住宅改修に対する支援制度の情報提供を行います。また、建築士会等の関連団体と連携し、住宅のリフォーム改修事例を紹介するほか、「佐賀県安全住まいづくりサポートセンター」（伊万里支部）と連携し、住宅改修に関する相談に対応します。

施 策	新・継	実施主体
リフォームに関する支援制度の情報提供	継続	市・団体
重度障害者への住宅改修費給付事業の周知	新規	市
要介護者等への住宅改修費支給の周知	新規	市
リフォーム事例等の情報提供	新規	団体・市
子育てし大県“さが”「すまい・る」支援事業の活用	新規	県

■重度障害者への住宅改修費給付事業

日常生活を営むのに著しく支障のある在宅の重度障害者が、手すりの取り付けや段差解消、洋式便器への取替などの住環境の改善を行う場合、改修費の一部を給付する事業です。（限度額あり）

■要介護者等への住宅改修費支給

手すりの取り付けや段差解消、洋式便器への取替などの要介護者の日常生活を支援するため小規模な住宅改修を行った場合、改修費の一部を支給する事業です。（限度額あり）

6. 基本施策-⑥市営住宅の適正な管理

(21) 伊万里市公営住宅等長寿命化計画に基づく計画的な改修・更新（継続）

伊万里市公営住宅等長寿命化計画に基づき、市営住宅の計画的な改修及び維持管理に取り組めます。

また、計画期間内に耐用年限を超え、老朽化が著しい市営住宅については、将来の需要に応じて用途廃止や建替え等を検討します。

施 策	新・継	実施主体
伊万里市営住宅等長寿命化計画の推進	継続	市
公営住宅等ストック総合改善事業の実施	継続	市

■市営住宅



7. 基本施策-⑦伊万里市の歴史的景観の保全と活用

(22) 伝統的な住宅や町並みの保全（継続）

伊万里らしい伝統的な住宅や町並みを保全していくため、建築協定を活用するなど、良好な町並みの保全や改善等に向けた「景観計画」の策定などの景観施策を検討します。

施 策	新・継	実施主体
景観施策の推進	継続	市・団体・市民
建築協定の活用	継続	市民・団体・市

■伊万里津の町並み



■大川内地区の町並み



## 第4章 基本的な施策：⑦伊万里市の歴史的景観の保全と活用

### (23) 古民家の活用（新規）

伊万里らしい建築物を後世に残していくため、古民家の再生や多様な活用を図ります。

また、建築士会等の関連団体と連携し、古民家の活用事例を紹介するなど、古民家の活用に向けた啓発を行います。

施 策	新・継	実施主体
リノベーションまちづくりの推進（再掲）	新規	市・団体・事業者・市民

#### ■大川内地区にある民家建築



#### ■ゲストハウスとしての活用例（伊万里市内）



### (24) 地元住宅産業事業者の育成（継続）

関係機関や関係団体等と連携し、市内の不動産事業者や工務店、設計士等を対象とした講習会の周知をするなど、本市の歴史や風土に根差した良好な住宅づくりを実践する担い手の育成・強化に努めます。

施 策	新・継	実施主体
県や団体等との連携による研修会等の開催の周知	継続	県・団体

#### ■佐賀県建築士事務所協会による「佐賀県木造塾」



8. 基本施策-⑧自然と共生する住宅・住環境の形成

(25) 県産材の活用・普及（継続・拡充）

住宅における地産地消を促進するため、林業事業者との連携による木材の安定供給を推進するとともに、関係機関と連携し、県産材（さかの木）を活用する場合の補助制度の広報を行うなど、県産材の活用に向けた啓発を行います。

また、県及び関係団体等と連携し、地元住宅産業事業者に対し県産材の活用について啓発を行います。

施 策	新・継	実施主体
温室効果ガス削減に貢献する住まいづくり	継続	事業者
県産材の普及啓発	継続	県・市・団体・事業者
「さかの木」、「佐賀県産乾燥木材」の生産流通体制の整備	継続	団体・事業者
佐賀県ふるさと木材利用拡大推進事業の活用	新規	団体・事業者・市民
「地域型住宅グリーン化事業」等の補助制度の紹介	新規	市・事業者

■地域型住宅グリーン化事業

地域における木造住宅生産体制を強化し、環境負荷の低減を図るため中小住宅生産者等が、他の中小住宅生産者や木材、建材流通等の関連事業者とともに連携体制（グループ）を構築して省エネルギー性能や耐久性等に優れた木造住宅・建築物の整備やこれと併せて行う三世代同居への対応等に対して支援を行うことにより、

- (1) 地域の中小住宅生産者等が供給する住宅に関する消費者の信頼性の向上
- (2) 関連産業の多い、地域の木造住宅市場の振興による地域経済の活性化
- (3) 地域の住文化の継承及び街並みの整備
- (4) 地域の林業・木材産業関連事業者と住宅生産関連事業者との連携構築を通じた、木材自給率の向上及び森林・林業の再生
- (5) 住宅の省エネルギー化に向けた技術力の向上
- (6) 子育てを家族で支え合える三世代同居

など複数世帯の同居しやすい環境づくりを目指すものです。

■「地域型住宅グリーン化事業」における地域材加算

○主要構造材（柱・梁・桁・土台）の過半に地域材を使用する場合、20万円/戸を限度に補助を加算

(26) 省エネ住宅、長寿命住宅等の普及（継続・拡充）

環境への負荷が軽減される省エネ住宅や長期優良住宅等に関し、その新築・購入・改修費の補助及び融資制度等について、法改正による情報更新に応じて広く市民に広報するなど、省エネ住宅や長寿命住宅の普及を促進します。

また、SAGA健康・省エネ住宅推進協議会と連携し、地元住宅産業事業者への啓発と省エネ住宅等の普及を図ります。

施策	新・継	実施主体
再生可能エネルギービジョンの推進	新規	市・団体・事業者・市民
省エネ等につながる製品の情報提供	継続	事業者・団体
長期優良住宅の普及	継続	国
SAGA健康・省エネ住宅推進協議会と連携（再掲）	新規	団体・市

■長期優良住宅とは：国土交通省「長期優良住宅認定制度の概要パンフレット」より抜粋

「長期優良住宅」とは、大きく分けて以下A～Dの4つの措置が講じられている住宅を指します。

**【長期優良住宅の主な「認定基準」】**

- A. 長期に使用するための構造及び設備を有していること
- B. 居住環境等への配慮を行っていること
- C. 一定面積以上の住戸面積を有していること
- D. 維持保全の期間、方法を定めていること

→ 詳しくは、③④ページ

「長期優良住宅」の認定を受けるためには、A～Dの全ての措置を講じ、必要書類を添えて所管行政庁に申請することが必要です。  
認定後、工事が完了すると維持保全計画に基づく点検などが求められます。

→ 詳しくは、⑤⑥ページ



(27) 農山漁村集落の住環境整備（継続・拡充）

人口減少や高齢化が進行している農山漁村の集落については、集落内の生活道路の整備や、合併処理浄化槽の設置による水洗化など、魅力ある集落環境の整備を進めつつ、コミュニティの維持・形成に向けた支援を行います。

施 策	新・継	実施主体
伊万里市空き家情報バンクの活用（再掲）	継続	市・団体
生活道路の整備	新規	市
中山間地域農業集落活動支援事業等の制度事業の活用	新規	市
合併処理浄化槽設置補助金制度の活用（再掲）	継続	市民・市

■東山代町里の集落



■脇野の集落





9. 基本施策-㊟災害に備えた住宅・住環境の形成

(28) 住宅の耐震化の促進（再掲）

伊万里市耐震改修促進計画に基づき、耐震診断及び耐震改修費の補助制度の周知を行うとともに、県と連携し、耐震化に向けた普及啓発を行うなど、建築物の耐震化を促進します。

施 策	新・継	実施主体
住宅相談体制の充実（再掲）	継続	市・団体
伊万里市耐震改修促進計画の促進（再掲）	継続	国・県・市
耐震診断・耐震改修費補助制度の周知（再掲）	継続	県・市・団体

(29) 室内の安全対策の啓発（再掲）

防災対策として、地震時の家具の転倒防止対策や通電火災の発生防止、火災警報器の設置及び点検など、住宅の室内の安全対策の充実に取り組みます。

施 策	新・継	実施主体
家具等の転倒・落下防止対策の紹介（再掲）	新規	団体
通電火災の発生防止の啓発（再掲）	新規	団体
火災警報器設置・点検の啓発（再掲）	継続	団体

■室内の安全対策：家具等の転倒・落下防止策の例

**安全な家具の配置**

**Point**

- 避難通路、出入口周辺に転倒、移動しやすい家具類を置かないようにしましょう。
- 引き出しが飛び出すことで、つまずいてケガをしたり、避難の妨げになることがあるので、家具類を置く方向にも注意しましょう。

避難通路をふさがない配置にします。

「寝る場所」や「座る場所」にはなるべく家具を置かないようにしましょう。置く場合には背の低い家具にするか、家具の置き方を工夫します。

背の低い家具にする。

家具の置き方を工夫する。

「ドアが開かない」

移動

転倒

「ドアが開く」

移動

転倒

(30) 生活道路の整備（継続）

災害に備えたまちづくりを進めていくため、避難や緊急車両の通行に支障がある生活道路の整備を推進します。

施 策	新・継	実施主体
生活道路の整備（再掲）	継続	市

(31) 風水害対策の推進（継続）

全行政区で作成をしている「わがまち・わが家の防災マップ」を更新して住民への周知を徹底するほか、避難訓練等の実施により、災害への備えを行います。

また、特に危険が予想される地域においては、県の「がけ地近接等危険住宅移転促進事業」を活用するなどの災害への備えを推進します。

施 策	新・継	実施主体
「わがまち・わが家の防災マップ」の更新と市民への周知	継続	市
避難訓練等の実施	継続	団体・市民・市
河川改修、砂防事業等の推進	継続	国・県・市
がけ地近接等危険住宅移転促進事業の活用	継続	県・市

■ がけ地近接等危険住宅移転促進事業

対象となる危険住宅とは？

危険住宅とは、地すべり、山くずれ、がけ地の崩壊及び土石流のおそれがあり、かつ、これらの危険を避けるため住宅の移転を要すると認められる地域（地すべり等危険地域）内にある住宅をいいます。佐賀県では以下の地域内が対象となります。

ただし、地すべり等の防止に関する防災工事が施されていないことが条件です。

補助の内容

▶ 除去等費

危険住宅の除去等に要する費用  
（撤去費、動産移転費、仮住居費、跡地整備費など）

限度額：一戸当たり 802千円





## 第5章 計画の推進に向けて

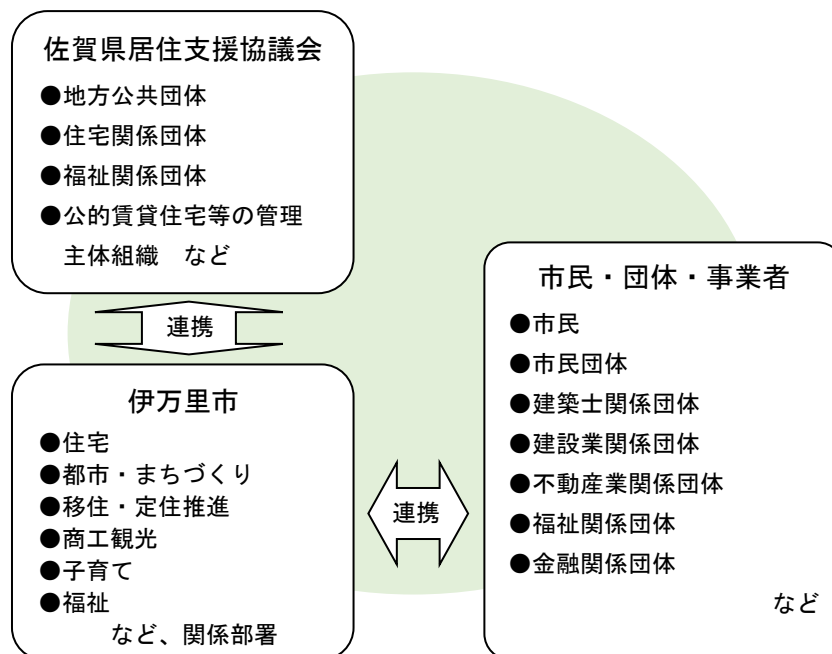
### 1. 市民ニーズの把握

市民と協働して計画を推進していくため、住環境や住宅施策等に関する市民意識調査や、住宅施策等に関するパブリックコメントなどの機会を活用して市民意識を把握するとともに、住宅関連団体等へのヒアリングを行います。

### 2. 協働による推進

本計画の推進にあたっては、行政のみでなく、市民・市民団体・住宅関連団体・住宅関連事業者等が協働で取り組む体制を整えます。

#### ■推進体制のイメージ





# 資料編

## 目次

### 資料1 計画の策定について

1. 伊万里市住生活基本計画策定委員会設置要綱	46
2. 計画の位置づけ	47
3. 計画策定経緯	48

### 資料2 市民意向調査について

1. 調査票	49
2. 調査結果	54

### 資料3 用語集

用語集	86
-----	----



## 資料1 計画の策定について

### 1. 伊万里市住生活基本計画策定委員会設置要綱

#### (設置)

第1条 伊万里市におけるまちづくりの重要な位置を占める住生活施策を、総合的に計画し推進する基本的な目標となる伊万里市住生活基本計画を策定するため、伊万里市住生活基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (業務内容)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 住宅施策の課題と目標に関すること。
- (2) 住生活の住宅に関する基本的な施策策定に関すること。
- (3) その他住宅施策に関すること。

#### (組織)

第3条 委員会は、委員10名以内で構成し、市長が委嘱する。

#### (任期)

第4条 委員の任期は、平成29年9月28日から平成30年3月31日までとする。

#### (委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1名を置き、委員の内から互選する。

- 2 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故のあるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

#### (会議)

第6条 会議は、委員長が召集する。

- 2 会議の議長は、委員長をもって充てる。
- 3 委員長は、必要に応じて関係者の出席を要請し、意見を求めることができる。

#### (庶務)

第7条 委員会の庶務は、建設部都市政策課において処理する。

#### 附則

この要綱は、平成29年9月28日から施行し、平成30年3月31日限り、その効力を失う。

## 2. 伊万里市住生活基本計画策定委員会構成

(敬称略 順不同)

	氏名	所属
委員長	ごとう りゅうたろう 後藤 隆太郎	佐賀大学 工学系研究科 准教授
副委員長	たなか けいぞう 田中 啓三	伊万里市区長会連合会 監事
委員	えのもと ちづこ 榎本 智津子	いまり女性ネットワーク
	つづみ ゆうき 堤 悠樹	(一社) 伊万里青年会議所 理事長
	ふくだ きいち 福田 喜一	伊万里市身体障害者福祉協会 会長
	まえだ こうじ 前田 耕二	(一社) 佐賀県宅地建物取引業協会 伊万里支部 副支部長
	まえやま たかよし 前山 隆嘉	(一社) 佐賀県建築士会 伊万里地区 理事

## 3. 計画策定経緯

年月日	名称	内容・議題
平成 29 年 9 月 28 日	第 1 回 住生活基本計画策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 住生活基本計画について</li> <li>(2) 国・県の「住生活基本計画」の概要について</li> <li>(3) 現行の「伊万里市住生活基本計画」の概要及び本市の取り組みについて</li> <li>(4) 本市の住生活をめぐる現状、課題及び計画見直しの方向性（案）について</li> <li>(5) 住生活に関する市民意向調査について</li> </ul>
平成 29 年 11 月 14 日～ 平成 29 年 11 月 30 日	市民意向調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 一般住民向け</li> <li>(2) 市営住宅入居者向け</li> </ul>
平成 30 年 1 月 19 日	第 2 回 住生活基本計画策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市民意向調査結果について</li> <li>(2) 具体的な施策（案）について</li> </ul>
平成 30 年 2 月 9 日	第 3 回 住生活基本計画策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 伊万里市住生活基本計画 2018 年度～2027 年度【素案】について</li> </ul>
平成 30 年 3 月 29 日	第 4 回 住生活基本計画策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 伊万里市住生活基本計画（案）のパブリックコメントについて</li> </ul>



## 資料2 市民意向調査について

### 1. 調査票

## 伊万里市民意向調査

### ◆アンケート調査へのご協力をお願い◆

市民の皆さまには、日頃から市政へのご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。  
この度、伊万里市では、若者から高齢者まで安心して住み続けられる住まいづくり・まちづくりに向け、住宅施策の指針となる「伊万里市住生活基本計画」を策定しております。

この計画の策定にあたり、市民の皆さまから、現在のお住まいに対する評価や将来のお住まいに対する要望などをお聞きするために、無作為に選んだ市民900名の皆さまに本調査票をお送りさせていただきました。

調査票にご記入いただいた内容につきましては、統計的な処理をしたうえで活用させていただくものであり、個人的にご迷惑をお掛けすることはありません。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、調査の目的、趣旨をご理解のうえ、率直なご意見をお聞かせくださいますようよろしくお願い申し上げます。

平成29年11月  
伊万里市長 塚部 芳和

#### ●ご記入にあたってのお願い

- ・ あて名のご本人様がお答えください。
- ・ 調査票や同封の返信用封筒に氏名や住所を記入する必要はありません。
- ・ この調査によって、個人が特定されることは一切ありませんので、思いのままにお答えください。
- ・ 回答は、特に指定のない場合は、設問ごとに1つ選び、番号に○をつけ、複数回答の指定がある場合は、あてはまるものを各設問に従ってお答えください。
- ・ 「その他」に○をつけた方は、( ) 内に具体的な内容をお書きください。

#### ●調査票の回収について

ご記入済の調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、平成29年11月30日(木)までにポストに投函ください。

#### ●調査に関するお問い合わせ先

このアンケートについてご質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

伊万里市役所 建設部 都市政策課 建築住宅係  
電話：(0955)-23-2464 FAX：(0955)-22-4562  
E-mail：toshiseisaku@city.imari.lg.jp

**1. あなたご自身とご家族のことについておたずねします。**

問1. あなたとご家族についてご記入ください。

あなたの性別 男 ・ 女

あなたの年齢  歳

あなたを含めたご家族の人数

14歳以下	<input type="text"/>	人	} 合計 <input type="text"/> 人
15歳～64歳	<input type="text"/>	人	
65歳以上	<input type="text"/>	人	

あなたの家族構成  世代家族 ←

※単身、夫婦のみは「1世代」  
 夫婦とその子供、夫婦とその孫は「2世代」  
 夫婦とその子供と孫、夫婦とその親と子供は「3世代」  
 とお答えください

**2. 現在のお住まいについておたずねします。**

問2. 現在のお住まいの地区はどちらですか。

- |          |          |          |           |
|----------|----------|----------|-----------|
| 1. 伊万里地区 | 2. 牧島地区  | 3. 大坪地区  | 4. 立花地区   |
| 5. 大川内地区 | 6. 黒川地区  | 7. 波多津地区 | 8. 南波多地区  |
| 9. 大川地区  | 10. 松浦地区 | 11. 二里地区 | 12. 東山代地区 |
| 13. 山代地区 |          |          |           |

問3. 現在のお住まいの種類はなんですか。

- |              |           |       |
|--------------|-----------|-------|
| 1. 持家        | 2. 民間の借家  | 3. 社宅 |
| 4. 市営住宅、県営住宅 | 5. その他( ) |       |

問4. 10年以内に現在のお住まいに住み替えた方におたずねします。

現在のお住まいに移り住む前はどちらにお住まいでしたか。

- |          |                     |          |           |
|----------|---------------------|----------|-----------|
| 1. 伊万里地区 | 2. 牧島地区             | 3. 大坪地区  | 4. 立花地区   |
| 5. 大川内地区 | 6. 黒川地区             | 7. 波多津地区 | 8. 南波多地区  |
| 9. 大川地区  | 10. 松浦地区            | 11. 二里地区 | 12. 東山代地区 |
| 13. 山代地区 | 14. 伊万里市外( 県 市・町・村) |          |           |

問5. 10年以内に現在のお住まいに住み替えた方におたずねします。

現在のお住まいに移り住む前の住まいの種類はなんでしたか。

- |              |           |       |
|--------------|-----------|-------|
| 1. 持家        | 2. 民間の借家  | 3. 社宅 |
| 4. 市営住宅、県営住宅 | 5. その他( ) |       |

問6. 現在のお住まいで、高齢者等に配慮した設備がありますか。

回答例に従って、各項目についてあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

項目	配慮してある	今はないが 今後は必要だ と思う	今はなく 今後も必要だ と思わない
(回答例) 玄関までのスロープの設置	1	2	3
① 玄関までのスロープの設置	1	2	3
② 住宅内の段差の解消	1	2	3
③ トイレ、浴室、玄関への手すりの設置	1	2	3
④ ドアの取っ手や蛇口のレバーハンドル化	1	2	3
⑤ トイレの温水洗浄便座の設置	1	2	3
⑥ 浴槽のまたぎ易さ(またぎ高さが低い)	1	2	3
⑦ その他( )	1	2	3

問7. 現在のお住まいや周辺の住環境について、どう感じていますか。  
 回答例に従って、各項目についてあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

項目		満足	どちらでもない	不満	【「不満」に○をつけた方】 不満の要因は何ですか？
(回答例) 住宅の広さ		1	2	3	子ども部屋がない。
住宅 について	① 住宅の広さ	1	2	3	
	② 台所の設備	1	2	3	
	③ 浴室の設備	1	2	3	
	④ 便所の設備	1	2	3	
	⑤ 日当たり・風通し	1	2	3	
	⑥ 湿気のコもり(結露)	1	2	3	
	⑦ 住宅の新しさ(築年数)	1	2	3	
	⑧ 住宅の防犯性	1	2	3	
	⑨ 住宅の耐震性	1	2	3	
	⑩ 家賃や住宅ローン	1	2	3	
周辺 環境 について	① 公園や広場	1	2	3	
	② 公民館や集会施設	1	2	3	
	③ 緑や水辺などの自然	1	2	3	
	④ 日常の買い物の利便性	1	2	3	
	⑤ 文化施設	1	2	3	
	⑥ 教育施設	1	2	3	
	⑦ 医療・福祉施設	1	2	3	
	⑧ 交通の利便性	1	2	3	
	⑨ 道路の整備状況	1	2	3	
	⑩ 下水道の整備状況	1	2	3	
	⑪ 避難路や避難広場など 災害に対する安全性	1	2	3	

3. 今後のお住まいについておたずねします。

問8. 今後の住み替え等の意向・希望についておたずねします。

あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 今の住宅で、このまま住み続けたい
2. 今の住宅を増改築・建替え・リフォームをして住み続けたい
3. 市内で住み替えたい(賃貸住宅)
4. 市内で住み替えたい(持ち家の取得)
5. 市外に住み替えたい
6. 考えていない、わからない

問9. 今後のお住まいについて、不安や気になっていることがありますか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自分や家族が高齢になり、階段や浴室などの使用がつかなくなるかもしれない
2. 地震や台風などの災害に対し、住環境や避難などの備えが十分でないかもしれない
3. 子どもを産み、育てるときに教育や医療施設などの環境が十分でないかもしれない
4. 住宅ローンや家賃が払えなくなるかもしれない
5. 近所の人たちが他の場所に引越して、近くに知り合いがいなくなってしまうかもしれない
6. 周辺に空き家が増加し、住環境が悪化してしまうかもしれない
7. 公共交通が不便になり、買い物や通院などに出かけることが難しくなるかもしれない
8. その他( )

問10. 問8で、1、2、6に○を付けた方におたずねします。現在の住まいに住み続けるために重視したいことは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 高齢化にともなう住宅や設備の改善
2. 災害に対する住宅や住環境の安全性
3. 子どものための保育所、学校、病院などの施設
4. 老後の買い物や通院の利便性
5. 周辺の住環境(道路・公園など)
6. 伊万里らしい町並み景観の維持・保全
7. 近隣の人たちとの付き合い
8. その他( )

問11. 若い世代の人におたずねします。高齢の親との今後の理想の住まい方について、**あてはまるものに1つだけ○をつけてください。**

1. 世帯同居する
2. 隣同士や離れ、または同じマンションの別の住宅に住む
3. 歩いて行ける所や車ですぐに駆けつけられる所に住む
4. 親の住まいの場所は特に考慮せずに住む
5. その他( )

問12. 高齢の世代の人におたずねします。独立した子との今後の理想の住まい方について、**あてはまるものに1つだけ○をつけてください。**

1. 世帯同居する
2. 隣同士や離れ、または同じマンションの別の住宅に住む
3. 歩いて行ける所や車ですぐに駆けつけられる所に住む
4. 子の住まいの場所は特に考慮せずに住む
5. その他( )

**4. 現在の伊万里市の住宅施策についておたずねします。**

問13. 現在伊万里市が取り組んでいる住宅施策についてどう思いますか。  
**あてはまるものに1つ○をつけてください。**

項目	今後も必要	わからない	あまり必要でない
(回答例) 防犯性の高い住宅の普及	1	2	3
① 住宅の耐震化・火災予防の促進	1	2	3
② 防犯性の高い住宅の普及	1	2	3
③ 安全な室内環境の住宅普及(※1)	1	2	3
④ 風水害対策	1	2	3
⑤ 住宅のバリアフリー化の促進	1	2	3
⑥ ユニバーサルデザイン住宅の普及	1	2	3
⑦ 住宅取得支援	1	2	3
⑧ 住み替え、リフォーム支援	1	2	3
⑨ 市営住宅による、住宅に困窮する世帯への支援	1	2	3
⑩ 子育てサポートの場の形成	1	2	3
⑪ 公営住宅の整備・改善	1	2	3
⑫ 省エネ、環境共生、エコ住宅の普及	1	2	3
⑬ 長寿命住宅の普及	1	2	3
⑭ 地元住宅産業事業者の育成・意識醸成	1	2	3
⑮ 県産材の活用普及	1	2	3
⑯ 伝統的な住宅・まちなみの保全・活用	1	2	3
⑰ 伊万里らしい景観の形成	1	2	3
⑱ 市街地での空き家対策・活用	1	2	3
⑲ 農山漁村集落での空き家対策	1	2	3
⑳ 良好な住環境形成のための民間開発誘導	1	2	3
㉑ 住環境の整備	1	2	3
㉒ ニーズに対応した住情報の提供	1	2	3
㉓ 民間住宅市場の活性化	1	2	3
㉔ 地方居住ニーズ(移住)への支援推進	1	2	3
㉕ 企業誘致に対応した市内への定住促進施策の展開	1	2	3

(※1)シックハウス症候群の防止、問題への取り組みとして、情報提供及び相談窓口の活用促進

**5. 今後の伊万里市の住宅施策についておたずねします。**

問14. 「問13」の現在の伊万里市の住宅施策のほかに、必要だと思う取り組みは何ですか。

**必要と思うもの3つまで選んで○をつけてください。**

- |                              |                       |
|------------------------------|-----------------------|
| 1. 親子孫(三世代)の同居や近居の促進         | 2. 災害に備えた住環境の整備       |
| 3. 既存住宅(中古住宅)の活用促進           | 4. 空き家の活用促進           |
| 5. 危険な空き家対策の推進               | 6. 木造住宅の担い手(大工さん等)の育成 |
| 7. 高齢者や障がい者等を拒まない民間賃貸住宅の供給促進 |                       |
| 8. その他( )                    |                       |

問15. 地域の空き家を住民自ら活用していく場合、どのようにして取り組むべきだと思いますか。**必要と思うもの2つまで選んで○をつけてください。**

1. 地域の交流施設や福祉施設などとして地域のみinnで利用する
2. 店舗や宿泊施設として活用して人を呼び込む
3. 売家や貸家として活用して人口の定着(定住)を図る
4. 空き家のままで、所有者から管理費用を徴収して地域住民が代わりに管理する
5. 危険な空き家は解体して、みんなの菜園や広場、駐車場として利用する
6. その他( )

問16. 高齢者が安心して暮らすために、どのような取り組みが必要とご思いますか。

**必要と思うものに2つまで○をつけてください。**

1. 安全・快適に移動するための道路の整備や、高齢者が憩える公園・広場の整備
2. みんなが集え、学習や趣味の活動に自由に使える集会施設の整備
3. 高齢者に配慮した住宅改善への支援(補助・融資制度)
4. 医療・福祉施設と連絡が取れる緊急通報システムの設置推進
5. 日常生活に必要な介護機器等の給付
6. 老人ホーム(入所施設)や高齢者向け住宅の整備の促進
7. 高齢者や障がい者等の入居を拒まない民間の賃貸住宅の供給促進
8. 今後の住まいに関する相談サービスの提供
9. その他( )

問17. 子育て世帯が安心して暮らせるために、どのような取り組みが必要とご思いますか。

**必要と思うものに2つまで○をつけてください。**

1. 子どもがひろびろと暮らせる、ゆとりある住宅の整備
2. 子どもの安全性に配慮した住宅の整備
3. 地域の子ども同士が気軽に遊べる公園や広場の整備
4. 事故や犯罪から子どもを守る安全な住環境の整備
5. 子育て中の親が交流する場(施設)の整備
6. 地域住民が子どもたちを見守る体制づくり
7. 地域の行事や地域の活動に子どもを参加させる取組み
8. その他( )

**6. 自由記入欄**

伊万里市の住宅施策に対するご希望・ご要望をご自由にお書きください。

-----

-----

ご協力ありがとうございました。

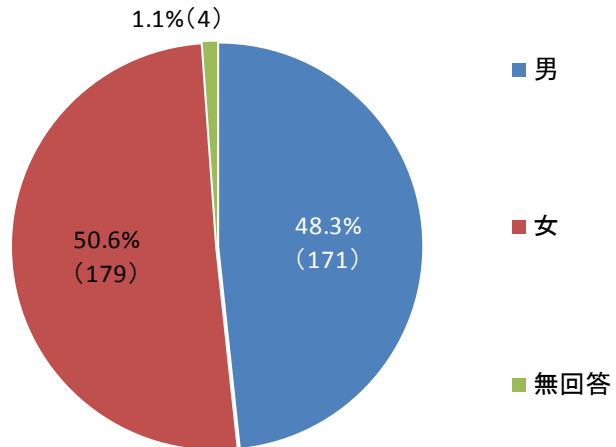
## 2. 調査結果

## I. あなたご自身のことについておたずねします。

## 【問1】あなたとご家族についてご記入ください。

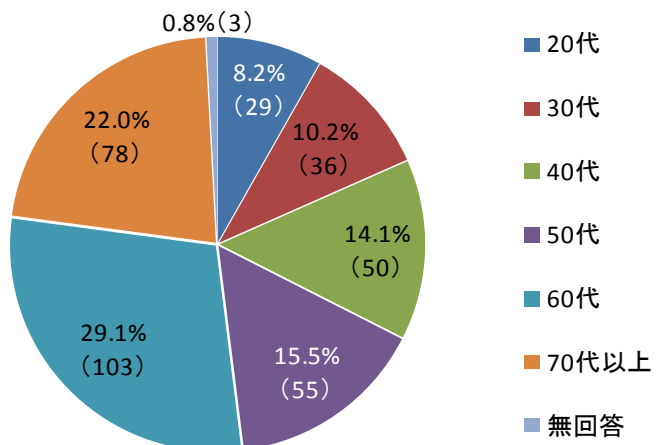
## ① 性別(N=354)

男女ほぼ半数ずつとなっているが、若干「女性」の回答が多い(50.6%)。



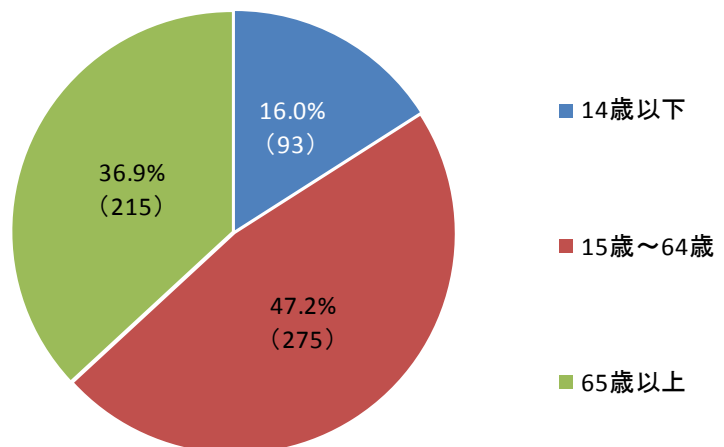
## ② 年齢(N=354)

「60代」(29.1%)と「70代以上」(22.0%)の合計が過半数を占めており「50代」(15.5%)を含めると全体の7割弱(66.6%)を占めている。



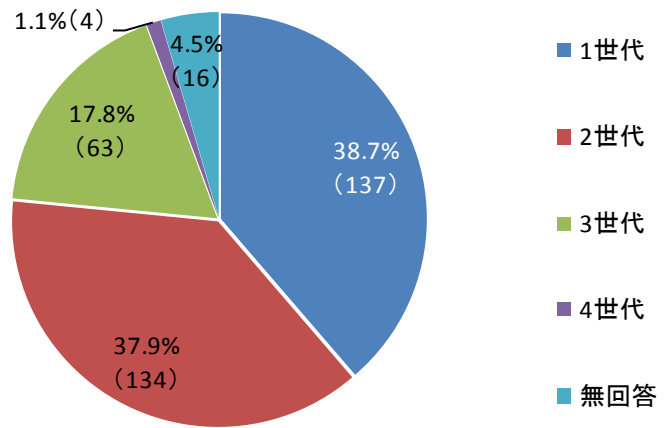
## ③ 家族の人数(N=354)

同居する家族の年齢は「15歳～64歳」が最も多く、約半数(47.2%)を占めていることから、回答者自身よりも若い世代(子世代)と同居している割合が高い。



④ 家族構成(N=354)

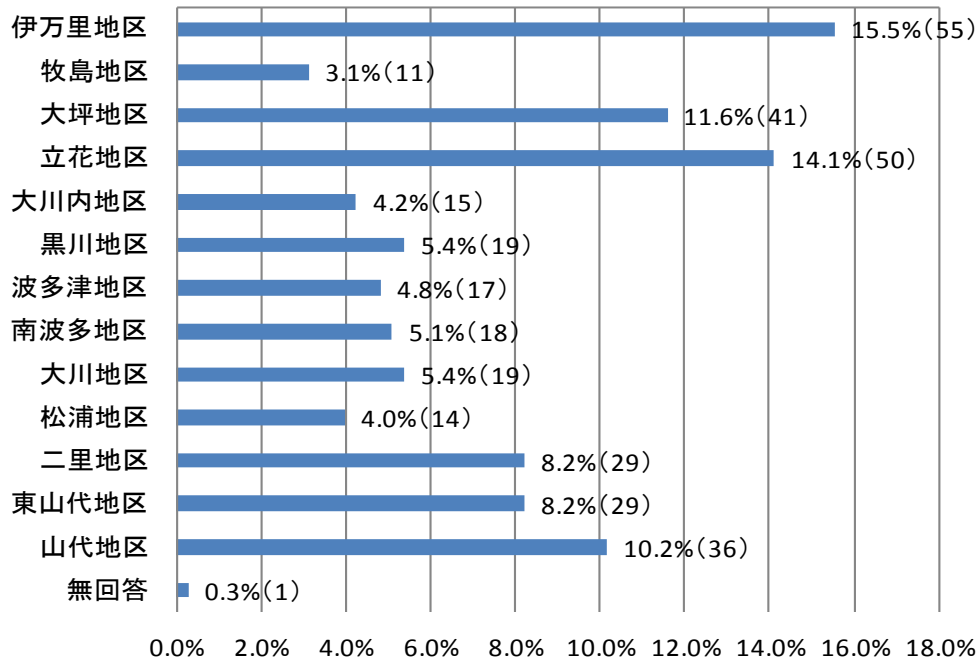
「1世代同居」(38.7%)と「2世代同居」(37.9%)がほぼ同程度となっており、合計すると76.6%を占めている。



II. 現在のお住まいについておたずねします。

【問2】 現在のお住いの地区はどちらですか。(N=354)

「伊万里地区」が最も多く、15.5%となっており、次いで「立花地区」が14.1%となっている。居住地区割合の統計データと比較しても、本調査における回答者の居住地区割合と大きな相違は見られない。



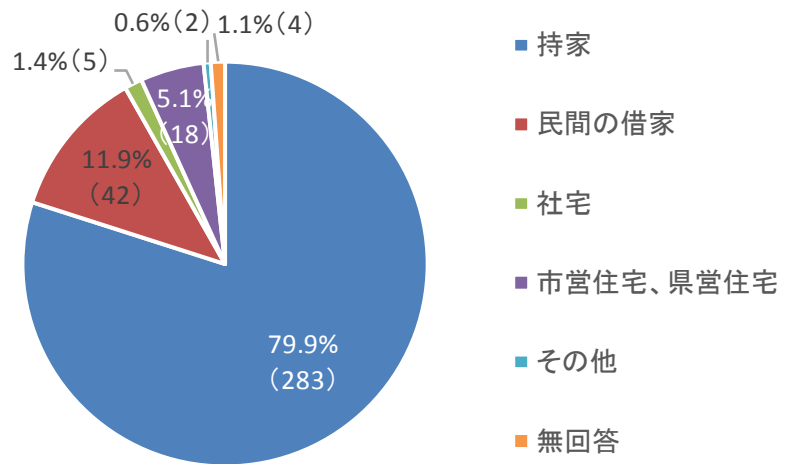
【参考：地区別人口・世帯（統計伊万里、H29.12.1）】

	伊万里地区	牧島地区	大坪地区	立花地区	大川内地区	黒川地区	波多津地区	南波多地区	大川地区	松浦地区	二里地区	東山代地区	山代地区	合計
人口	6,912	1,419	7,801	7,772	2,141	3,062	2,269	2,512	2,346	2,309	6,359	5,833	4,932	55,667
世帯数	2,948	592	3,134	3,484	867	1,373	803	817	868	905	2,761	2,389	2,265	23,206
全人口に占める割合	12.4%	2.5%	14.0%	14.0%	3.8%	5.5%	4.1%	4.5%	4.2%	4.1%	11.4%	10.5%	8.9%	100%



【問3】 現在のお住いの種類は何ですか。(N=354)

「持家」が約8割(79.9%)と、最も多い回答となっている。

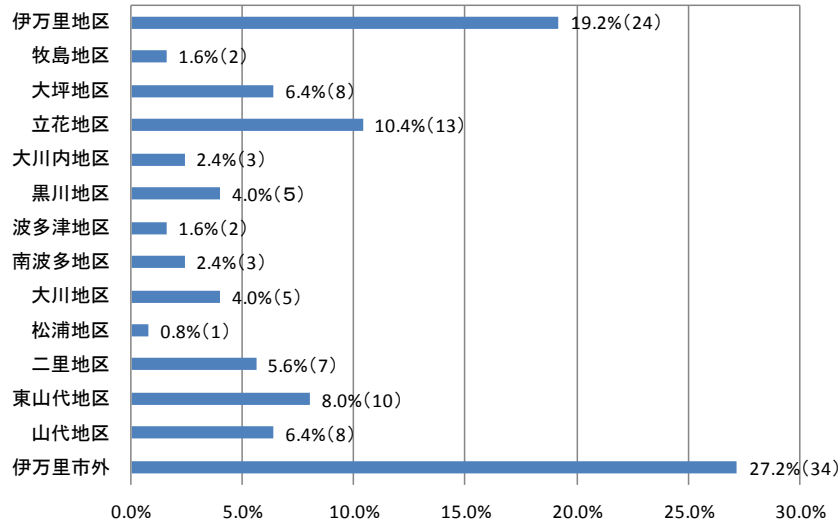


■ 年齢別・地区別集計

	数値; 上段=% 下段=件数	サンプル数	持家	民間の借家	社宅	市営住宅、 県営住宅	その他	無回答
			%	件数	%	件数	%	件数
全体	100.0	354	79.9	11.9	1.4	5.1	0.6	1.1
			283	42	5	18	2	4
年齢別	20歳代	100.0	55.2	31.0	3.4	6.9	-	3.4
			29	16	1	2	-	1
	30歳代	100.0	63.9	22.2	8.3	5.6	-	-
			36	23	8	2	-	-
	40歳代	100.0	68.0	24.0	2.0	4.0	2.0	-
			50	34	12	2	1	-
	50歳代	100.0	83.6	9.1	-	7.3	-	-
		55	46	5	4	-	-	
60歳代	100.0	91.3	3.9	-	3.9	-	1.0	
		103	94	4	4	-	1	
70歳以上	100.0	87.2	5.1	-	5.1	1.3	1.3	
		78	68	4	4	1	1	
居住地区別	伊万里地区	100.0	63.6	25.5	-	10.9	-	-
			55	35	14	6	-	-
	牧島地区	100.0	72.7	18.2	-	9.1	-	-
			11	8	2	1	-	-
	大坪地区	100.0	80.5	14.6	-	2.4	-	2.4
			41	33	6	1	-	1
	立花地区	100.0	80.0	8.0	-	10.0	2.0	-
			50	40	4	5	1	-
	大川内地区	100.0	86.7	6.7	-	-	6.7	-
			15	13	1	-	1	-
	黒川地区	100.0	73.7	5.3	21.1	-	-	-
			19	14	1	4	-	-
	波多津地区	100.0	88.2	5.9	-	-	-	5.9
			17	15	1	-	-	1
	南波多地区	100.0	100.0	-	-	-	-	-
			18	18	-	-	-	-
大川地区	100.0	100.0	-	-	-	-	-	
		19	19	-	-	-	-	
松浦地区	100.0	100.0	-	-	-	-	-	
		14	14	-	-	-	-	
二里地区	100.0	69.0	31.0	-	-	-	-	
		29	20	9	-	-	-	
東山代地区	100.0	82.8	6.9	3.4	6.9	-	-	
		29	24	2	1	2	-	
山代地区	100.0	83.3	5.6	-	8.3	-	2.8	
		36	30	2	3	-	1	

【問4】 10年以内に現在のお住まいに住み替えた方におたずねします。現在のお住まいに移り住む前はどちらにお住まいでしたか。(n=125)

「伊万里市外」からの住み替えが27.2%と最も多い。伊万里市内では、「伊万里地区」(19.2%)、「立花地区」(10.4%)からの住み替えが多い。

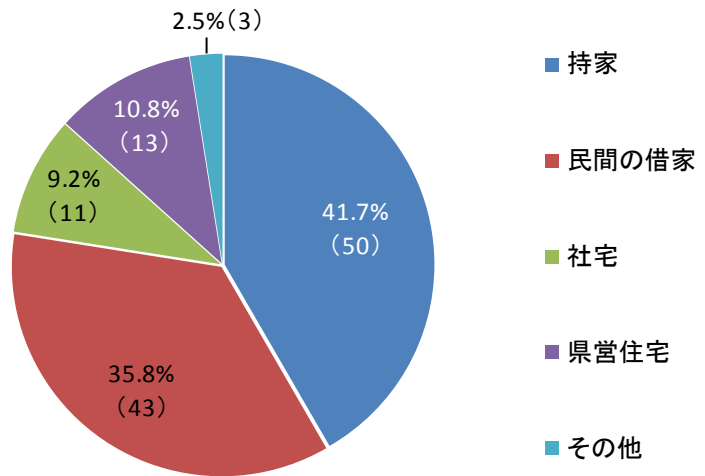


■年齢別・地区別集計

年齢別	サンプル数	地区別													
		伊万里地区	牧島地区	大坪地区	立花地区	大川内地区	黒川地区	波多津地区	南波多地区	大川地区	松浦地区	二里地区	東山代地区	山代地区	伊万里市外
全体	125	19.2	1.6	6.4	10.4	2.4	4.0	1.6	2.4	4.0	0.8	5.6	8.0	6.4	27.2
20歳代	19	5.3	-	10.5	15.8	-	-	-	-	-	-	10.5	10.5	5.3	42.1
30歳代	28	21.4	-	3.6	17.9	-	-	-	7.1	3.6	3.6	3.6	10.7	-	28.6
40歳代	22	27.3	-	4.5	9.1	4.5	-	4.5	-	-	-	9.1	9.1	-	31.8
50歳代	15	6.7	-	13.3	13.3	6.7	6.7	-	-	6.7	-	0.0	0.0	20.0	26.7
60歳代	21	23.8	4.8	4.8	-	4.8	9.5	-	4.8	9.5	-	4.8	14.3	4.8	14.3
70歳以上	19	26.3	5.3	5.3	5.3	0.0	10.5	5.3	0.0	5.3	-	5.3	-	10.5	21.1
伊万里地区	18	44.4	-	-	-	-	-	-	5.6	5.6	-	-	11.1	5.6	27.8
牧島地区	5	20.0	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	20.0
大坪地区	21	9.5	-	33.3	14.3	4.8	4.8	-	4.8	4.8	-	4.8	4.8	4.8	14.3
立花地区	25	24.0	-	4.0	32.0	-	8.0	-	-	-	-	12.0	-	-	20.0
大川内地区	3	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
黒川地区	5	-	-	-	-	-	40.0	-	-	-	-	-	20.0	-	40.0
波多津地区	4	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	75.0
南波多地区	3	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	33.3
大川地区	4	-	-	-	-	-	-	-	-	75.0	-	25.0	-	-	-
松浦地区	2	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二里地区	14	21.4	-	-	-	-	-	-	-	7.1	21.4	-	-	-	50.0
東山代地区	10	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	10.0	5.0	50.0
山代地区	11	18.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.2	45.5	18.2	

【問5】 10年以内に現在のお住まいに組み替えた方におたずねします。現在のお住まいに移り住む前の住まいの種類はなんでしたか。(n=120)

「持家」からの組み替えが最も多く、全体の41.7%を占めている。次いで「民間の借家」が35.8%となっている。



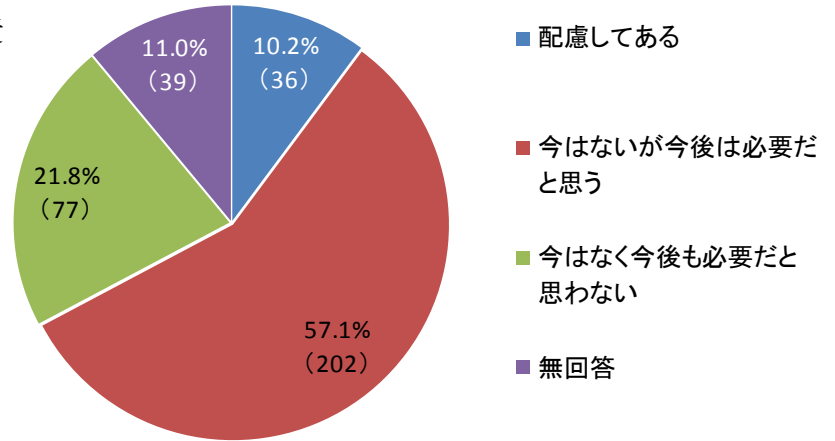
■年齢別・地区別集計

	数値: 上段=% 下段=件数	サンプル数	持家	民間の借家	社宅	市営住宅、 県営住宅	その他
全体	100.0	120	41.7 50	35.8 43	9.2 11	10.8 13	2.5 3
年齢別	20歳代	100.0	40.0 20	40.0 8	10.0 2	10.0 2	-
	30歳代	100.0	50.0 30	30.0 15	3.3 1	10.0 3	6.7 2
	40歳代	100.0	40.0 20	45.0 8	5.0 1	5.0 1	5.0 1
	50歳代	100.0	23.1 13	61.5 3	15.4 2	-	-
	60歳代	100.0	47.4 19	21.1 4	10.5 2	21.1 4	-
	70歳以上	100.0	38.9 18	27.8 7	16.7 3	16.7 3	-
	居住地区別	伊万里地区	100.0	46.7 15	26.7 4	13.3 2	6.7 1
牧島地区		100.0	20.0 5	80.0 1	-	-	-
大坪地区		100.0	50.0 22	31.8 11	13.6 7	4.5 3	-
立花地区		100.0	30.8 26	34.6 8	7.7 2	23.1 6	3.8 1
大川内地区		100.0	100.0 2	-	-	-	-
黒川地区		100.0	- 4	75.0 3	25.0 1	-	-
波多津地区		100.0	20.0 5	40.0 1	20.0 2	-	20.0 1
南波多地区		100.0	75.0 4	25.0 3	-	-	-
大川地区		100.0	50.0 2	50.0 1	-	-	-
松浦地区		100.0	100.0 2	-	-	-	-
二里地区		100.0	42.9 14	42.9 6	14.3 2	-	-
東山代地区		100.0	60.0 10	30.0 3	-	10.0 1	-
山代地区		100.0	22.2 9	33.3 3	-	44.4 4	-

【問6】 現在のお住まいで、高齢者等に配慮した設備がありますか。回答例に従って、各項目についてあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

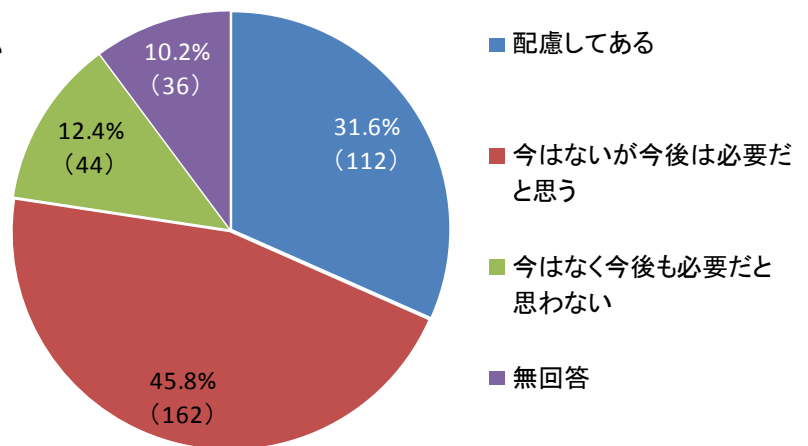
① 玄関までのスロープの設置 (N=354)

「今はないが今後は必要だと思う」とする回答が最も多く、全体の6割近く(57.1%)を占めている。



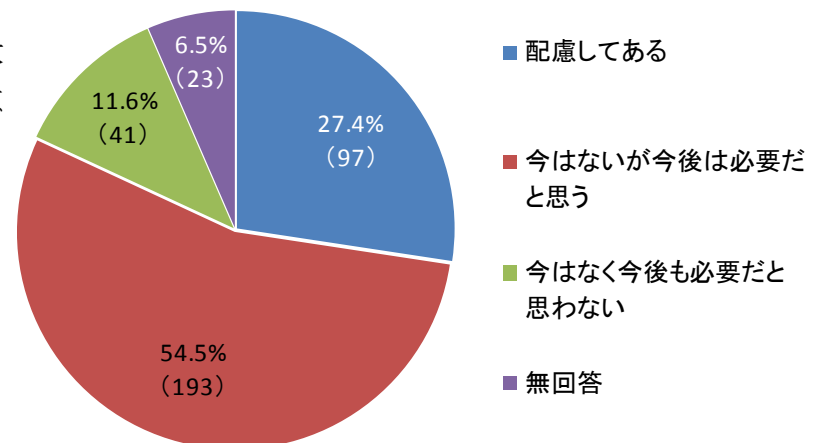
② 住宅内の段差の解消 (N=354)

「今はないが今後は必要だと思う」とする回答が最も多く(45.8%)、次いで配慮してあるとする回答が31.6%となっている。



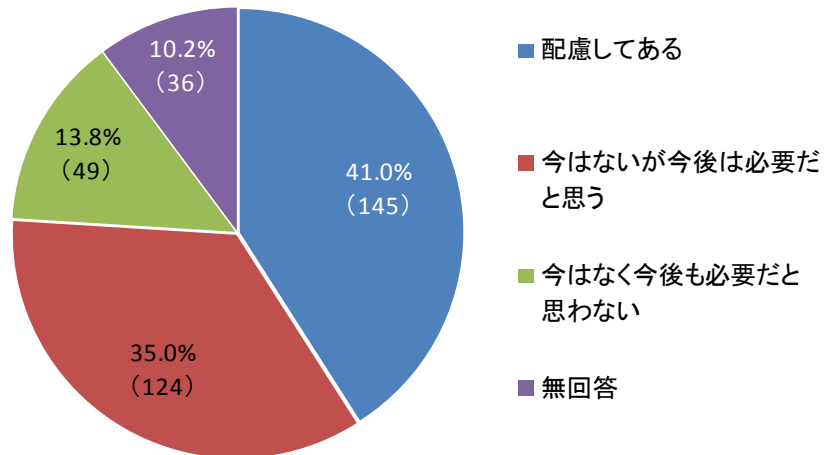
③ トイレ、浴室、玄関への手すりの設置 (N=354)

「今はないが今後は必要だと思う」とする回答が最も多く、全体の過半数を占めている(54.5%)。次いで「配慮してある」とする回答が約3割(27.4%)となっている。



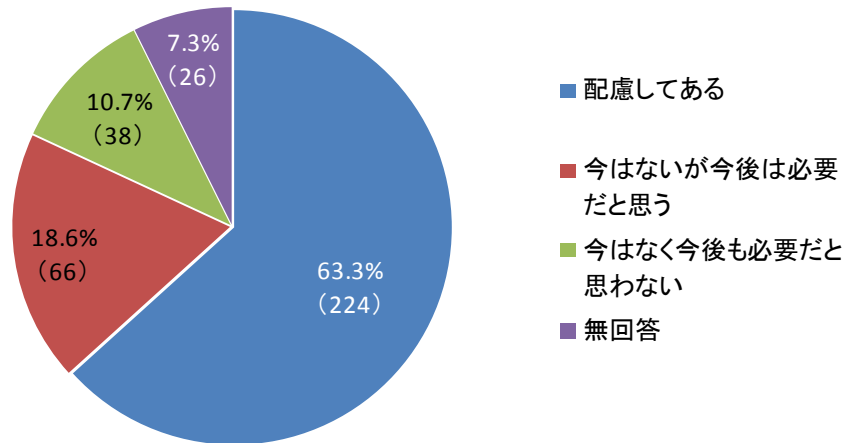
④ ドアの取っ手や蛇口のレバーハンドル化 (N=354)

「配慮してある」とする回答が 41.0% と、最も多い結果となっている。



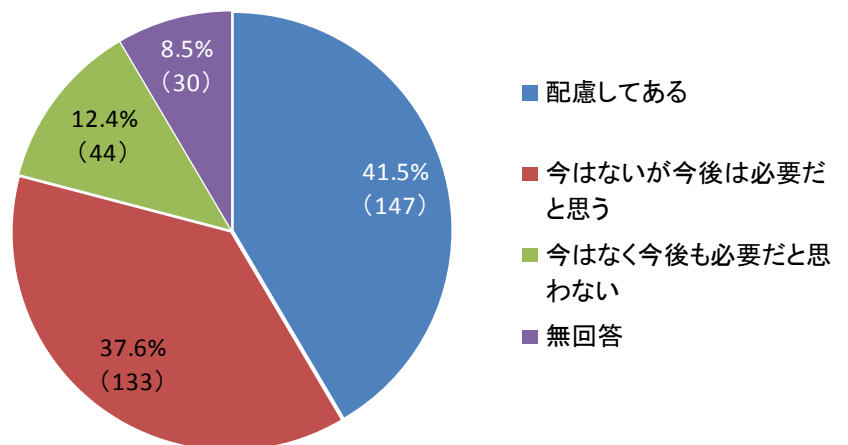
⑤ トイレの温水洗浄便座の設置 (N=354)

「配慮してある」とする回答が全体の 6 割以上 (63.3%) と、最も多い結果となっている。



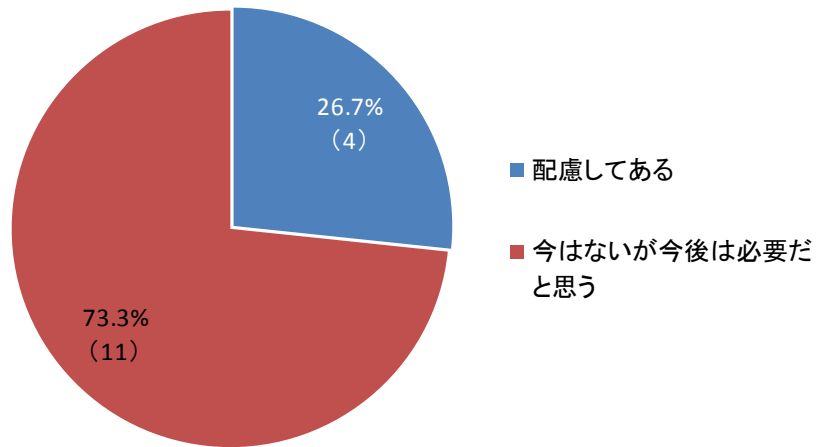
⑥ 浴槽のまたぎ易さ(またぎ高さが低い) (N=354)

「配慮してある」とする回答が全体の 4 割以上 (41.5%) と、最も多い結果となっており、「今はないが今後配慮が必要だと思う」とする回答 (37.6%) を含めると、全体の約 8 割 (79.1%) を占める。



⑦ その他(n=15)

その他の設備に「配慮してある」とする回答のうち、具体的には階段の手すり設置、トイレ・風呂を寝室の近くに設置、安全ブザーの設置、耐震性等の構造補強、浴室暖房などがあつた。



■ 年齢別・地区別集計

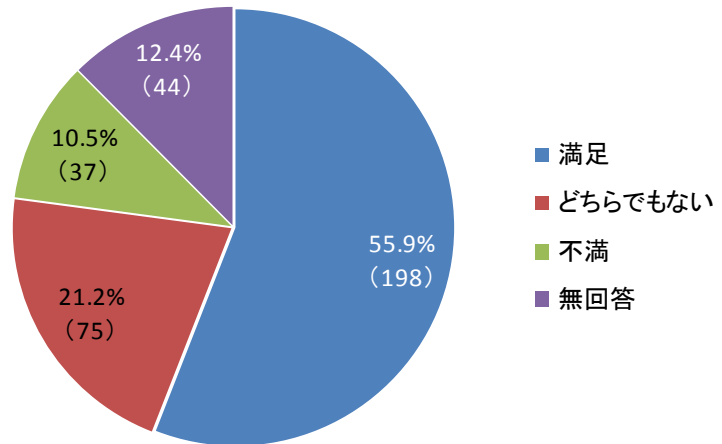
年齢別	地区別	サンプル数	①玄関までのスロープの設置				②住宅内の段差の解消				③トイレ、浴室、玄関への手すりの設置				④ドアの取っ手や蛇口のレバーハンドル化				⑤トイレの温水洗浄便座の設置				⑥浴槽のたまりぎ易さ(またぎ高さが低い)				⑦その他			
			配慮してある	今はないが今後は必要だと思う	今はなく今後も必要だと思わない	無回答	配慮してある	今はないが今後は必要だと思う	今はなく今後も必要だと思わない	無回答	配慮してある	今はないが今後は必要だと思う	今はなく今後も必要だと思わない	無回答	配慮してある	今はないが今後は必要だと思う	今はなく今後も必要だと思わない	無回答	配慮してある	今はないが今後は必要だと思う	今はなく今後も必要だと思わない	無回答	配慮してある	今はないが今後は必要だと思う	今はなく今後も必要だと思わない	無回答				
			数値: 上段=% 下段=件数																											
全体		1000	102	57.1	21.8	11.0	81.6	46.8	12.4	10.2	27.4	54.5	11.6	6.5	41.0	35.0	13.8	10.2	63.3	19.6	10.7	7.3	41.5	37.6	12.4	8.5	1.1	3.1	-	95.8
20歳代		1000	34	58.6	27.6	10.3	37.9	41.4	13.8	6.9	27.6	44.8	24.1	3.4	41.4	37.9	17.2	3.4	62.1	20.7	13.8	3.4	27.6	55.2	13.8	3.4	-	6.9	-	93.1
30歳代		1000	83	58.3	33.3	-	44.4	33.3	22.2	-	22.2	61.1	16.7	-	63.9	25.0	8.3	2.8	66.7	16.7	16.7	-	47.2	36.1	16.7	-	-	-	-	100.0
40歳代		1000	100	42.0	34.0	14.0	32.0	42.0	16.0	10.0	26.0	42.0	22.0	10.0	34.0	34.0	22.0	10.0	66.0	12.0	14.0	8.0	42.0	30.0	20.0	8.0	4.0	-	-	96.0
50歳代		1000	127	56.4	20.0	10.9	29.1	50.9	12.7	7.3	27.3	58.2	9.1	5.5	41.8	36.4	10.9	10.9	56.4	23.6	10.9	9.1	40.0	43.6	7.3	9.1	1.8	5.5	-	92.7
60歳代		1000	107	65.0	14.6	9.7	32.0	48.5	8.7	10.7	31.1	55.3	7.8	5.8	35.0	42.7	10.7	11.7	67.0	21.4	5.8	5.8	44.7	36.9	10.7	7.8	1.0	3.9	-	95.1
70歳以上		1000	115	57.7	16.7	14.1	25.6	50.0	10.3	14.1	25.6	61.5	5.1	7.7	43.6	29.5	16.7	10.3	62.8	16.7	11.5	9.0	42.3	34.6	11.5	11.5	-	2.6	-	97.4
伊万里地区		1000	109	52.7	27.3	9.1	23.6	52.7	14.5	9.1	25.5	58.2	14.5	1.8	36.4	41.8	14.5	7.3	49.1	25.5	20.0	5.5	30.9	38.2	20.0	10.9	3.6	5.5	-	90.9
牧島地区		1000	18.2	63.6	9.1	9.1	54.5	36.4	9.1	-	36.4	54.5	-	9.1	36.4	36.4	27.3	-	54.5	36.4	9.1	-	45.5	27.3	27.3	-	-	-	-	100.0
大坪地区		1000	19.5	48.8	29.3	2.4	51.2	29.3	14.6	4.9	34.1	48.8	17.1	-	48.8	22.0	22.0	7.3	73.2	9.8	14.6	2.4	48.8	34.1	12.2	4.9	2.4	4.9	-	92.7
立花地区		1000	16.0	58.0	10.0	16.0	44.0	38.0	6.0	12.0	30.0	56.0	6.0	8.0	60.0	22.0	6.0	12.0	78.0	4.0	6.0	12.0	60.0	30.0	2.0	8.0	-	4.0	-	96.0
大川内地区		1000	6.7	60.0	13.3	20.0	20.0	46.7	20.0	13.3	33.3	40.0	6.7	20.0	6.7	26.7	26.7	20.0	26.7	26.7	26.7	20.0	20.0	46.7	20.0	13.3	-	13.3	-	86.7
黒川地区		1000	-	47.4	47.4	5.3	15.8	47.4	31.6	5.3	21.1	47.4	31.6	-	21.1	36.8	36.8	5.3	67.9	26.3	15.8	-	26.3	36.8	31.6	5.3	-	-	-	100.0
漆多津地区		1000	5.9	70.6	11.3	11.8	29.4	52.9	5.9	11.8	28.5	64.7	-	11.8	29.4	58.8	-	11.8	64.7	29.5	5.9	5.9	29.4	52.9	5.9	11.8	-	-	-	100.0
南波多地区		1000	-	66.7	22.2	11.1	22.2	50.0	27.8	-	22.2	61.1	16.7	-	38.9	50.0	5.6	5.6	61.1	27.8	5.6	5.6	27.8	61.1	5.6	5.6	5.6	5.6	-	94.4
大川地区		1000	105	63.2	10.5	15.8	42.1	36.8	5.3	15.8	42.1	42.1	5.3	10.5	57.9	21.1	5.3	15.8	84.2	5.3	-	10.5	68.4	15.8	5.3	10.5	-	-	-	100.0
松浦地区		1000	14.3	50.0	28.6	7.1	21.4	64.3	7.1	7.1	35.7	50.0	7.1	7.1	42.9	42.9	7.1	7.1	64.3	21.4	7.1	7.1	28.6	50.0	14.3	7.1	-	-	-	100.0
二里地区		1000	34	58.6	31.0	6.9	34.5	44.8	13.8	6.9	17.2	51.7	24.1	6.9	51.7	20.7	20.7	6.9	72.4	13.8	6.9	6.9	51.7	27.6	13.8	6.9	3.4	-	-	96.6
東山代地区		1000	6.9	62.1	17.2	13.8	24.1	44.8	10.3	20.7	24.1	48.3	10.3	17.2	34.5	31.0	10.3	24.1	55.2	27.6	3.4	13.8	44.8	31.0	10.3	13.8	-	3.4	-	96.6
山代地区		1000	8.3	58.3	19.4	13.9	19.4	61.1	5.6	13.9	22.2	72.2	2.8	2.8	33.3	52.8	8.3	5.6	63.9	22.2	11.1	2.8	33.3	52.8	8.3	5.6	-	-	-	100.0

【問7】 現在のお住まいや周辺の住環境について、どう感じていますか。回答例に従って、各項目についてあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

### 住宅について

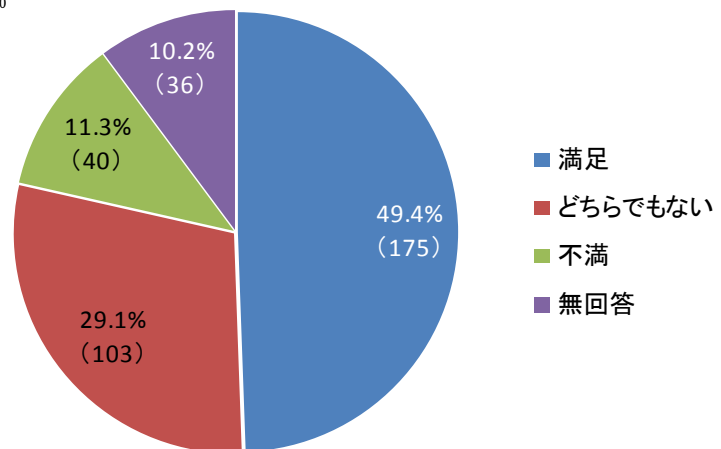
#### ① 住宅の広さ(N=354)

「満足」とする回答が最も多く、全体の過半数（55.9%）を占めている。



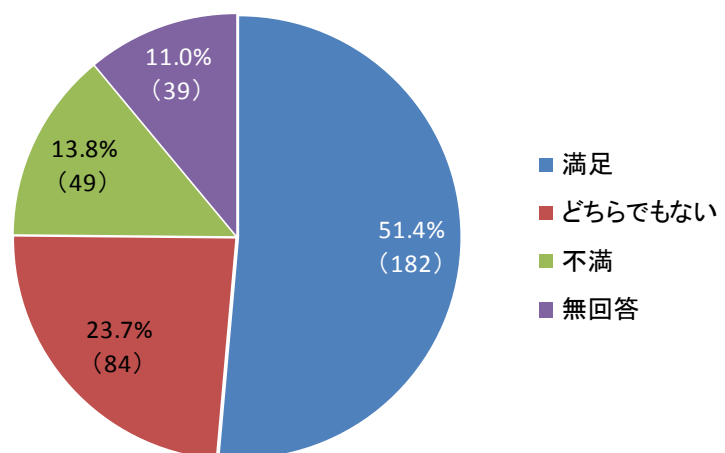
#### ② 台所の設備(N=354)

「満足」とする回答が最も多く、49.4%となっている。



#### ③ 浴槽の設備(N=354)

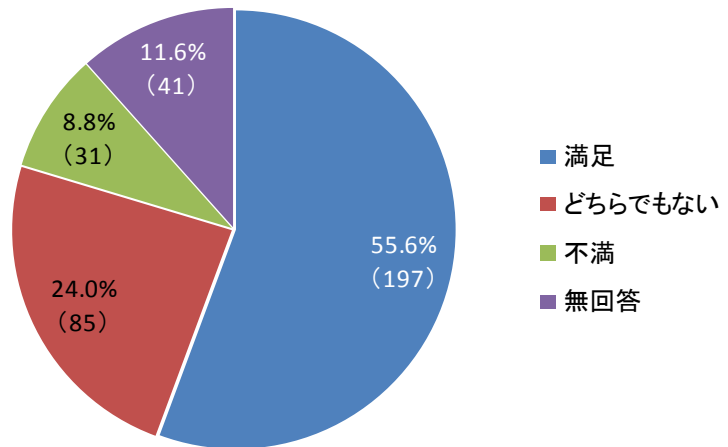
「満足」とする回答が最も多く、全体の過半数（51.4%）を占めている。





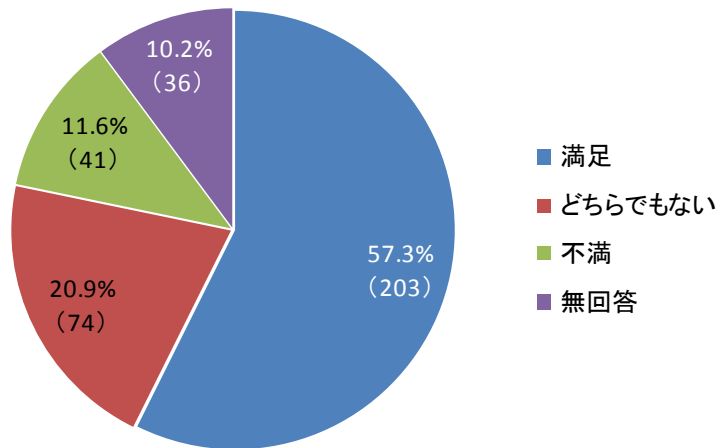
④ 便所の設備(N=354)

「満足」とする回答が最も多く、全体の過半数（55.6%）を占めている。



⑤ 日当たり・風通し(N=354)

「満足」とする回答が最も多く、全体の過半数（57.3%）を占めている。

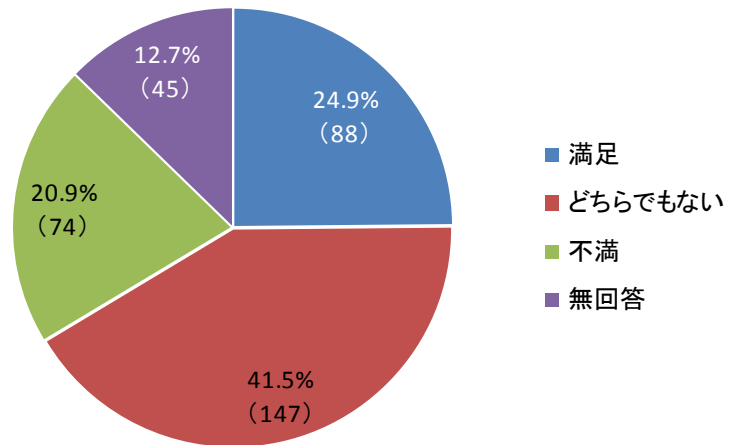


■年齢別・地区別集計 (①～⑤)

	サンプル数	①住宅の広さ				②台所の設備				③浴槽の設備				④便所の設備				⑤日当たり・風通し				
		満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	
全体	100.0 354	55.9 198	21.2 75	10.5 37	12.4 44	49.4 175	29.1 103	11.3 40	10.2 36	51.4 182	23.7 84	13.8 49	11.0 39	55.6 197	24.0 85	8.8 31	11.6 41	57.3 203	20.9 74	11.6 41	10.2 36	
年齢別	20歳代	100.0 29	58.6 17	27.6 8	10.3 3	3.4 1	41.4 12	44.8 13	10.3 3	3.4 1	48.3 14	37.9 11	6.9 2	6.9 2	48.3 14	31.0 9	17.2 5	3.4 1	55.2 16	27.6 8	13.8 4	3.4 1
	30歳代	100.0 36	50.0 18	27.8 10	19.4 7	2.8 1	52.3 19	30.6 11	16.7 6	-	55.6 20	30.6 11	13.9 5	-	58.3 21	36.1 13	5.6 2	-	58.3 21	30.6 11	11.1 4	-
	40歳代	100.0 50	58.0 29	10.0 5	22.0 11	10.0 5	50.0 25	28.0 14	18.0 9	4.0 2	44.0 22	36.0 18	16.0 8	4.0 2	54.0 27	34.0 17	8.0 4	2.0 1	60.0 30	22.0 11	14.0 7	4.0 2
	50歳代	100.0 55	56.4 31	20.0 11	9.1 5	14.5 8	49.1 27	29.1 16	10.9 6	10.9 6	52.7 29	16.4 9	20.0 11	10.9 6	54.5 30	27.3 15	5.5 3	12.7 7	61.8 34	23.6 13	5.5 3	9.1 5
	60歳代	100.0 103	56.3 58	22.3 23	6.8 7	14.6 15	49.5 51	26.2 27	13.6 14	10.7 11	56.3 58	17.5 18	13.6 14	12.6 13	61.2 63	16.5 17	8.7 9	13.6 14	56.3 58	16.5 17	13.6 14	13.6 14
	70歳以上	100.0 78	57.7 45	21.8 17	5.1 4	15.4 12	52.6 41	28.2 22	2.6 2	16.7 13	50.0 39	21.8 17	10.3 8	17.9 14	53.8 42	17.9 14	9.0 7	19.2 15	56.4 44	17.9 14	10.3 8	15.4 12
	居住地区別	伊万里地区	100.0 55	56.4 31	12.7 7	12.7 7	18.2 10	38.2 21	36.4 20	12.7 7	12.7 7	50.9 28	21.8 12	16.4 9	10.9 6	52.7 29	27.3 15	9.1 5	10.9 6	52.7 29	25.5 14	10.9 6
牧島地区		100.0 11	63.6 7	9.1 1	18.2 2	9.1 1	54.5 6	18.2 2	18.2 2	9.1 1	54.5 6	36.4 4	-	9.1 1	63.6 7	18.2 2	9.1 1	9.1 1	45.5 5	27.3 3	18.2 2	9.1 1
大坪地区		100.0 41	65.9 27	14.6 6	9.8 4	9.8 4	70.7 29	9.8 4	17.1 7	2.4 1	70.7 29	19.5 8	4.9 2	4.9 2	78.0 32	14.6 6	2.4 1	4.9 2	70.7 29	17.1 7	7.3 3	4.9 2
立花地区		100.0 50	56.0 28	26.0 13	12.0 6	6.0 3	50.0 25	36.0 18	4.0 2	10.0 5	54.0 27	28.0 14	8.0 4	10.0 5	60.0 30	22.0 11	8.0 4	10.0 5	52.0 26	26.0 13	10.0 5	12.0 6
大川内地区		100.0 15	53.3 8	26.7 4	-	20.0 3	40.0 6	33.3 5	6.7 1	20.0 3	33.3 5	26.7 4	13.3 2	26.7 4	26.7 4	40.0 6	6.7 1	26.7 4	53.3 8	6.7 1	20.0 3	20.0 3
黒川地区		100.0 19	36.8 7	42.1 8	-	21.1 4	47.4 9	31.6 6	10.5 2	10.5 2	52.6 10	31.6 6	5.3 1	10.5 2	36.8 7	47.4 9	5.3 1	10.5 2	57.9 11	31.6 6	-	10.5 2
波多津地区		100.0 17	52.9 9	23.5 4	11.8 2	11.8 2	41.2 7	29.4 5	17.6 3	11.8 2	41.2 7	17.6 3	29.4 5	11.8 2	47.1 8	29.4 5	11.8 2	11.8 2	47.1 8	23.5 4	17.6 3	11.8 2
南波多地区		100.0 18	66.7 12	11.1 2	16.7 3	5.6 1	66.7 12	22.2 4	11.1 2	-	44.4 8	33.3 6	16.7 3	5.6 1	61.1 11	33.3 6	5.6 1	-	72.2 13	27.8 5	-	-
大川地区		100.0 19	52.6 10	36.8 7	-	10.5 2	57.9 11	26.3 5	5.3 1	10.5 2	68.4 13	10.5 2	5.3 1	15.8 3	73.7 14	10.5 2	-	15.8 3	63.2 12	15.8 3	10.5 2	10.5 2
松浦地区		100.0 14	50.0 7	21.4 3	21.4 3	7.1 1	78.6 11	7.1 1	7.1 1	7.1 1	78.6 11	-	14.3 2	7.1 1	64.3 9	21.4 3	-	14.3 2	71.4 10	14.3 2	7.1 1	7.1 1
二里地区		100.0 29	51.7 15	31.0 9	3.4 1	13.8 4	44.8 13	31.0 9	13.8 4	10.3 3	44.8 13	31.0 9	13.8 4	10.3 3	44.8 13	27.6 8	17.2 5	10.3 3	55.2 16	20.7 6	13.8 4	10.3 3
東山代地区		100.0 29	55.2 16	6.9 2	20.7 6	17.2 5	44.3 13	20.7 6	17.2 5	17.2 5	34.5 10	20.7 6	27.6 8	17.2 5	44.8 13	17.2 5	17.2 5	20.7 6	55.2 16	6.9 2	20.7 6	17.2 5
山代地区		100.0 36	58.3 21	25.0 9	8.3 3	8.3 3	33.3 12	50.0 18	8.3 3	8.3 3	41.7 15	27.8 10	22.2 8	8.3 3	55.6 20	19.4 7	13.9 5	11.1 4	55.6 20	22.2 8	16.7 6	5.6 2

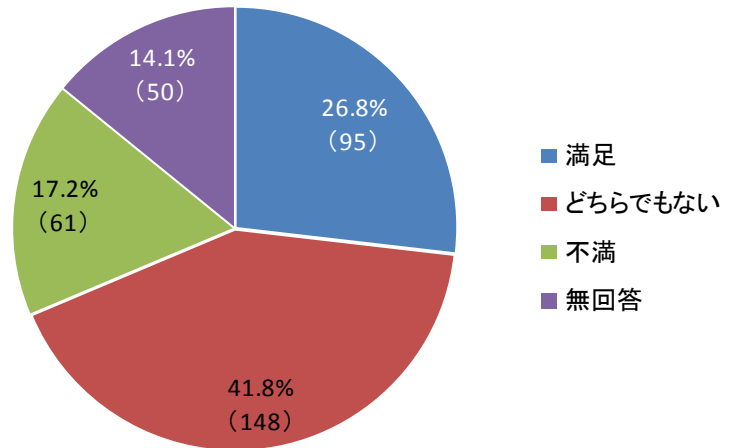
⑥ 湿気のもり(結露)(N=354)

「どちらでもない」とする回答が最も多いが(41.5%)、「満足」(24.9%)と「不満」(20.9%)の回答が同程度となっている。



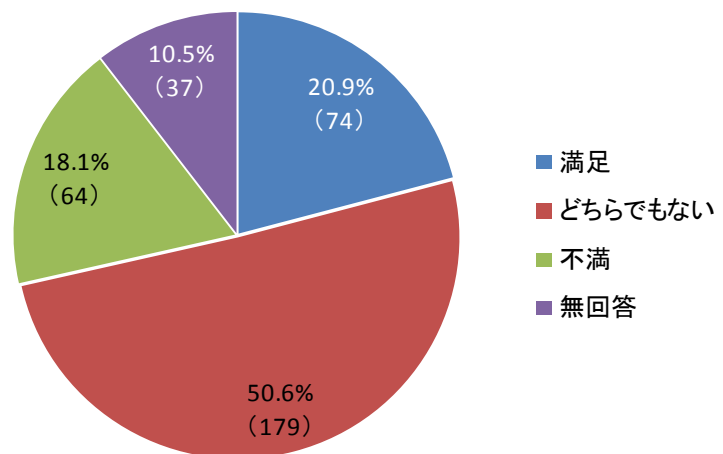
⑦ 住宅の新しさ(築年数)(N=354)

「どちらでもない」とする回答が最も多く、41.8%となっており、次いで「満足」が(26.8%)が多い。



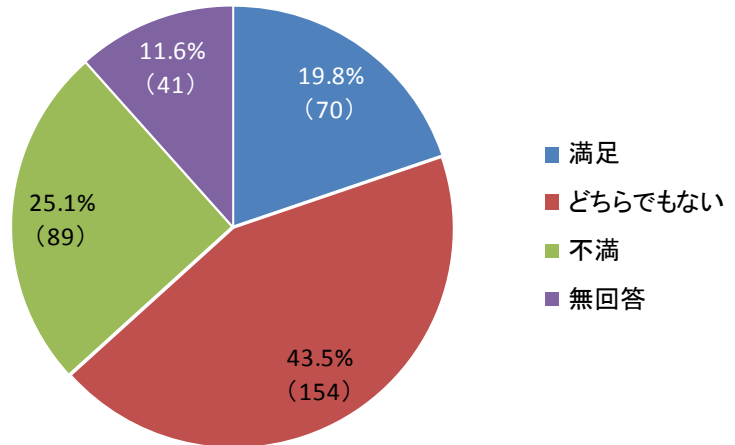
⑧ 住宅の防犯性(N=354)

「どちらでもない」とする回答が最も多く、全体の半数を占めている(50.6%)。また、「満足」(20.9%)と「不満」(18.1%)の回答が同程度となっている。



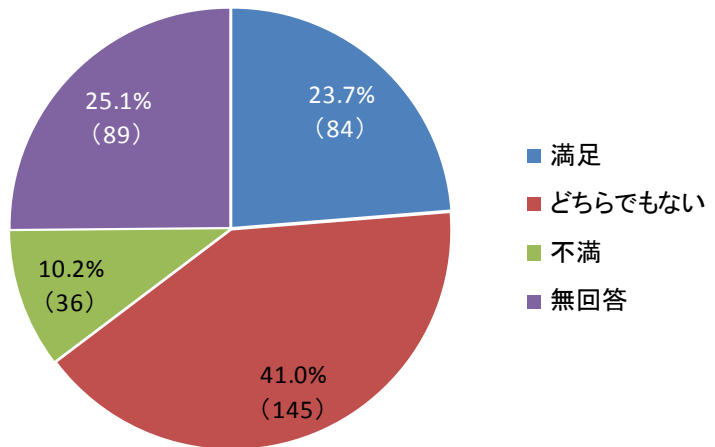
## ⑨ 住宅の耐震性(N=354)

「どちらでもない」とする回答が最も多いが(43.5%)、「満足」(19.8%)より「不満」(25.1%)とする回答が多い。



## ⑩ 家賃や住宅ローン(N=354)

「どちらでもない」とする回答が最も多く(41.0%)、次いで「満足」(23.7%)が多い。



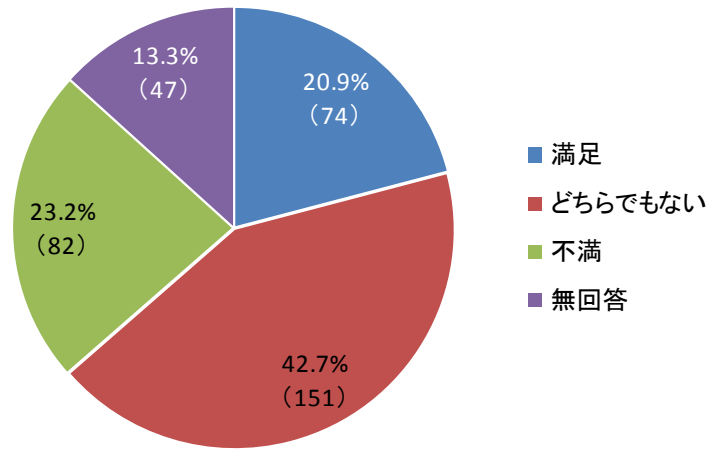
■年齢別・地区別集計 (⑥～⑩)

	サンプル数	⑥温気のもり(結露)				⑦住宅の新しさ(築年数)				⑧住宅の防犯性				⑨住宅の耐震性				⑩家賃や住宅ローン			
		満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答
全体	1000 354	24.9 88	41.5 147	20.9 74	12.7 45	26.8 95	41.8 148	17.2 61	14.1 50	20.9 74	50.6 179	18.1 64	10.5 37	19.8 70	43.5 154	25.1 89	11.6 41	23.7 84	41.0 145	10.2 36	25.1 89
20歳代	1000 29	10.3 8	79.3 23	6.9 2	3.4 1	41.4 12	51.7 15	3.4 1	3.4 1	13.8 4	65.5 19	17.2 5	3.4 1	20.7 6	62.1 18	10.3 3	6.9 2	10.3 3	62.1 18	24.1 7	3.4 1
30歳代	1000 36	33.3 12	36.1 13	30.6 11	-	58.3 21	30.6 11	11.1 4	-	25.0 9	61.1 22	13.9 5	-	30.6 11	55.6 20	13.9 5	-	36.1 13	41.7 15	22.2 8	-
40歳代	1000 50	32.0 16	30.0 15	32.0 16	6.0 3	32.0 16	40.0 20	24.0 12	4.0 2	30.0 15	46.0 23	20.0 10	4.0 2	30.0 15	32.0 16	34.0 17	4.0 2	24.0 12	56.0 28	16.0 8	4.0 2
50歳代	1000 55	23.6 13	45.5 25	20.0 11	10.9 6	18.2 10	52.7 29	16.4 9	12.7 7	12.7 7	58.2 32	18.2 10	10.9 6	18.2 10	43.6 24	27.3 15	10.9 6	20.0 11	49.1 27	12.7 7	18.2 10
60歳代	1000 103	26.2 27	36.9 38	22.3 23	14.6 15	23.3 24	36.9 38	21.4 19	18.4 18	17.5 18	50.5 52	19.4 20	12.6 13	16.5 17	43.7 45	24.3 25	15.5 16	27.2 28	35.9 37	3.9 4	33.0 34
70歳以上	1000 78	21.8 17	42.3 33	12.8 10	23.1 18	15.4 12	44.9 35	15.4 12	24.4 19	26.9 21	39.7 31	16.7 13	16.7 13	14.1 11	39.7 31	29.5 23	16.7 13	20.5 16	25.6 20	2.6 2	51.3 40
伊万里地区	1000 55	30.9 17	25.5 14	27.3 15	16.4 9	18.2 10	47.3 26	20.0 11	14.5 8	20.0 11	54.5 30	14.5 8	10.9 6	18.2 10	47.3 26	25.5 14	9.1 5	14.5 8	47.3 26	16.4 9	21.8 12
牧島地区	1000 11	18.2 2	54.5 6	18.2 2	9.1 1	27.3 3	36.4 26	27.3 3	9.1 1	9.1 1	54.5 6	27.3 3	9.1 1	9.1 1	45.5 5	36.4 4	9.1 1	18.2 2	54.5 6	-	27.3 3
大坪地区	1000 41	31.7 13	41.5 17	22.0 9	4.9 2	48.8 20	34.1 14	9.8 4	7.3 3	40.0 16	40.0 17	12.5 5	7.5 3	41.5 17	31.7 13	19.5 8	7.3 3	32.5 13	30.0 13	20.0 8	17.5 7
立花地区	1000 50	26.0 13	50.0 25	8.0 4	16.0 8	42.0 21	38.0 19	8.0 4	12.0 6	24.0 12	58.0 29	8.0 4	10.0 5	24.0 12	54.0 27	10.0 5	12.0 6	18.0 9	58.0 29	6.0 3	18.0 9
大川内地区	1000 15	13.3 2	26.7 4	26.7 4	33.3 5	20.0 3	40.0 6	13.3 2	26.7 4	20.0 3	40.0 6	13.3 2	26.7 4	20.0 3	40.0 6	13.3 2	26.7 4	13.3 2	40.0 6	-	46.7 7
黒川地区	1000 19	10.5 2	52.6 10	26.3 5	10.5 2	21.1 4	52.6 10	15.8 3	10.5 2	15.8 3	68.4 13	5.3 1	10.5 2	10.5 2	63.2 12	15.8 3	10.5 2	42.1 8	36.8 7	-	21.1 4
波多津地区	1000 17	23.5 4	35.3 6	29.4 5	11.8 2	23.5 4	35.3 6	29.4 5	11.8 2	11.8 2	52.9 9	23.5 4	11.8 2	11.8 2	47.1 8	23.5 4	17.6 3	29.4 5	35.3 6	17.6 3	17.6 3
南波多地区	1000 18	33.3 6	50.0 9	16.7 3	-	27.8 5	44.4 8	27.8 5	-	22.2 4	66.7 12	11.1 2	-	27.8 5	33.3 6	38.9 7	-	44.4 8	38.9 7	5.6 1	11.1 2
大川地区	1000 19	21.1 4	63.2 12	5.3 1	10.5 2	26.3 5	42.1 8	5.3 1	26.3 5	26.3 5	47.4 9	15.8 3	10.5 2	21.1 4	47.4 9	15.8 3	15.8 3	21.1 4	21.1 4	5.3 1	52.6 10
松浦地区	1000 14	21.4 3	64.3 9	7.1 1	7.1 1	21.4 3	50.0 7	14.3 2	14.3 2	21.4 3	57.1 8	14.3 2	7.1 1	14.3 2	42.9 6	35.7 5	7.1 1	21.4 3	35.7 5	7.1 1	35.7 5
二里地区	1000 29	24.1 7	44.8 13	17.2 5	13.8 4	24.1 7	44.8 13	17.2 5	13.8 4	17.2 5	37.9 11	31.0 9	13.8 4	17.2 5	41.4 12	27.6 8	13.8 4	10.3 3	48.3 14	20.7 6	20.7 6
東山代地区	1000 29	24.1 7	24.1 7	34.5 10	17.2 5	13.8 4	41.4 12	20.7 6	24.1 7	6.9 2	44.8 13	31.0 9	17.2 5	6.9 2	41.4 12	37.9 11	13.8 4	41.4 12	24.1 7	6.9 2	27.6 8
山代地区	1000 36	22.2 8	41.7 15	27.8 10	8.3 3	16.7 6	41.7 15	27.8 10	13.9 5	19.4 7	44.4 16	33.3 12	2.8 1	13.9 5	33.3 12	41.7 15	11.1 4	19.4 7	41.7 15	5.6 2	33.3 12

**周辺環境について**

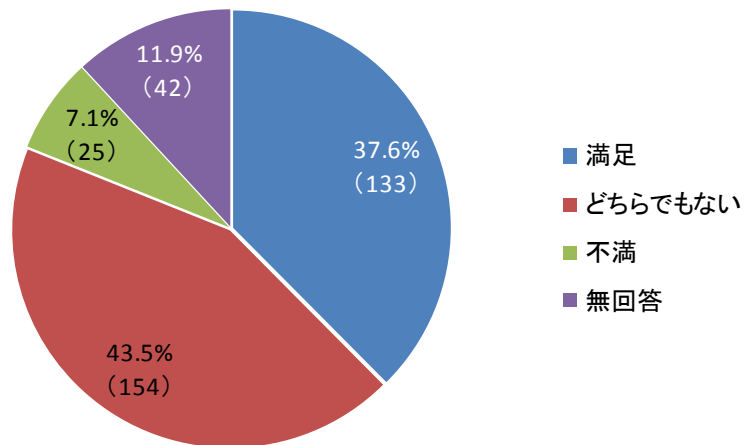
**① 公園や広場(N=354)**

「どちらでもない」とする回答が最も多いが(42.7%)、「満足」(20.9%)と「不満」(23.2%)の回答が同程度となっている。



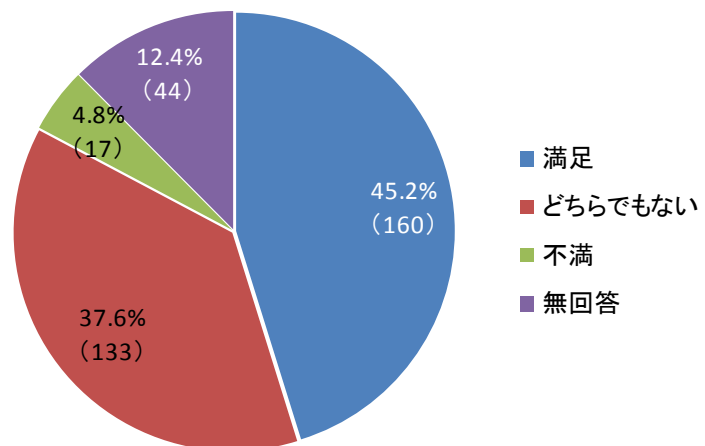
**② 公民館や集会施設(N=354)**

「どちらでもない」とする回答が最も多く(43.5%)、次に多い「満足」(37.6%)がほぼ同程度となっている。



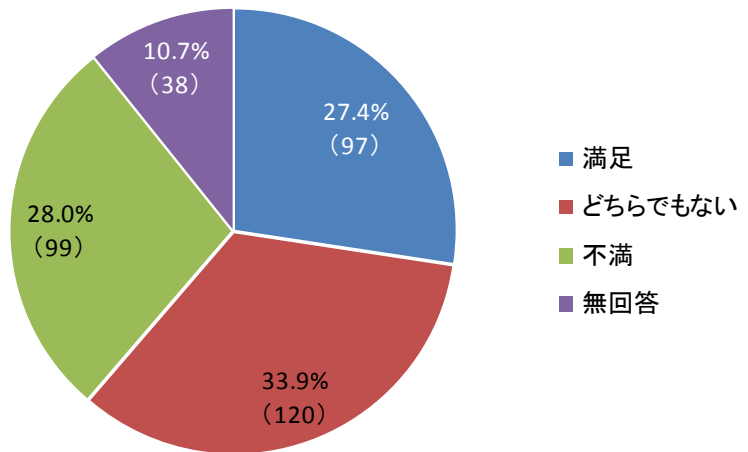
**③ 緑や水辺などの自然(N=354)**

「満足」とする回答が45.2%と最も多く、次に「どちらでもない」とする回答が多い(37.6%)。



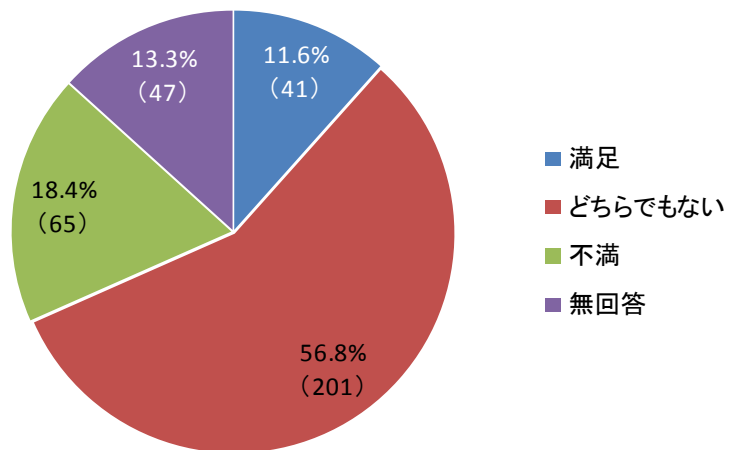
④ 日常の買い物の利便性(N=354)

「満足」(27.4%)、「どちらでもない」(33.9%)、「不満」(28.0%)、それぞれの回答がほぼ同程度である。



⑤ 文化施設(N=354)

「どちらでもない」とする回答が全体の過半数を占めるが(56.8%)、「不満」(18.4%)が2番目に多い。



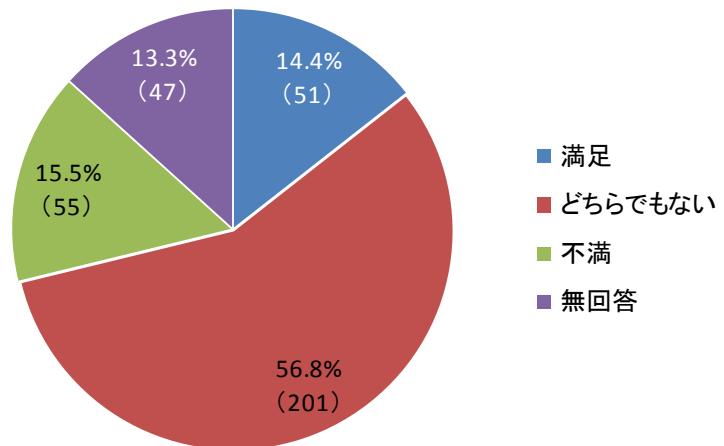


■年齢別・地区別集計 (①～⑤)

	サンプル数	①公園や広場				②公民館や集会所				③緑や水辺などの自然				④日常の買い物の利便性				⑤文化施設			
		満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答
全体	100.0 354	20.9 74	42.7 151	23.2 82	13.3 47	37.6 133	43.5 154	7.1 25	11.9 42	45.2 160	37.6 133	4.8 17	12.4 44	27.4 97	33.9 120	28.0 99	10.7 38	11.6 41	56.8 201	18.4 65	13.3 47
20歳代	100.0 29	27.6 8	34.5 10	34.5 10	3.4 1	41.4 12	55.2 16	- -	3.4 1	44.8 13	44.8 13	6.9 2	3.4 1	34.5 10	34.5 10	27.6 8	3.4 1	- -	82.8 24	13.8 4	3.4 1
30歳代	100.0 36	30.6 11	33.3 12	36.1 13	- -	47.2 17	44.4 16	8.3 3	- -	61.1 22	33.3 12	5.6 2	- -	44.4 16	27.8 10	27.8 10	- -	13.9 5	75.0 27	11.1 4	- -
40歳代	100.0 50	28.0 14	46.0 23	22.0 11	4.0 2	44.0 22	46.0 23	6.0 3	4.0 2	56.0 28	38.0 19	2.0 1	4.0 2	34.0 17	30.0 15	32.0 16	4.0 2	28.0 14	50.0 25	16.0 8	6.0 3
50歳代	100.0 55	12.7 5	43.6 24	27.3 15	16.4 9	27.3 15	47.3 26	10.9 6	14.5 8	36.4 20	41.8 23	7.3 4	14.5 8	23.6 13	40.0 22	23.6 13	12.7 7	9.1 5	60.0 33	16.4 9	14.5 8
60歳代	100.0 103	20.4 21	43.7 45	20.4 21	15.5 16	36.9 38	38.8 40	9.7 10	14.6 15	44.7 46	33.0 34	5.8 6	16.5 17	21.4 22	39.3 41	24.3 25	14.6 15	10.7 11	50.5 52	21.4 22	17.5 18
70歳以上	100.0 78	16.7 13	47.4 37	14.1 11	21.8 17	37.2 29	42.3 33	2.6 2	17.9 14	39.7 31	39.7 31	2.6 2	17.9 14	24.4 19	28.2 22	33.3 26	14.1 11	7.7 6	51.3 47	21.8 17	19.2 15
伊万里地区	100.0 55	16.4 9	47.3 26	23.6 13	12.7 7	36.4 20	50.9 28	1.8 1	10.9 6	41.8 23	41.8 23	5.5 3	10.9 6	45.5 25	29.1 16	12.7 7	12.7 7	27.3 15	47.3 26	12.7 7	12.7 7
牧島地区	100.0 11	- -	27.3 3	63.6 7	9.1 1	18.2 2	36.4 4	36.4 4	9.1 1	45.5 5	36.4 4	- -	18.2 2	18.2 2	54.5 6	9.1 1	- -	- -	63.6 7	27.3 3	9.1 1
大坪地区	100.0 41	41.5 17	34.1 14	17.1 7	7.3 3	53.7 22	29.3 12	12.2 5	4.9 2	61.0 25	26.8 11	7.3 3	4.9 2	51.2 21	36.6 15	7.3 3	4.9 2	22.0 9	63.4 26	9.8 4	4.9 2
立花地区	100.0 50	22.0 11	40.0 20	22.0 11	16.0 8	40.0 20	40.0 20	4.0 2	16.0 8	36.0 18	42.0 21	6.0 3	16.0 8	46.0 23	36.0 18	10.0 5	8.0 4	18.0 9	54.0 27	14.0 7	14.0 7
大川内地区	100.0 15	20.0 3	40.0 6	20.0 3	20.0 3	26.7 4	46.7 7	- -	26.7 4	53.3 8	13.3 2	6.7 1	26.7 4	13.3 2	46.7 7	13.3 2	26.7 4	13.3 2	53.3 8	6.7 1	26.7 4
黒川地区	100.0 19	15.8 3	63.2 12	5.3 1	15.8 3	21.1 4	63.2 12	- -	15.8 3	47.4 9	31.6 6	5.3 1	15.8 3	5.3 1	47.4 9	36.8 7	10.5 2	- -	68.4 13	15.8 3	15.8 3
波多津地区	100.0 17	5.9 1	29.4 5	35.3 6	29.4 5	41.2 7	29.4 5	11.8 2	17.6 3	35.3 6	41.2 7	5.9 1	17.6 3	- -	17.6 3	58.8 10	23.5 4	- -	35.3 6	47.1 8	17.6 3
南波多地区	100.0 18	16.7 3	44.4 8	38.9 7	- -	44.4 8	50.0 9	5.6 1	- -	72.2 13	27.8 5	- -	- -	11.1 2	22.2 4	66.7 12	- -	- -	61.1 11	38.9 7	- -
大川地区	100.0 19	10.5 2	52.6 10	21.1 4	15.8 3	52.6 10	36.8 7	- -	10.5 2	42.1 8	47.4 9	- -	10.5 2	10.5 2	36.8 7	42.1 8	10.5 2	5.3 1	47.4 9	31.6 6	15.8 3
松浦地区	100.0 14	28.6 4	50.0 7	14.3 2	7.1 1	42.9 6	50.0 7	- -	7.1 1	50.0 7	42.9 6	- -	7.1 1	- -	21.4 3	71.4 10	7.1 1	7.1 1	64.3 9	21.4 3	7.1 1
二里地区	100.0 29	20.7 6	51.7 15	17.2 5	10.3 3	34.5 10	51.7 15	3.4 1	10.3 3	44.8 13	37.9 11	3.4 1	13.8 4	34.5 10	37.9 11	17.2 5	10.3 3	6.9 2	65.5 19	10.3 3	17.2 5
東山代地区	100.0 29	20.7 6	31.0 9	24.1 7	24.1 7	20.7 6	34.5 10	24.1 7	20.7 6	34.5 10	34.5 10	10.3 3	20.7 6	6.9 2	34.5 10	44.8 13	13.8 4	3.4 1	55.2 16	24.1 7	17.2 5
山代地区	100.0 36	25.0 9	44.4 16	25.0 9	5.6 2	38.9 14	50.0 18	5.6 2	5.6 2	41.7 15	50.0 18	2.8 1	5.6 2	19.4 7	41.7 15	30.6 11	8.3 3	2.8 1	66.7 24	16.7 6	13.9 5

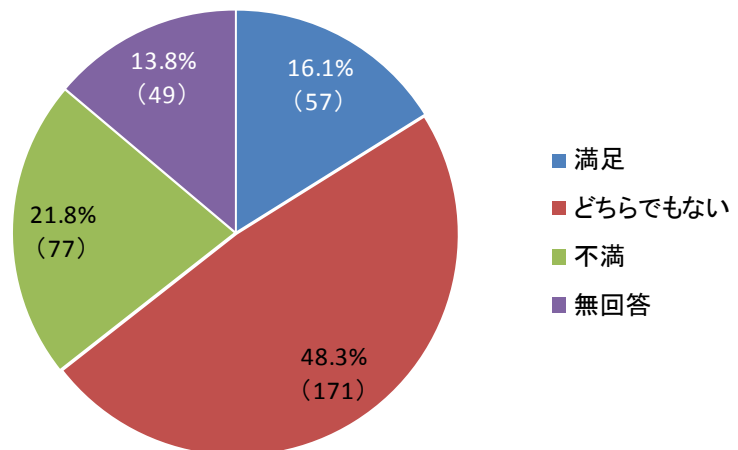
## ⑥ 教育施設(N=354)

「どちらでもない」とする回答が全体の過半数となっており(56.8%)、「満足」(14.4%)と不満(15.5%)が同程度となっている。



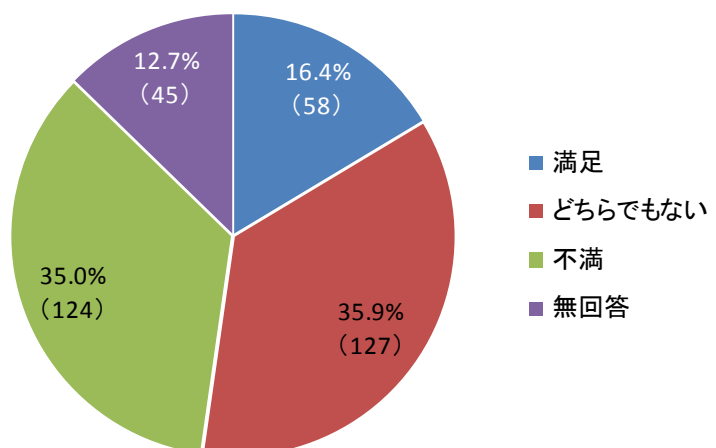
## ⑦ 医療・福祉施設(N=354)

「どちらでもない」とする回答が全体の約半数となっており(48.3%)、「満足」(16.1%)よりも「不満」(21.8%)がやや多い結果となっている。



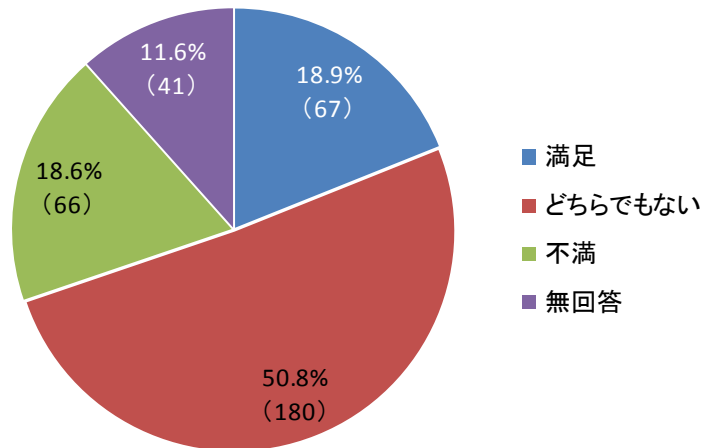
## ⑧ 交通の利便性(N=354)

「どちらでもない」(35.9%)と「不満」(35.0%)が同程度となっている。



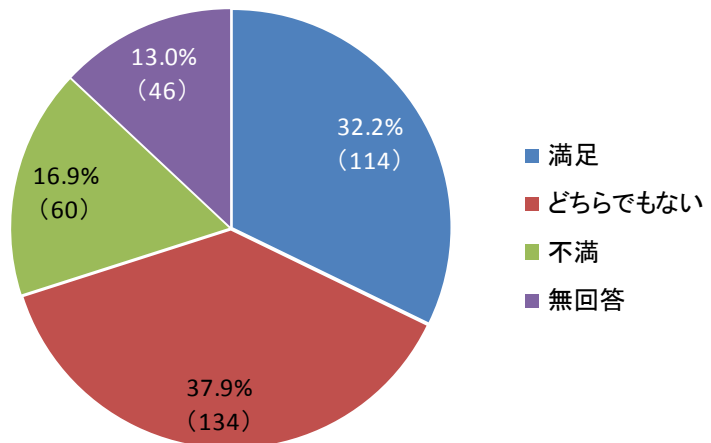
## ⑨ 道路の整備状況(N=354)

「どちらでもない」とする回答が全体の過半数となっており(50.8%)、「満足」(18.9%)と「不満」(18.6%)の回答は同程度となっている。



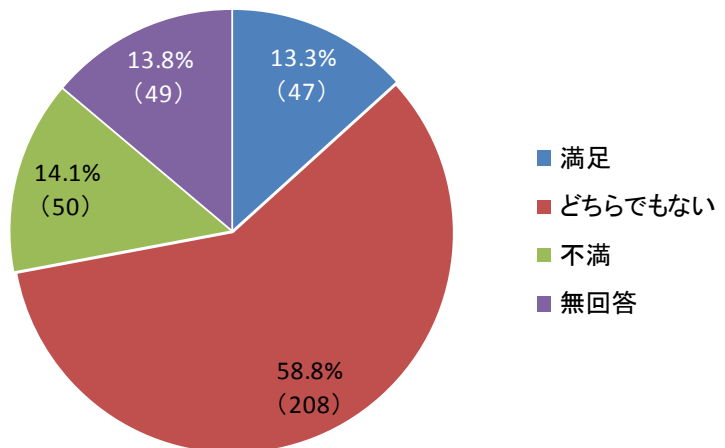
## ⑩ 下水の整備状況(N=354)

「どちらでもない」とする回答が最も多く、37.9%となっており、「満足」(32.2%)とほぼ同程度となっている。



## ⑪ 避難路や避難広場など災害に対する安全性(N=354)

「どちらでもない」とする回答が全体の約6割となっており(58.8%)、「満足」(13.3%)と「不満」(14.1%)の回答は同程度となっている。



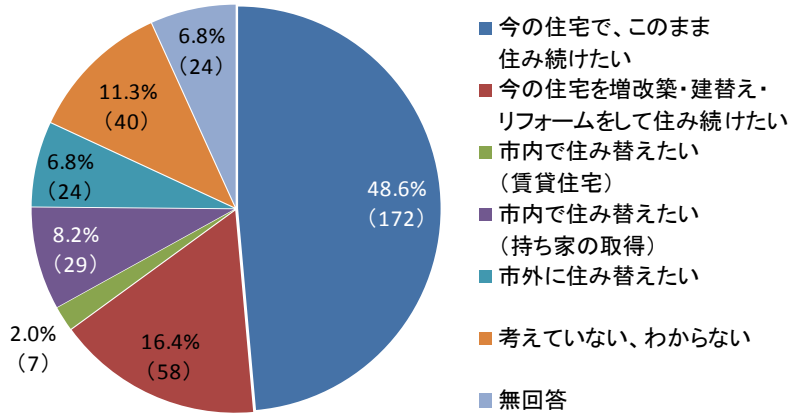
■年齢別・地区別集計 (⑥～⑪)

	サンプル数	⑥教育施設				⑦医療・福祉施設				⑧交通の利便性				⑨道路の整備状況				⑩下水道の整備状況				⑪避難路や避難広場など災害に対する安全性					
		満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答	満足	どちらでもない	不満	無回答		
全体	1000	14.4	56.8	15.5	13.3	16.1	48.3	21.8	13.8	16.4	35.9	35.0	12.7	18.9	50.8	18.6	11.6	32.2	37.9	16.9	13.0	13.3	58.8	14.1	13.8		
年齢別	20歳代	1000	20.7	58.6	17.2	3.4	20.7	55.2	20.7	3.4	13.8	48.3	34.5	3.4	24.1	58.6	13.8	3.4	20.7	69.0	6.9	3.4	10.3	82.8	3.4	3.4	
	30歳代	1000	22.2	61.1	16.7	-	33.3	52.8	13.9	-	30.6	41.7	27.8	-	22.2	55.6	22.2	-	33.3	58.3	8.3	-	13.9	75.0	11.1	-	
	40歳代	1000	22.0	64.0	20.0	4.0	26.0	52.0	16.0	6.0	26.0	36.0	34.0	4.0	24.0	56.0	14.0	6.0	44.0	32.0	14.0	10.0	20.0	64.0	6.0	10.0	
	50歳代	1000	10.9	61.8	12.7	14.5	9.1	47.3	27.3	16.4	10.9	32.7	41.8	14.5	10.9	54.5	20.0	14.5	34.5	32.0	16.4	16.4	5.4	7.3	58.2	18.2	16.4
	60歳代	1000	10.7	67.3	16.5	15.5	10.7	51.5	22.3	15.5	10.7	40.8	34.0	14.6	15.5	51.5	17.5	15.5	27.2	38.8	19.4	14.6	12.6	56.3	14.6	16.5	
	70歳以上	1000	11.5	63.8	11.5	23.1	12.8	39.7	24.4	23.1	16.7	25.6	35.9	21.8	23.1	41.0	21.8	14.1	34.6	24.4	23.1	17.9	15.4	44.9	20.5	19.2	
	80歳以上	1000	7.8	9.4	42.9	9.1	18.1	31.1	19.1	18.1	13.1	20.1	28.1	17.1	18.1	32.1	17.1	11.1	27.1	19.1	18.1	12.1	12.1	35.1	16.1	14.5	
居住地区別	伊万里地区	1000	20.0	54.5	14.5	10.9	23.6	52.7	12.7	10.9	34.5	20.0	34.5	10.9	27.3	43.6	18.2	10.9	47.3	30.9	9.1	12.7	20.0	56.4	9.1	14.5	
	牧島地区	1000	18.2	64.5	18.2	9.1	45.6	45.6	9.1	18.2	45.6	27.3	9.1	27.3	45.6	18.2	9.1	-	54.5	36.4	9.1	-	72.7	18.2	9.1		
	大坪地区	1000	34.1	61.0	-	4.9	26.8	53.7	12.2	7.3	36.6	41.5	14.6	7.3	36.6	51.2	9.8	2.4	61.0	38.6	-	2.4	22.0	56.1	14.6	7.3	
	立花地区	1000	22.0	62.0	10.0	16.0	26.0	48.0	12.0	16.0	24.0	46.0	14.0	16.0	20.0	58.0	8.0	14.0	46.0	36.0	2.0	14.0	10.0	64.0	10.0	16.0	
	大川内地区	1000	13.3	53.3	6.7	26.7	40.0	13.3	28.7	20.0	26.7	26.7	26.7	20.0	40.0	13.3	26.7	13.3	46.7	6.7	33.3	13.3	40.0	20.0	26.7		
	黒川地区	1000	-	68.4	15.8	15.8	10.5	63.2	5.3	21.1	-	36.8	42.1	21.1	-	57.9	31.6	10.5	26.3	36.8	21.1	15.8	10.5	63.2	10.5	15.8	
	波多津地区	1000	-	52.9	29.4	17.6	-	47.1	35.3	17.6	-	35.3	47.1	17.6	5.9	23.5	58.8	11.8	5.9	23.5	47.1	23.5	5.9	47.1	23.5	23.5	
	南波多地区	1000	-	60.0	44.4	5.6	5.6	38.9	55.6	-	5.6	38.9	55.6	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0	22.2	56.6	16.7	5.6	11.1	77.8	11.1	-	
	大川地区	1000	10.5	47.4	26.3	15.8	15.8	42.1	26.3	15.8	15.8	21.1	47.4	15.8	21.1	68.4	-	10.5	36.8	31.6	15.8	15.8	21.1	47.4	21.1	10.5	
	松浦地区	1000	7.1	64.3	21.4	7.1	-	35.7	57.1	7.1	-	21.4	71.4	7.1	14.3	50.0	28.6	7.1	21.4	42.9	28.6	7.1	21.4	71.4	-	7.1	
	二里地区	1000	10.3	62.1	13.8	13.8	20.7	51.7	10.3	17.2	3.4	41.4	44.8	10.3	17.2	48.3	17.2	17.2	37.9	41.4	6.9	13.8	6.9	75.9	3.4	13.8	
	東山代地区	1000	17.2	44.8	17.2	20.7	13.8	37.9	27.6	20.7	-	34.5	48.3	17.2	6.9	41.4	31.0	20.7	13.8	31.0	34.5	20.7	10.3	37.9	31.0	20.7	
	山代地区	1000	-	72.2	16.7	11.1	2.8	55.6	30.6	11.1	5.6	50.0	36.1	8.3	11.1	61.1	19.4	8.3	5.6	47.2	41.7	5.6	8.3	61.1	19.4	11.1	

Ⅲ. 今後の住まいについておたずねします。

【問8】 今後の住み替え等の意向・希望についておたずねします。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。(N=354)

「今の住宅で、このまま住み続けたい」とする回答が全体の約半数となっている(48.6%)。

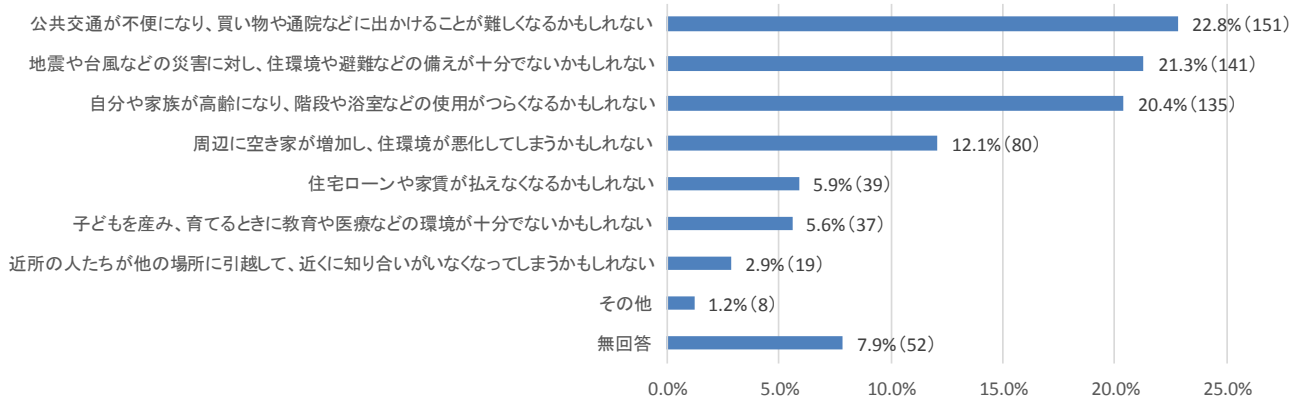


■年齢別・地区別集計

	サンプル数	意向・希望							
		今の住宅で、このまま住み続けたい	今の住宅を増改築・建替え・リフォームをして住み続けたい	市内で住み替えたい(賃貸住宅)	市内で住み替えたい(持ち家の取得)	市外に住み替えたい	考えていない、わからない	無回答	
全体	354	48.6	16.4	2.0	8.2	6.8	11.3	6.8	
		172	58	7	29	24	40	24	
年齢別	20歳代	29	27.6	20.7	3.4	10.3	13.8	24.1	-
			8	6	1	3	4	7	-
	30歳代	36	41.7	22.2	5.6	16.7	5.6	8.3	-
			15	8	2	6	2	3	-
	40歳代	50	32.0	14.0	4.0	18.0	10.0	18.0	4.0
			16	7	2	9	5	9	2
	50歳代	55	40.0	23.6	3.6	5.5	7.3	10.9	9.1
		22	13	2	3	4	6	5	
60歳代	103	56.3	17.5	-	4.9	3.9	7.8	9.7	
		58	18	-	5	4	8	10	
70歳以上	78	67.9	7.7	-	3.8	5.1	9.0	6.4	
		53	6	-	3	4	7	5	
居住地区別	伊万里地区	55	47.3	10.9	5.5	14.5	3.6	9.1	5.1
			26	6	3	8	2	5	5
	牧島地区	11	36.4	9.1	-	9.1	18.2	18.2	9.1
			4	1	-	1	2	2	1
	大坪地区	41	56.1	22.0	-	2.4	7.3	7.3	4.9
			23	9	-	1	3	3	2
	立花地区	801.2	56.0	12.0	2.0	4.0	4.0	14.0	8.0
			28	6	1	2	2	7	4
	大川内地区	15	46.7	20.0	-	6.7	13.3	6.7	6.7
			7	3	-	1	2	1	1
	黒川地区	19	57.9	5.3	-	5.3	10.5	15.8	5.3
			11	1	-	1	2	3	1
	波多津地区	17	41.2	23.5	-	5.9	11.8	11.8	5.9
			7	4	-	1	2	2	1
南波多地区	18	50.0	27.8	11.1	-	-	11.1	-	
		9	5	2	-	-	2	-	
大川地区	19	57.9	15.8	-	5.3	5.3	5.3	10.5	
		11	3	-	1	1	1	2	
松浦地区	14	50.0	14.3	-	7.1	14.3	14.3	-	
		7	2	-	1	2	2	-	
二里地区	29	24.1	20.7	-	17.2	10.3	17.2	10.3	
		7	6	-	5	3	5	3	
東山代地区	29	48.3	17.2	-	17.2	3.4	10.3	3.4	
		14	5	-	5	1	3	1	
山代地区	36	50.0	19.4	2.8	5.6	5.6	11.1	5.6	
		18	7	1	2	2	4	2	

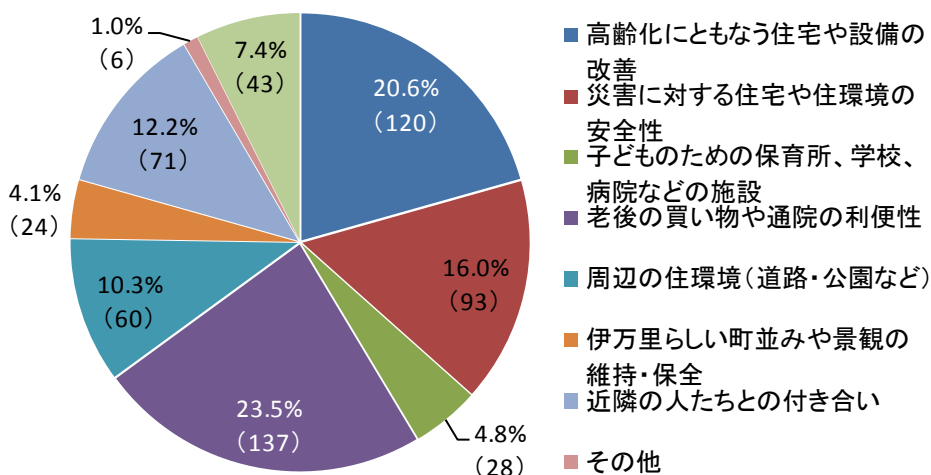
【問9】 今後の住まいについて、不安や気になっていることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(n=662)

「公共交通が不便になり、買い物や通院などに出かけることが難しくなるかもしれない」(22.8%)、「地震や台風などの災害に対し、住環境や避難などの備えが十分でないかもしれない」(21.3%)、「自分や家族が高齢になり、階段や浴室などの使用がつかなくなるかもしれない」(20.4%)が同程度で最も多い回答となっている。



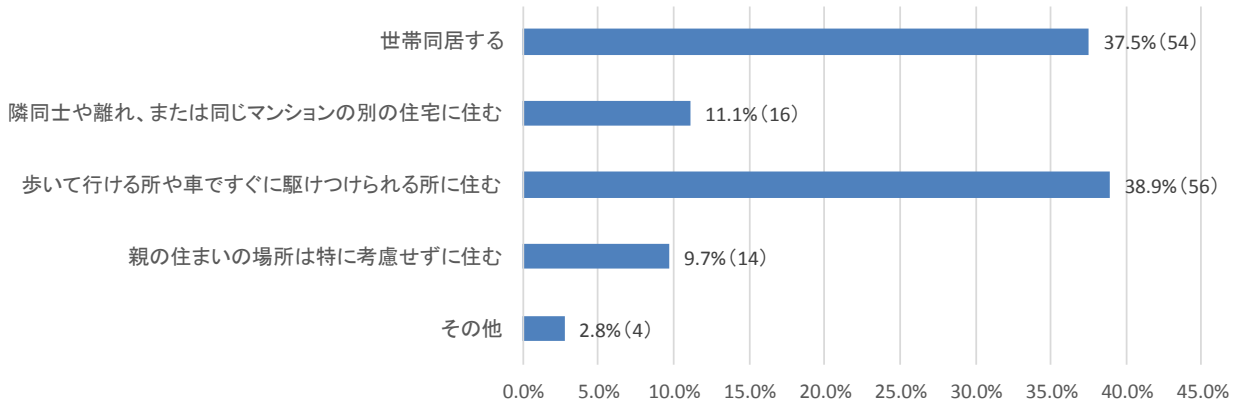
【問10】 問8で、1、2、6に○を付けた方におたずねします。現在の住まいに住み続けるために重視したいことは何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。(n=662)

「今の住宅で、このまま住み続けたい」「今の住宅を増改築・建替え・リフォームをして住み続けたい」「考えていない、わからない」とする回答のうち、「老後の買い物や通院の利便性」(23.5%)と「高齢化にともなう住宅や設備の改善」(20.6%)、「災害に対する住宅や住環境の安全性」(16.0%)が重視する点として回答が多かった。



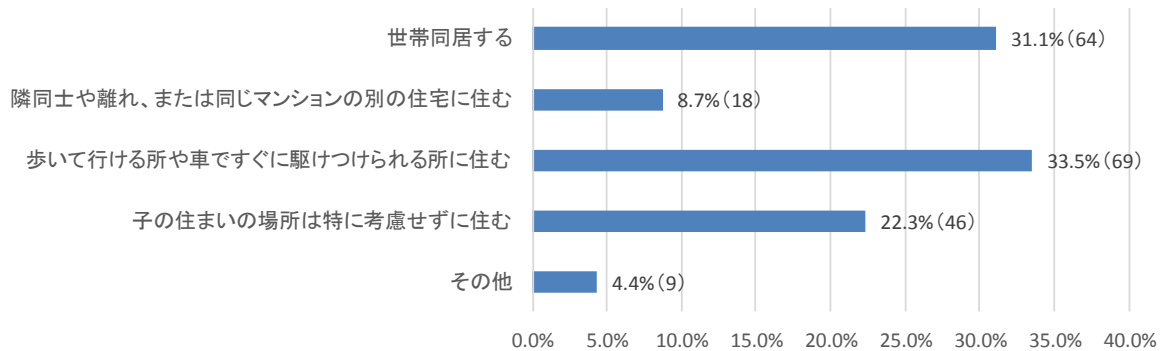
**【問 11】 若い世代の人におたずねします。高齢の親との今後の理想の住まい方について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。(n=144)**

「歩いて行ける所や車ですぐに駆けつけられる所に住む」(38.9%)と「世帯同居する」(37.5%)が多かった。「親の住まいの場所は特に考慮せずに住む」とする回答は9.7%であった。



**【問 12】 高齢の世代の人におたずねします。独立した子との今後の理想の住まい方について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。(n=206)**

「歩いて行ける所や車ですぐに駆けつけられる所に住む」(33.5%)と「世帯同居する」(31.1%)が多かった。また、前問に対し、「子の住まいの場所は特に考慮せずに住む」とする回答が多かった(22.3%)。

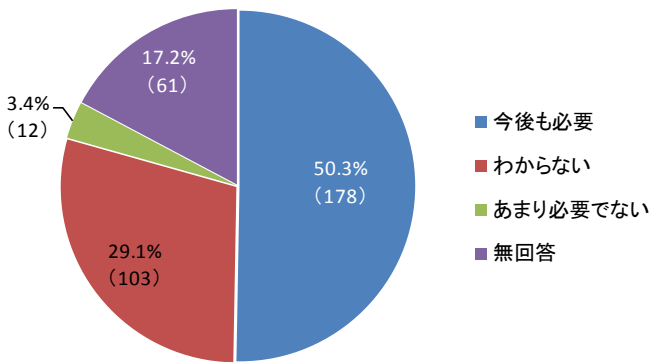


IV. 現在の伊万里市の住宅施策についておたずねします。

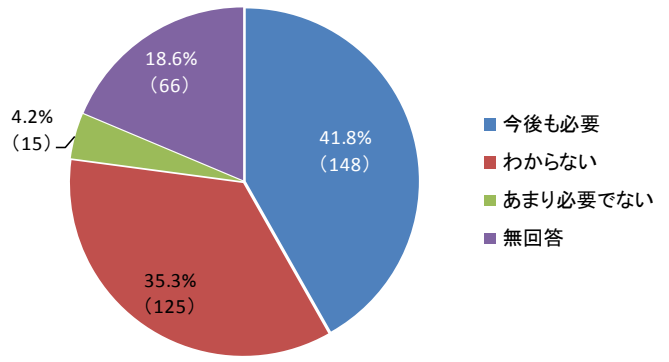
【問 13】 現在伊万里市が取り組んでいる住宅施策についてどう思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。(N=354)

「今後も必要」と回答した割合が50%以上となったのは「① 住宅の耐震化・火災予防の促進」「④ 風水害対策」「⑧ 市街地での空き家対策・活用」「⑨ 農山漁村集落での空き家対策」の4施策であり、住宅の安全性と安心できる住環境について関心が高い結果となった。

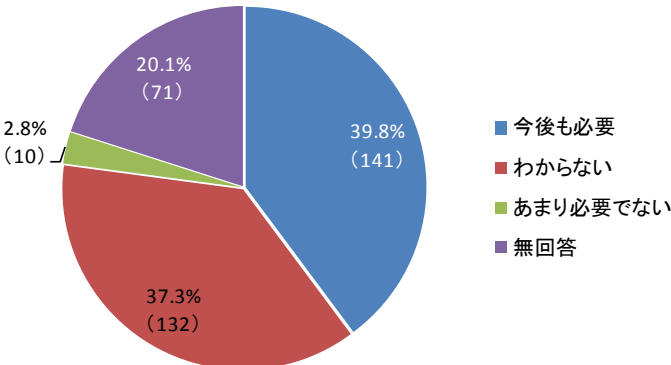
① 住宅の耐震化・火災予防の促進



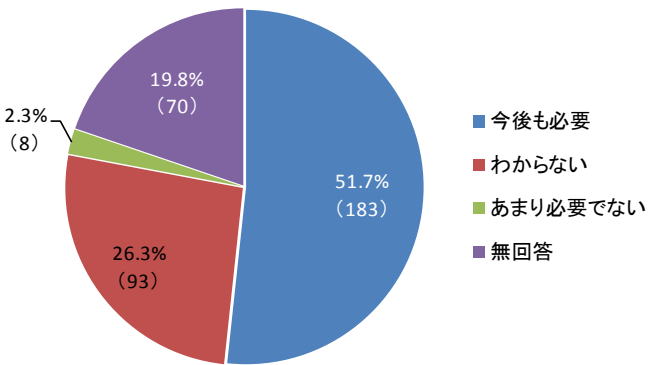
② 防犯性の高い住宅の普及



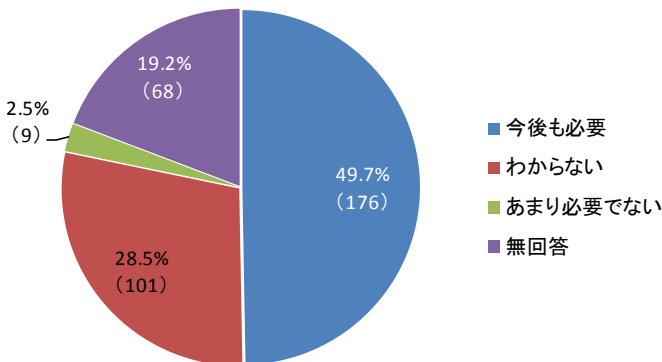
③ 安全な室内環境の住宅普及



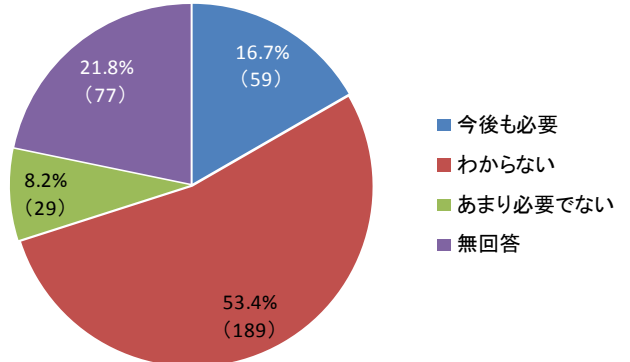
④ 風水害対策



⑤ 住宅のバリアフリー化の促進

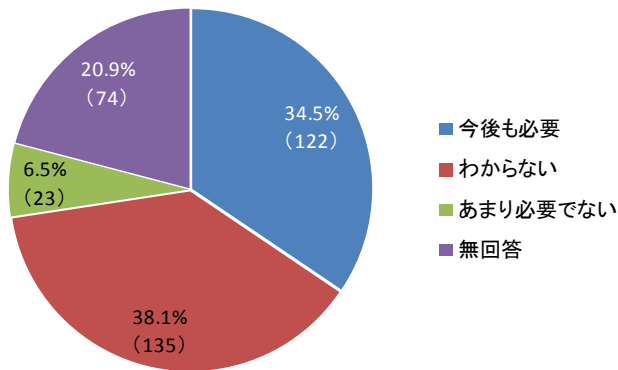


⑥ ユニバーサルデザイン住宅の普及

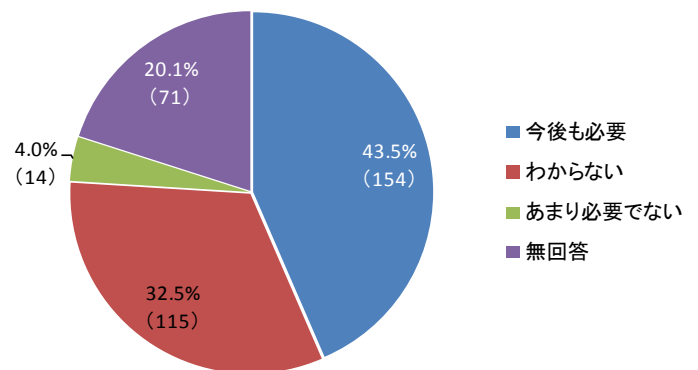




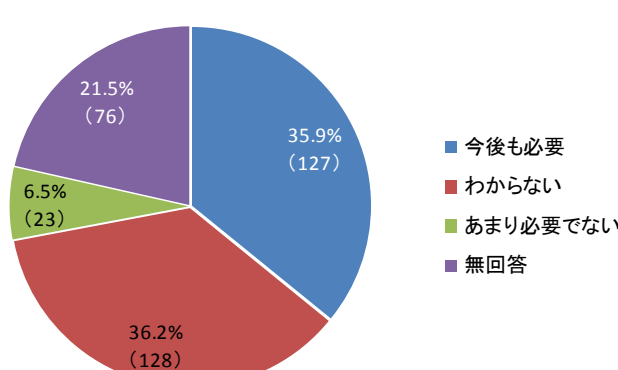
⑦ 住宅取得支援



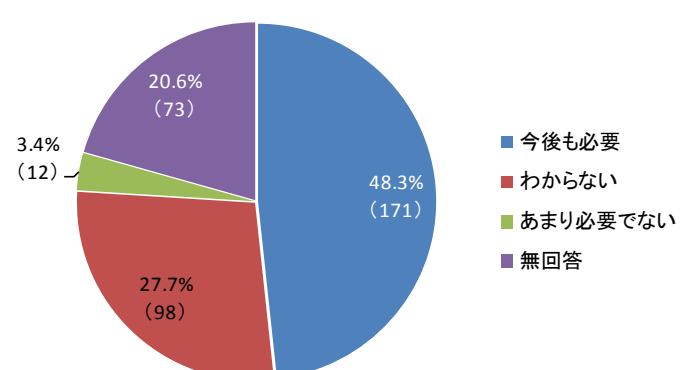
⑧ 住み替え、リフォーム支援



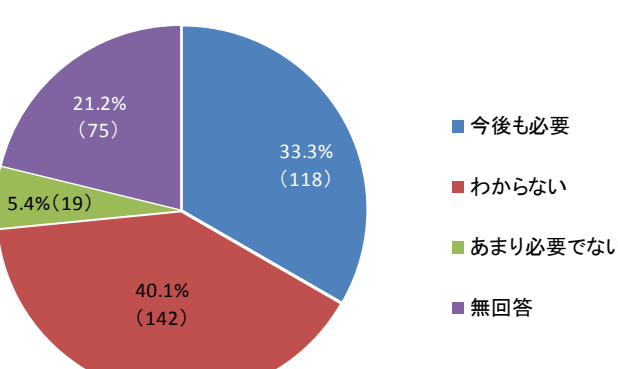
⑨ 市営住宅による、住宅に困窮する世帯への支援



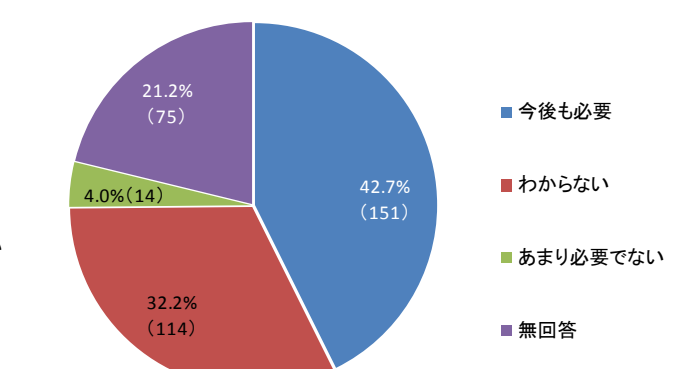
⑩ 子育てサポートの場の形成



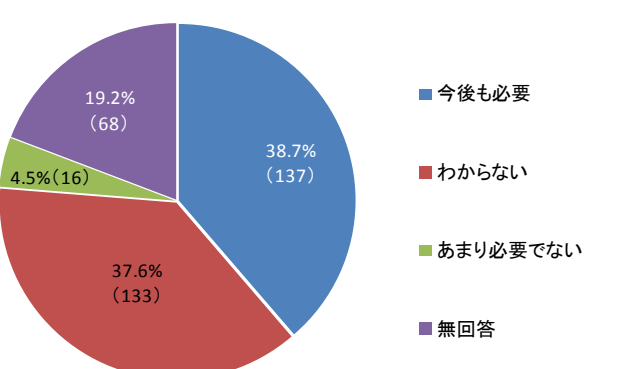
⑪ 公営住宅の整備・改善



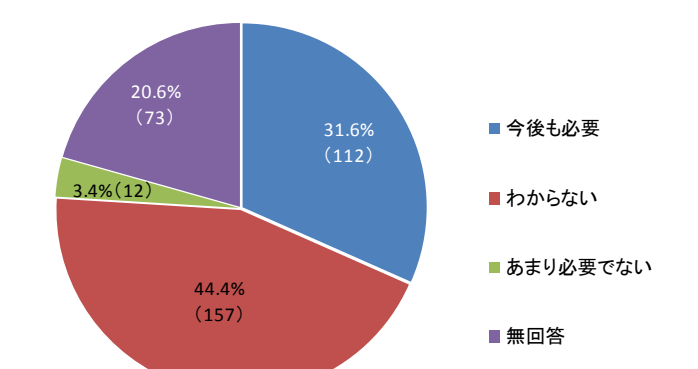
⑫ 省エネ、環境共生、エコ住宅の普及



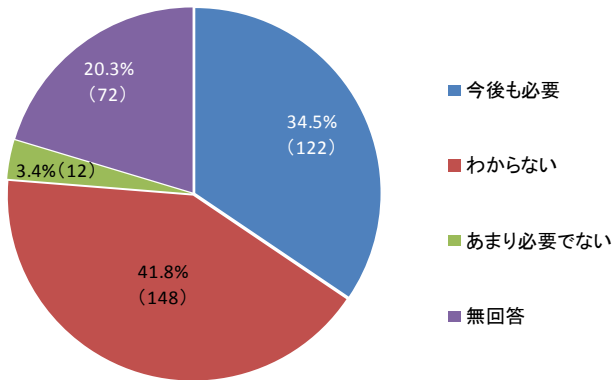
⑬ 長寿命住宅の普及



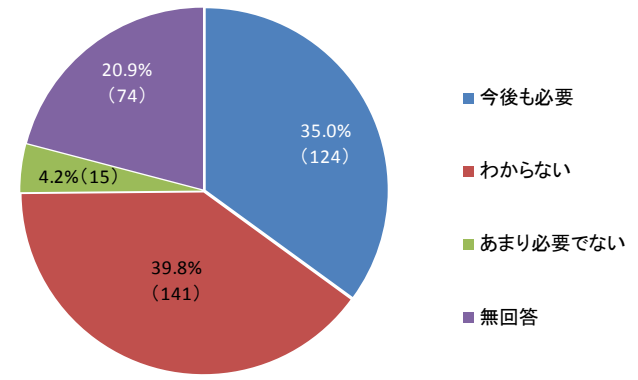
⑭ 地元住宅産業事業者の育成・意識醸成



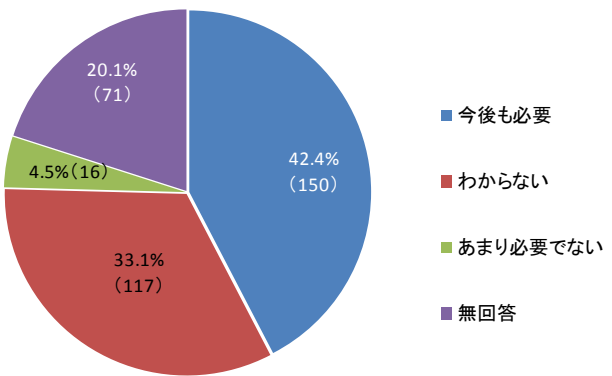
⑮ 県産材の活用普及



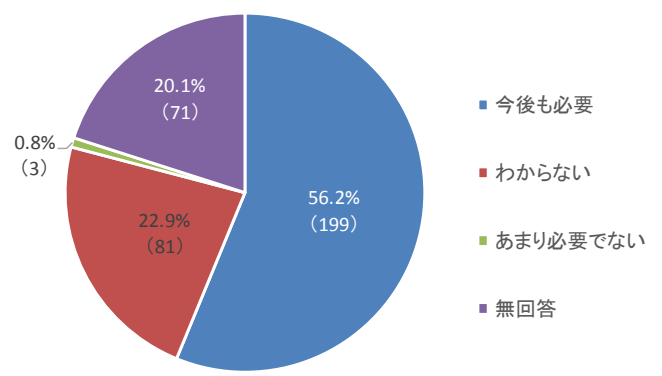
⑯ 伝統的な住宅・まちなみの保全・活用



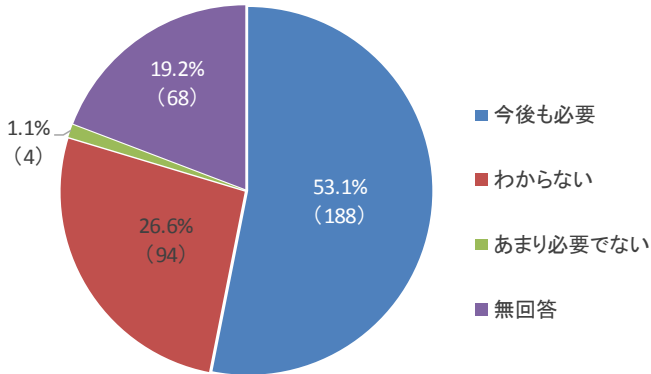
⑰ 伊万里らしい景観の形成



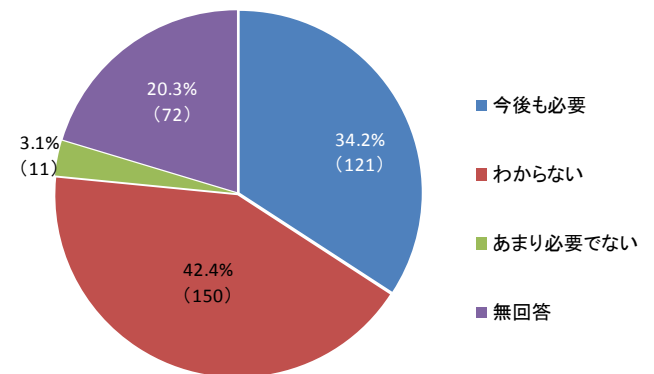
⑱ 市街地での空き家対策・活用



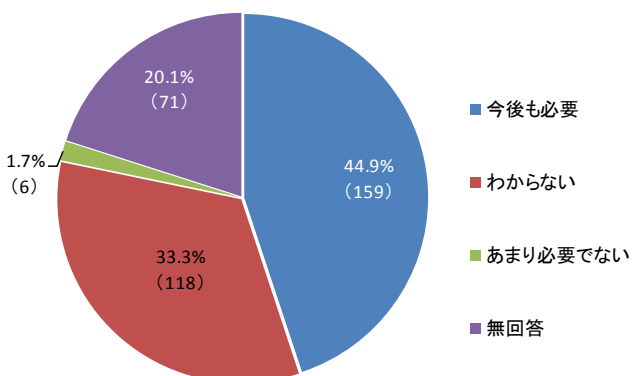
⑲ 農山漁村集落での空き家対策



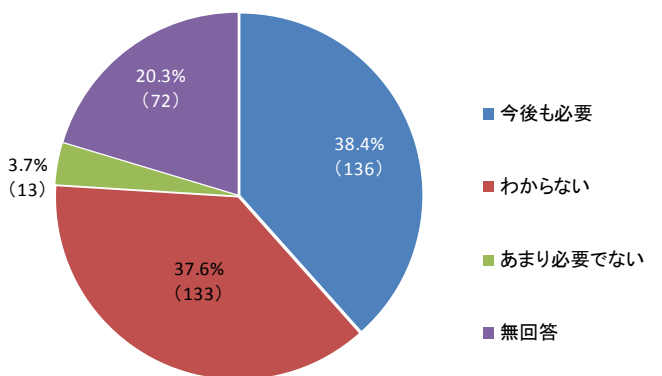
⑳ 良好な住環境形成のための民間開発誘導



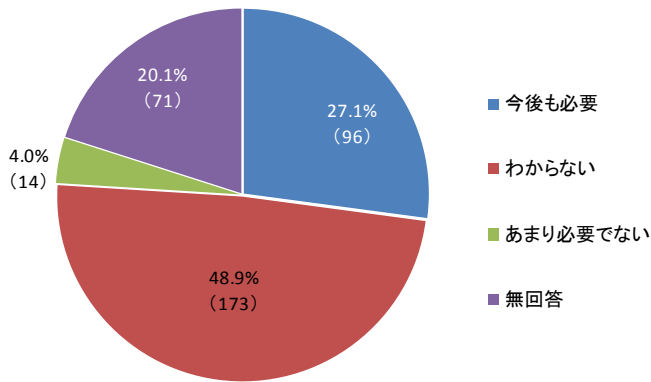
㉑ 住環境の整備



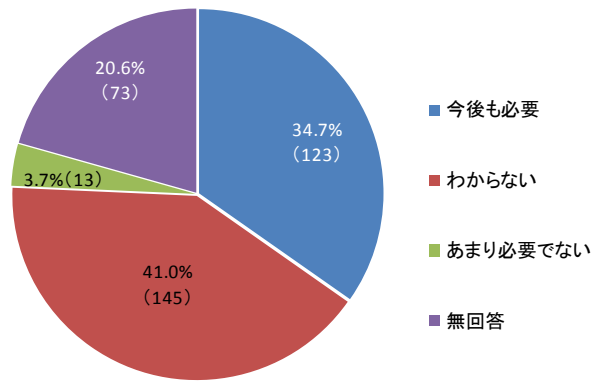
㉒ ニーズに対応した住情報の提供



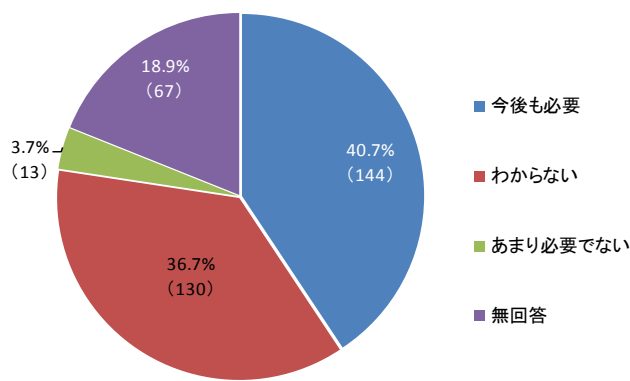
㉓ 民間住宅市場の活性化



㉔ 地方居住ニーズ(移住)への支援推進



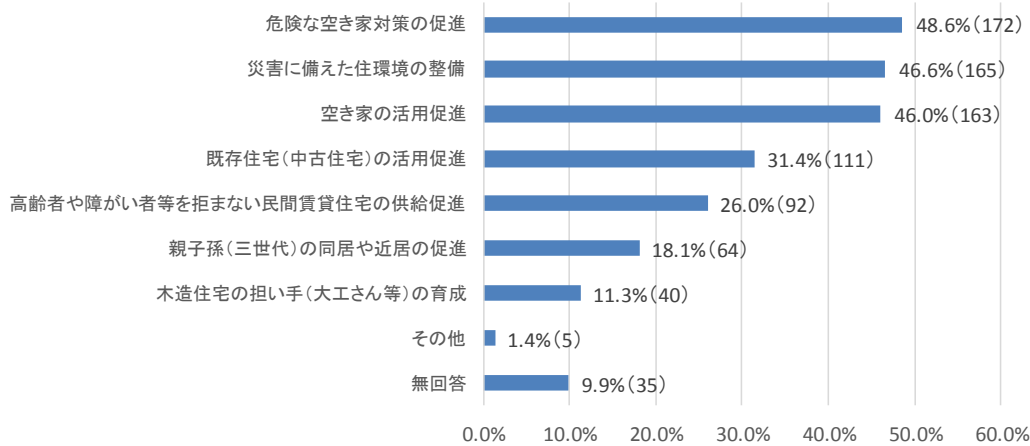
㉕ 企業誘致に対応した市内への定住促進施策の展開



V. 今後の伊万里市の住宅施策についておたずねします。

【問 14】「問 13」の現在の伊万里市の住宅施策のほかに、必要だと思う取り組みは何ですか。必要と思うもの3つまで選んで○をつけてください。(N=354)

「危険な空き家対策の促進」(48.6%)、「災害に備えた住環境の整備」(46.6%)、「空き家の活用促進」(46.0%) の回答がほぼ同程度となっている。

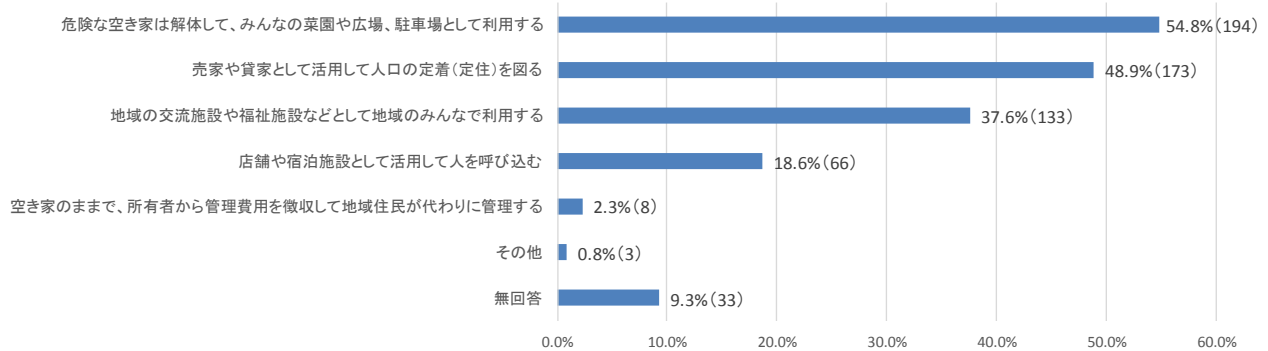


■年齢別・地区別集計

年齢別	地区別	サンプル数	施策								
			の親子孫(三世代)の同居や近居	災害に備えた住環境の整備	既存住宅(中古住宅)の活用促進	空き家の活用促進	危険な空き家対策の促進	等)の木造住宅の担い手(大工さん)	民間賃貸住宅の供給促進	高齢者や障がい者等を拒まない	その他
全体		100.0 354	18.1 64	46.6 165	31.4 111	46.0 163	48.6 172	11.3 40	26.0 92	1.1 4	9.9 35
年齢別	20歳代	100.0 29	10.3 3	37.9 11	44.8 13	55.2 16	41.4 12	6.9 2	6.9 2	6.9 2	13.8 4
	30歳代	100.0 36	25.0 9	58.3 21	25.0 9	41.7 15	50.0 18	11.1 4	30.6 11	2.8 1	2.8 1
	40歳代	100.0 50	6.0 3	48.0 24	36.0 18	44.0 22	48.0 23	8.0 4	28.0 14	-	12.0 6
	50歳代	100.0 55	18.2 10	43.6 24	47.3 26	49.1 27	47.3 26	12.7 7	36.4 20	-	3.6 2
	60歳代	100.0 103	19.4 20	53.4 55	24.3 25	47.6 49	52.4 54	12.6 13	23.3 24	-	9.7 10
	70歳以上	100.0 78	24.4 19	35.9 28	25.6 20	43.6 34	48.7 38	11.5 9	24.4 19	1.3 1	15.4 12
	居住地区別	伊万里地区	100.0 55	14.5 8	38.2 21	41.8 23	50.9 28	36.4 20	1.8 1	32.7 18	1.8 1
牧島地区		100.0 11	27.3 3	27.3 3	27.3 3	45.5 5	38.4 4	9.1 1	45.5 5	-	9.1 1
大坪地区		100.0 41	9.8 4	46.3 19	39.0 16	58.5 24	46.3 19	4.9 2	34.1 14	2.4 1	4.9 2
立花地区		100.0 50	18.0 9	48.0 24	28.0 14	42.0 21	50.0 25	16.0 8	18.0 9	4.0 2	8.0 4
大川内地区		100.0 15	6.7 1	46.7 7	26.7 4	33.3 5	53.3 8	13.3 2	33.3 5	-	26.7 4
黒川地区		100.0 19	31.6 6	42.1 8	15.8 3	47.4 9	57.9 11	10.5 2	36.8 7	-	10.5 2
波多津地区		100.0 17	17.6 3	47.1 8	17.6 3	41.2 7	64.7 11	5.9 1	17.6 3	-	11.8 2
南波多地区		100.0 18	27.8 5	22.2 4	38.9 7	33.3 6	27.8 5	38.9 7	22.2 4	-	16.7 3
大川地区		100.0 19	27.8 5	38.9 7	22.2 4	44.4 8	72.2 13	11.1 2	11.1 2	-	11.1 2
松浦地区		100.0 14	35.7 5	64.3 9	28.6 4	64.3 9	57.1 8	-	7.1 1	-	-
二里地区		100.0 29	20.7 6	51.7 15	51.7 15	51.7 15	41.4 12	13.8 4	13.8 4	-	6.9 2
東山代地区		100.0 29	13.8 4	69.0 20	37.9 11	44.8 13	51.7 15	24.1 7	24.1 7	-	-
山代地区		100.0 36	13.9 5	55.6 20	11.1 4	36.1 13	58.3 21	8.3 3	33.3 12	-	13.9 5

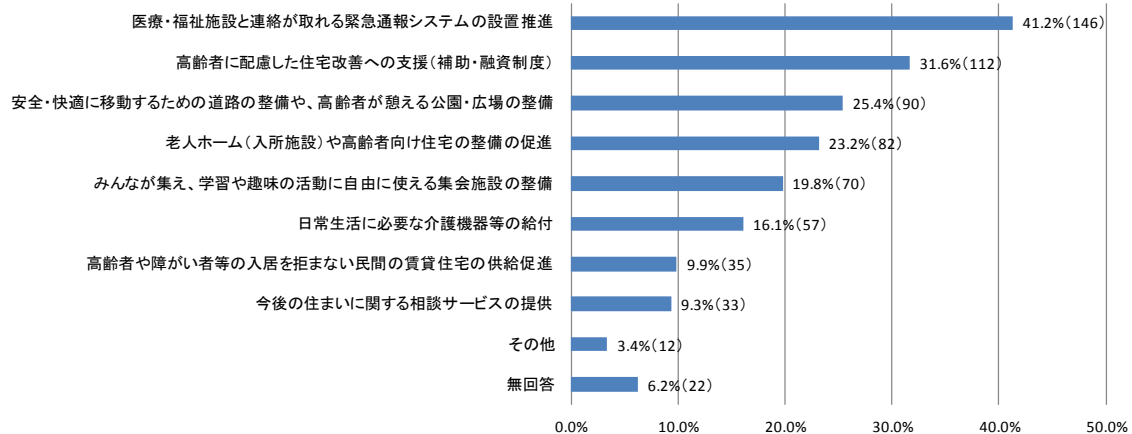
**【問 15】 地域の空き家を住民自ら活用していく場合、どのようにして取り組むべきだと思いますか。必要と思うもの2つまで選んで○をつけてください。(N=354)**

「危険な空き家は解体して、みんなの菜園や広場、駐車場として利用する」が最も多かった(54.8%)。次いで「売家や貸家として活用して人口の定着(定住)を図る」(48.9%)、「地域の交流施設や福祉施設などとして地域のみみんなで利用する」(37.6%)の順に多かった。



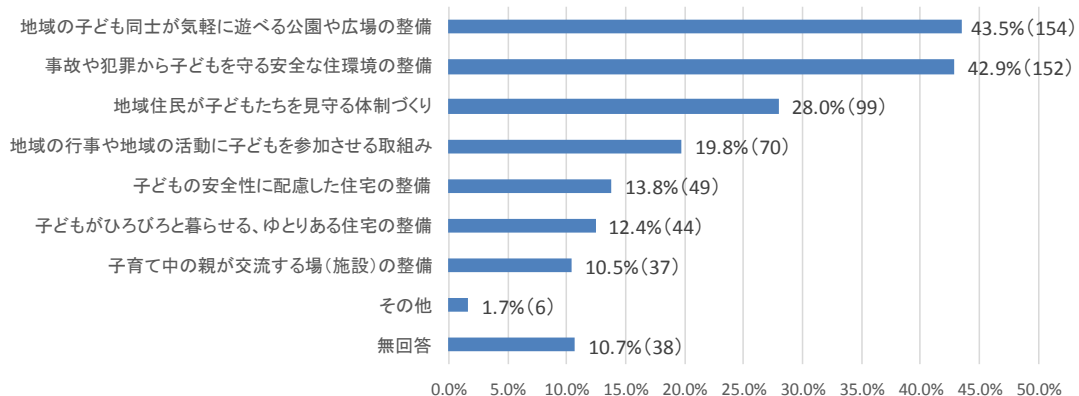
**【問 16】 高齢者が安心して暮らすために、どのような取組みが必要だと思いますか。必要と思うものに2つまで○をつけてください。(N=354)**

「医療・福祉施設と連絡が取れる緊急通報システムの設置推進」が最も多く、全体の41.2%を占めている。次いで「高齢者に配慮した住宅改善への支援(補助・融資制度)」が31.6%の回答があった。



**【問 17】 子育て世代が安心して暮らせるために、どのような取組みが必要だと思いますか。必要と思うものに2つまで○をつけてください。(N=354)**

「地域の子ども同士が気軽に遊べる公園や広場の整備」(43.5%)と「事故や犯罪から子どもを守る安全な住環境の整備」(42.9%)がほぼ同程度であった。



## 資料3 用語集

用語	解説
あ行	
インスペクション (建物検査)	中古住宅売買時に建物品質の劣化状況に対する購入者の不安を解消するため、住宅の基礎、土台、柱、梁といった構造耐力上主要な部分や雨水の浸入を防止する部分等の現況について、建築士等の第三者が行う調査。中古住宅の流通促進に向けて、国土交通省が「既存住宅インスペクションガイドライン」を策定するなど、普及を図っている。
さ行	
住宅ストック	ある一時点における、すべての住宅の数。
住宅セーフティネット	経済的な危機に陥っても最低限の安全を保障する社会的な制度や対策の一環として、住宅に困窮する世帯に対する住宅施策。
新耐震基準	1981年（昭和56年）6月1日以降の建築確認において適用されている基準。震度6強～7程度の揺れでも倒壊しないような構造基準として設定されている。
た行	
特定空家等	倒壊等著しく保安上危険となる恐れ、著しく衛生上有害となる恐れ、著しく景観を損なっている状態など、放置することが不適切な状態にある空き家（その敷地を含む）のこと。
は行	
ヒートショック	急激な温度変化により体が大きな影響を受ける事。リビングと脱衣所、トイレ、浴室と脱衣所など温度変化の激しいところを移動することにより、体が温度変化にさらされ血圧が急変し、脳卒中や心筋梗塞などを引き起こす可能性がある。
ら行	
リフォーム・リノベーション	老朽化した建物を新築の状態に戻すための修繕等が「リフォーム」であるのに対し、「リノベーション」は既存の建物に大規模な工事を行うことで、性能を新築の状態よりも向上させたり、価値を高めたりすることを指す。



---

## 伊万里市住生活基本計画 平成 30 年 3 月

佐賀県伊万里市役所 建設部 都市政策課 建築住宅係

〒848-8501 佐賀県伊万里市立花町 1355-1

TEL (0955) 23-2111

FAX (0955) 22-4562

---





